

1987年4月1日発行 1冊200円（税込） 4月1日発行 1冊200円（税込） 1987年4月1日発行 1冊200円（税込）
MAGAZINE FOR REAL MOTORCYCLISTS

ライダーズ

臨時増刊

MFJ国内競技規則

1987年版

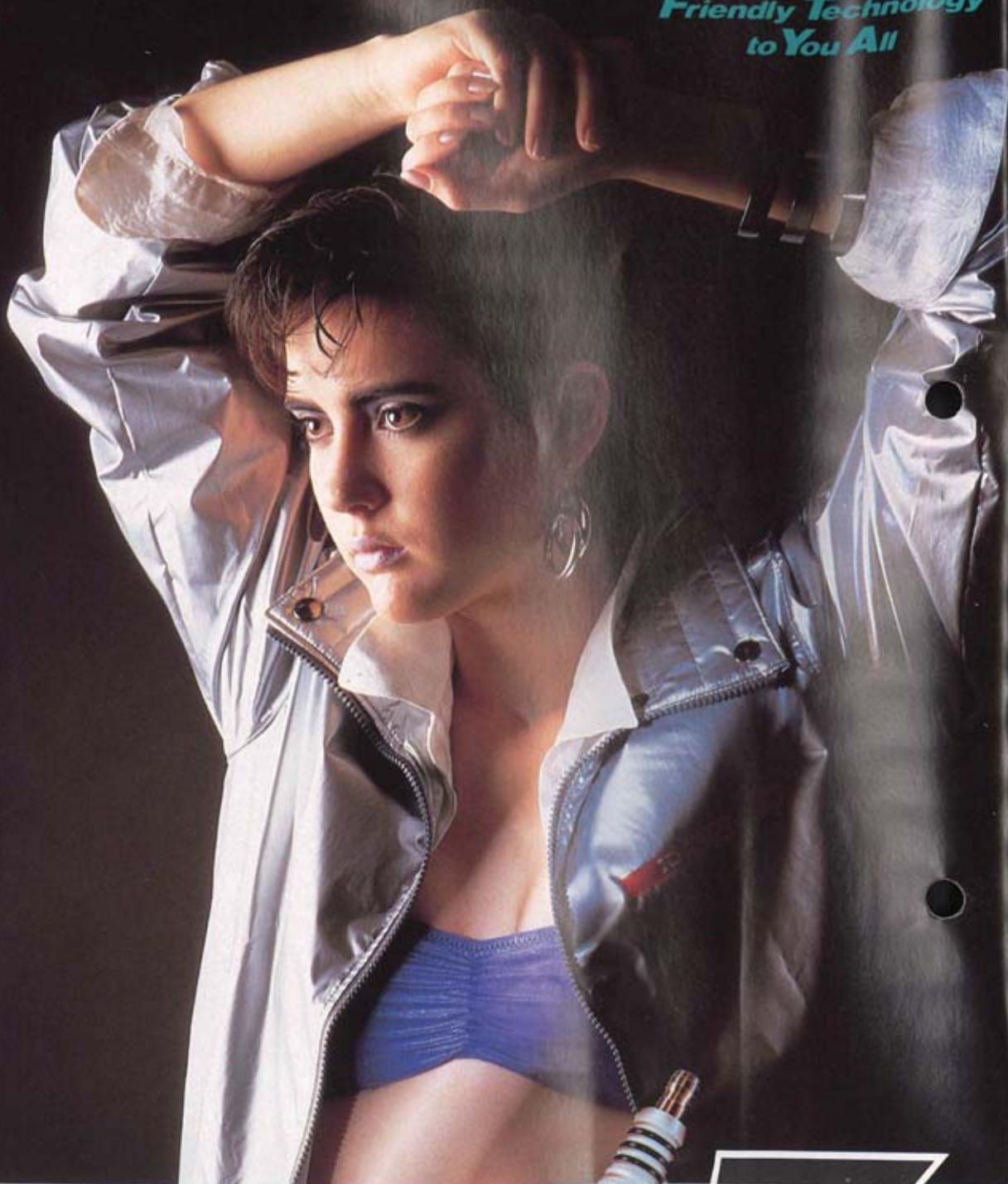


日本モーターサイクル協会



Friendly Technology
to You All

ヴェイヴェイツドレスポンス



加速レスポンスが違う!

高性能プラグ

プラチナ特殊合金
中心電極

プラチナ特殊合金の超極細中心電極(0.7φ)使用により、飛火性を向上。接合部はレーザー3点溶接により、すぐれた信頼性を発揮します。

テーバーカット
接地電極

従来のU溝カットをさらに極めたテーバーカット接地電極の採用により、消炎作用を低減させ、着火性を向上。絶妙の加速レスポンスと高出力を実現しました。



ZU

DENSO

SPARK PLUGS

日本電装株式会社

〒448 愛知県刈谷市昭和町1-1 TEL 0666/22-3311

カタチには、理由がある。「形状」

そのサーキットタイヤの形状は、その性格を決定する重要な要素だ。たとえば、最新のタイヤではますます広くなるトレッド部分について考えてみよう。

注意深く観察すればすぐわかるように、タイヤの断面は単純な円型ではなく、上下に押しつぶされた扁平なカタチが多くなつた。そして、そのタイヤのビード部、リム部の幅よりもトレッドの幅は一段と広くなっていることわかる。実は、そのトレッド幅の広さ（半種）を持っているかという点、つまりクラウン形状こそがハンドリング特性に大きく影響しているのだ。

単純に考えれば、クラウンのRが大きければ接地面積が増え、加速、ブレーキング、コーナリング時のグリップも良くなりやすい。しかし、ネガティブな要素も出てくる。たとえば、接地面積が広いほど路面のうねりや、凸凹に合うと接地面がずれるためにマシンを揺らつかせやすい。また、単体がバンクしているわりに実際のキャンバー角が

少ないので、思ったほど曲がらないということになる。

バトラックスBT-08Sでは、このクラウン形状にふたつの異なるRを組み合わせ、直進からフルバンク時まで接地面積をほぼ一定に保つ工夫がされている。それがレーシング、パフォーマンスを極めたコーナリング特性であり、エンジンパワーを余すことなく路面に伝える加速性能であり、ブレーキの能力を強烈な減速性能に換える減速性能なのだ。このことは、単にグリップ性能を向上させるだけでなく、バンク角が深くなり、限界に近くなるまでのハンドリング過渡特性をおだやかなものにしてくれる。

バトラックスBT-08S、そして絶妙なコンビネーションのBT-07Sは、どのサイズをとってもストリート走行に最適なクラウン形状を持っている。もちろん、サーキットを走っても、見た目にはさりげなく、しかし実はカタチを極めたハイテクノロジータイヤ。キミも、ぜひこのカタチにこだわって欲しい。



BATTLAX from BRIDGESTONE MOTORSPORT

レーシングパフォーマンスを追求したロードキープ

サーキットで生まれ、サーキットで磨かれたハイグリップ特性。
● ALL ROUNDでマッチング

BT-07S / BT-08S

レーシングパフォーマンス

新設計J.P.バンクとZOC構造採用。
ロングライフ&ハイグリップを両立。

BT-11 / BT-12 ZOC

サクト
SACT構造採用

● ZOC構造 (STRAIGHT AND SUPINE TECHNOLOGY)
● 121/124溝
● 特許出願中

MOTORCYCLE ROAD RACE TIRES

DRY SLICK INTERMEDIATE WET WET 新登場

※本タイヤはロードレース専用タイヤです。一般公道では、走行出来ません。

HONDA

it's Ho

基本設計はHR

HRC = Honda Racing Corporation. 世界の数々のレースで、つねにワークスマン達の最高のパフォーマンスを創りだしている。

HELLO! GOOD RIDER

身につけよう。安全走行のためのルールとマナー。

- ヘルメットを正しくかぶりましょう。 ●点検整備を忘れずに。 ●安全のため改造はやめましょう。
- 心にゆとりのもてるスピードで走りましょう。 ●カーブではスピードをひかえめに。
- 道越しは余裕をもって。 ●自分を目立たせるため、早朝・夕方「ヘッドライト早め点灯」を。

Honda Racing

C. ワークスの味を理解できるマイノリティのために。

レーシングマシンに限りなく近づくこと。これがNSR250Rに課せられた命題であった。事実、2サイクルの頂点をめさしたエンジンをはじめフレーム・足まわりに至るまですべてが従来のスーパーハースポーツの域をはるかに超えた次元のマシンだ。例えばアルミツインチューブによるフレーム、エンジンのリジッドマウントと相まって驚異ともいうべき高い剛性と軽量化を達成している。またフローティングディスクをダブル装着したフロントブレーキなど、限界点を一段と高めたスハルタンな走りを実現。HRCレーシングスタッフの心意気がスミスミにまで息づくNSR250R。高性能を超えて、純性能。いま(2ストローク・エホック) ●ワークスと同じエンジンコンセプト[前傾・90度V型2気筒一軸クランク] ●ワークスと同方式、吸入効率の高いクランクケースリードバルブ ●スーパーレキシビリティーを発揮する新開発RCバルブ(コンピュータ制御による可変排気孔システム)

主要諸元 ●型式MC16 ●全長2,035mm × 全幅705mm × 全高1,105mm ●車両重量141kg ●乾燥重量125kg ●燃費41km/ℓ ●50km/h定地走行テスト値 ●水冷2サイクル・クランクケースリードバルブ90度V型2気筒・249cm³ ●最高出力45PS/9,500rpm ●最大トルク3.6kg-m/8,500rpm ●点火方式:無接点式CDI ●6段リターン変速 ●ブレーキ形式:前:油圧式ダブルディスク 後:油圧式ディスク ●タイヤサイズ:前:100/80-17 52H 後:130/70-18 63H ●車体色:ファイティングレイト/ロスホワイト 標準現金価格 ¥559,000 (税別) ●送料は別途見積り



2ストローク・エホック

新登場

NSR 250 R

■ マナーは心のルールです。大切にしましょう。
道を譲られた時には、「ありがとう」の合図を忘れずに。
ちょっとした心づかいが、気持ちのよい走りをつくれます。

It's Honda Racing NSR250R, VTR.

HRCのレーシングテクノロジーが創造した、いま最も新しい2サイクルスーパー
スポーツ「NSR250R」の魅力を紹介した、VTR(約13分)です。ご希望の方は住
所・氏名・電話番号を明記し、封筒はVHS方式か多量ご記入の上、現金書留に
て下記宛先、お申し込み下さい。 ●価格: ¥47,000(送料別) ●宛先: 〒107
東京都港区赤坂5-3-6 TBS映画社「NSR250Rビデオショールーム係」



ウィルダネスの手応え。

大自然の懐で、セローはさらに強さと優しさを身につけた。



険しい山肌を縦横無尽に駆け回るヒマラヤカモシカSEROW(セロー)。その名を冠して誕生した新しいトレールマシンは、ト
た数々の装備で、ウィルダネスのさらに奥深くへ踏み込むことを可能とした。そしていま、大自然の懐に抱かれて、そのカモシカに
な変化にも常に安定したパワーを引き出す新設計キャブレターをはじめ、走行条件に応じて適切なクッション特性を選べる3段
フロントに標準装備するなど、トレールランのポテンシャルを一段と高めて新登場、マウンテントレールセロー225。—また一步、"大

●4ストローク・OHC・単気筒223cc ●最高出力20ps/8,000rpm ●最大トルク1.9kg・m/7,000rpm ●点火方式C.D.I. ●リターン式6段 ●乾燥重量
ビンダアジャストシステム R: リンクタイプモノクロスサスペンション ●ボディカラー: ホワイト/フォレストグリーン、ホワイト/コンペイエロー ●標準現金価格

HAVE A NICE RIDE! ナイスライディングをよろしく。 ■ヘルメットを正しくかぶりましょう。 ■点検・整備を忘れずに。
■安全のため改造はやめましょう。 ■騒音防止のため不必要なからぶかしはつしみましょう。

●マナーを守って走行しましょう。動植物など自然への配慮を忘れずに。 ●安全速度で走りましょう。無理な追い越しはやめましょう。 ●カーブではスピードをひかめに。 ●よく見る、よく見られることに努めましょう。
●早朝・夕暮れは早めにヘッドライトの点灯を。 ●YRSで正しいライディングテクニックをマスターしましょう。

カタログご希望の方は機種名・雑誌名を明記のうえ、郵便切手170円を添えて 〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社 広報室室任課まで。

人間にいちばん近い乗りものなんだ。

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社



ール本来の機能をつきつめ
大きく成長。車体姿勢の大き
著ダンピングアジャスターを
なる自然の真髄に近づける。

03kg ●サスペンション F:ダン
¥339,000(北海道および沖縄を除く)



MOUNTAIN TRAIL
SEROW 225

ONandOFF

好評放映中

●テレビ東京・テレビ愛知・テレビ大阪・テレビせとうち/毎週金曜日 11:30P.M.~11:45P.M.
●バイクとマリンスポーツの総合情報TV番組 ●静岡放送/毎週日曜日 5:15P.M.~5:30P.M.

「美」が性能を物語る。

シェイプアップした肉体を思わせ
溶け合い、したたかな機能美を
この矛盾した要求に見事に
応 高性能は美しい!
——GPXテクノロジー——



750 POWER ENGINEERING

●エボニー×パールコスミックレー
(ツートンカラー)



●パールアルベンホワイト×ジェントリーコール
(ツートンカラー)



●水冷4
(バランス
仕様)

Ride in Good Manners.

●ヘルメットを正しくかぶりましょう。●点検・整備を怠れず。●安全のため改造はやめましょう。

安全に走るための心がけ、ルールとマナー

★安全速度で走りましょう★カーブではスピードをひかえめに★無理な追い越しはやめましょう★十分に確認し、確認されるよう努めましょう★早朝、夕方は早めにヘッドライトの点灯を★いつもふさわしい服装で乗りましょう

スピードな
選定機

●カワサキ純正部品は、カワサキ特約店でお願いします。

カワサキではカワサキ特約店と提携したスピードな部品流通体制を構築しています

安心と信頼の
サービス

●カワサキオートバイのお求めは、お近くのカワサキ特約店へ。

る無駄のないライン。フラッシュサーフェスデザインはフィジカルな高性能と見せる。如何にコンパクトにするか、如何に迫力を持たせるか、えた時、ひとつの「美」が完成する。

Kawasaki
カワサキオートバイ販売株式会社



高性能スタイリング

GPX 750R

●トルク4気筒・DOHC16バルブエンジン ●最高出力77ps/9,000rpm ●最大トルク7.0kg・m/6,500rpm ●FAST FRAME(フェッサーウェイト・アロイ&スチールテクノロジー・フレーム) ●BAC・アクチュエーション・キャリアー 採用前後ディスクブレーキ ●ESCS(エレクトリック・サスペンション・コントロールシステム) ●標準現金価格 ¥799,000(北海道及び沖縄を除く) ●諸元は予告なく変更することがあります

便利で安心、カワサキ・グリーンカードをお持ちですか？

「カワサキ・グリーンカード」は、全国のグリーンショップで部品・用品等のご購入、修理・車検費用のお支払いにご利用いただける便利なカードです。また、カード会員さまをグリーンショップにおけるVIPライダーとして、修理・整備などを最優先させていただきます。カードショッピングと万一の故障や事故にも大きな安心をお約束するカワサキ・グリーンカードのご入会お申込みは、最寄りのグリーンショップで只今受付中です。

●カワサキご希望の方は、必要車種名を明記し170円切手を同封の上、〒673 明石市川崎町1-1 カワサキオートバイ販売株式会社(カワサキ)までお送りください。



BACK TO CIRCUIT

油冷パワーは、どこまでロードを席卷するのか。R750は、

油冷(SACS)エンジン、乾燥重量179kgの超軽量車体、そしてMR-ALBOXフレーム。これらのスペックに魅了され、R750のオーナーへの道をめざしたライダーは数多い。そしていま、R750はラジアルタイヤの装着、フェアリング形状のリファインなど、新たな戦闘力を身につけ、ライダーの憧憧をさらに強くする。誰がこの独走を制止できるのか、R750は静かにライバルの登場を待つ。

GSX-R750の主なスペック

- 鮮やかなカラーは、レッドフルー/ホワイトフルーの2タイプ
- アンダーカウル形状の変更により、さらに整流効果を高められたニューファンフェアリング。
- 耐摩耗性とクリップクを両立した、前後18インチラジアルタイヤ。
- ブッシュキャンセル式となり、さらに機能性を向上したウインカースイッチ。
- 冷却効率の向上とエンジンコンパクト化に貢献するSACS(Suzuki Advanced Cooling System)。
- 最高出力77kw/9,500rpm、最大トルク6.4kgm/8,000rpmを発揮するDOHC16バルブニューTSCCエンジン。
- 軽量・高剛性を追求したMR-ALBOXフレーム
- 操縦安定性と乗り心地を向上させるE-フルフローターセメンション。
- 強力かつコンパクトなラブル、DPBS(Deca Piston Brake System)。

**ONE
FOR ONE**
味わいと個性、賢いスズキ

ライダー・サイクルに乗るためのマナーとルールを守ろう、身につけよう/安全運転。

- ★ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ★点検、整備を忘れずに。
- ★安全のため改造はやめましょう。



は独走の域へ。

●制動時の安定性を確保するフローティングリンク
●前輪へのあらゆる荷重に対応する
PDF (Positive Damping Fork)
●さらに明るさを増したヘッドライト。60/55Wのハロゲンバルブを使用
●標準のスペック、乾燥重量173kg。

標準現金価格
¥780,000
(北海道・沖縄および
一部離島を除く)

HYPER ENDURANCER GSX-R750

●安全速度で走りましょう。
●車間距離は余裕をもって。
●合図は早めに行ないましょう。

●一時停止は正確に。
●カーブではスピードをひかえめに。
●早朝・夕暮れは早めにライトの点灯を。

カタログご希望の方は、雑誌名を明記し、切手170円分を同封の上、〒432静岡県浜松市外高塚300 鈴木自動車工業㈱ スズキインフォメーションセンター・GSX-R750 デスクへ。



レースに呼吸する、MFJ公認ヘルメット。

アスファルトで、ダートで、セクションで、
すべては極限で呼吸をはじめ。
MFJ公認SHOEIヘルメット。



エアロダイナミクスを
究めたフラッシュサーフェイスフォルム

GX-1
●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



通商産業省選定
グッドデザイン商品

ON ROAD ¥35,000

GX-2 ●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RF-VESTA ●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ブラック、ディープシルバー
●ベース・ブラックベース・ディープシルバーベース
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RF-ZEAL ●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ブルー、スレート
●ホワイトベース・ブルーベース
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



アスファルトの訴求力
ON ROAD

RF-GARDNER-II ●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト
●ベース
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RF-102V ●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック
●ディープシルバー
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



GR-Z ●スネル規格MBS、JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、シルバー
●カーボン
●ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



フィールドの駆動力
ON/OFF ROAD

VJ-1 ●JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、ブラック
●ファイバーグラス複層構造



VX-2 ●JIS規格C種(MFJ公認)
●カラー:ホワイト、ファイヤーレッド、イエロー、ブルー、グリーン
●ファイバーグラス複層構造



ダートの躍動力
MOTOCROSS

セクションの瞬発力
TRIAL



性能を走行美にまで高めた、走りのアート

オンロード・オフロードで
精悍なデュアルユースヘルメット

Z-100V
ON ROAD ¥39,500

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: パールホワイトベース, ファイヤーレッドベース, ブラックベース, ティープシルバースペース
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造

VT-1R
ON/OFF ROAD ¥22,500

- JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイト, ファイヤーレッド, イエロー, グリーン
- ファイバーグラス積層構造

通商産業省選定
ワットデザイン商品

通商産業省選定
ワットデザイン商品

RF-α
¥36,000

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイトベース, ブラックベース
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造

RF-STELLAR
¥37,000

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイトベース, ブラックベース
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造

RF-VOGUE
¥35,000

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイトベース, ブラックベース, ブルー, ブラックベース
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造

TASK-FIVE-V
¥34,000

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイトベース, ファイヤーレッドベース
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



RJ-101
¥18,000

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイト, ファイヤーレッド, ブラック, シルバー
- ファイバーグラス複合積層構造

TJ-201V
¥24,000

- JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイト, ファイヤーレッド, ブラック, ティープシルバースペース
- ファイバーグラス複合積層構造

SR-X7
¥12,500

- JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイト, ファイヤーレッド, ブラック, シルバー
- サイズ: 4種4サイズ
- ファイバーグラス複合積層構造

GR-X
¥32,000

- スネル規格M85, JIS規格C種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイト, シルバー
- ケブラー&ファイバーグラス複合積層構造



TR-2P
¥19,500

- JIS規格B種 (MFJ公認)
- カラー: ホワイト, ファイヤーレッド
- ファイバーグラス複合積層構造
- 別売バイザー-V-140は¥1,500です。



SHOEIのヘルメットのサイズは、S、M、L、XLの4サイズです(一部除く)。下記の数字を目安に、ジャストフィットのものをお選びください。
S(55-56cm), M(57-58cm), L(59-60cm), XL(61-62cm)

- ヘルメットの高ごひもはしっかり締めましょう。カウリング時にはシナーが内装を傷まないように、マスキングしてください。また、乾燥のため50℃以上の熱を必要とする塗料はかけてください。
- 安全性確保のため、改造はしないでください。特に、内装のライナー(発泡スチロール)をたいたり、けずったりすることは絶対にしないでください。
- カatalogご希望の方は、郵便切手170円を添えて、本社までお送りください。
- 部品、修理、その他ご要望、ご質問等は最寄りの営業所サービス課までお問い合わせください。

明栄化工株式会社
 本社/東京支店 東京都港区新橋2-9-2 錦田ビル下105号 (03)502-0301
 大阪支店 (06)451-6000 九州営業所 (092)411-7048 仙台営業所 (022)246-0155
 名古屋営業所 (052)703-3171

For better
concentration.

SHOEI

TOKYO
LOS ANGELES
ANTWERP

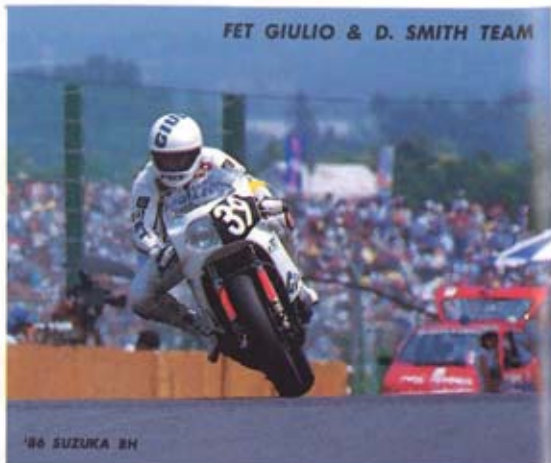


Challenging Spirit, GIULIO

*Exhaust sound still remaining in ears.....
Palms remembering the vibration of a
moment ago..... Just leaving everything
in reverberations..... Calm and peaceful.....*

GIULIO

FET GIULIO & D. SMITH TEAM



'86 SUZUKA BH



予想をはるかに超える自由がある。

よく「頭のカタイ人間だ」という言葉が使われる。多分、物事に対してある種の固定観念を抱き、自由な発想や創造性に乏しい人のことをいうのであろう。これでは人の個性は伸びない。固定観念を破り捨ててこそ、自分の流儀をはばたき光り始める。実はポムスも自由な発想の産物である。自分の好みや感性を自由に遊ばせて個性を主張するヘルメットを創り上げる、という革新的機能は、いくつかのリベラルなパフォーマンスをそなえている。キー操作だけで、画面のヘルメットに色を選んで入れていける。理想のヘルメット像に近づく過程で、クリエイティブ

ワークができる。2億5千万通りのバリエーションに挑むことで、イマジネーションが面白いほど広がる。そして実際にしたときに、優越感や満足感以外に自分の流儀を忠実に語ってくれるパートナーへの友情みたいなものまで生まれてくる。風と、スピードと、ロードを愛してきた男をひとときアーティストに変えてしまうポムス。キミの予想を超える自由がここに存在する。最新のテクノロジーと、世界のサーキットから得たノウハウをフィードバックし熟成させたオーダー・ヘルメットシステム、ポムス。いま、アライから感性豊かなすべてのライダーに贈りたい。

ポムスは、この差で主張する。—③—



フロントマークをセレクトできるのもポムス自慢のパフォーマンス。

- 画面の指示に従ってキーを押すだけの手軽さ。デザインパターン、カラー、パーツが、イメージを確認しながら自由に選べます。
- 画面を見ながら、色を塗りかえたり、やり直しOK。納得のいくまで何回でも繰り返し検討できるから、初めてでも安心です。
- ローマ字11文字まで、オリジナルネーム入れが可能。
- アライ製約ライダーが手にするものと全く同じ仕上りクオリティ。



●ポムスの操作は自由。気軽にさわって楽しんで下さい。この詳細の
の店へどうぞ。●ポムスに関するお問合せは、**ポムス**アライヘルメット
〒330 埼玉県大宮市東町2-12 TEL (0486) 41-3625

夢で終わらせてほしくない、キミのイマジネーション。
POMS **Arai**
PERSONALIZED ORDER MANAGEMENT SYSTEM

SIGNAL FLAGS

信号旗

(合図旗および合図)

競技中、大会役員が次の信号旗(フラッグ)を示した場合、各ライダーはこの旗の指示に従わなければならない。ロードレース部門は付則1.4合図旗および合図(34頁)参照。



国旗

競技スタート(シグナルの緑およびスターティングマシンでも示す)。



赤旗

全ライダーの走行停止。ライダーはスピードダウンし、コースわきに安全に停止する。



青旗

追越車あり、進路をゆずれ。走行ラインを後続車に譲る。



緑旗

先に示した合図は解除。



黄旗縦縞の赤旗

コース上にオイルあり、注意。



黄旗

前方注意。振られた場合はコース上に重大な危険あり。徐行、安全確認、追越し禁止。



黒旗

指示されたライダーは走行停止せよ。そして近くにいる競技役員の指示を受ける。



白旗

コース上に救急車あり、注意せよ。



チェッカー旗

レース終了。ゴールイン。

レースナンバープレート・ライセンス識別カラー

ロードレース

- 前面：タテ 235mm × ヨコ 285mm
- 側面：タテ 250mm × ヨコ 300mm



Bロード(前面)



ノービス(側面)



ジュニア(前面)



国際A級(側面)

モトクロス

タテ 235mm × ヨコ 285mm



Bライセンス



ノービス



ジュニア



国際B級



国際A級(125cc)



国際A級(250cc)

トライアル

タテ 150mm 以上 × ヨコ 175mm 以上



ノービス



ジュニア



国際B級



国際A級

注：タテ×ヨコの数字は、ナンバープレートの寸法を示す。また、数字の書体はFIMの指定に基づくMFJの正規のものである。

ヘルメットのMFJ公認マーク

※MFJ公認ヘルメットでMFJ公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。



ロードレース特選



ロードレース用
モトクロス用



トライアル用
ツーリング用

- 16 信号旗/レースナンバープレート・ライセンス識別カラー
 18 MFJ全国組織
 23 総則・'87MFJ国内競技規則/総則
 34 付則1・ロードレース *22頁 200頁*
 39 付則2・ロードレース車両規定 *202頁*
 49 付則3・'87全日本選手権大会特別規則 *40 62 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000*

1987年度版 MFJ 国内競技規則 目次

- 83 付則8・全日本選手権ランキング決定基準/ライセンス昇・降格規定
 87 付録
 87 MFJ競技役員規程
 90 ミニバイクレース規則
 94 MFJ公認車両・FIMTTフォーミュラ公認車両・公認部品・公認トライアルタイヤ・公認ヘルメット
 97 歴代チャンピオンリスト
 98 MFJ共済会・指定保険制度

日本モーターサイクル協会

MFJ全国組織



●昭和61年11月20日現在

●()内は兼任

札幌・旭川・釧路

北海道

帯広・北見・函館

北海道プロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所		〒065 北海道札幌市東区東五条3条1丁目4番3号	011-782-1492
〃 会長	和田庄太郎	〒061-01 北海道札幌市豊平区月寒東1条17丁目1-55 北日本ホンダ販売㈱内	011-854-8574
〃 事務局長	川山力吉	〒065 北海道札幌市東区東五条3条1丁目4番3号	011-782-1492
〃 スポーツ委員長	船谷 彦	〒062 北海道札幌市豊平区豊平3条10丁目1-20 ㈱アマモーターサイクル内	011-823-1980
〃 ロードレース部会長	藤田敏広	〒060 北海道札幌市中央区大通南6丁目 本田技研工業㈱内	011-251-9231
〃 モトクロス部会長	井上栄一	〒063 北海道札幌市西区琴似1条5丁目 第1生命ビル 北海道ヤマハ㈱内	011-612-1060
〃 トライアル部会長	(船谷 彦)	〒062 北海道札幌市豊平区豊平3条10丁目1-20 ㈱アマモーターサイクル内	011-823-1980
〃 レジャースポーツ部会長	廿日岩修次	〒065 北海道札幌市東区東五条1丁目 株式会社自販北海道内	011-721-8311
〃 スノーモビル部会長	(井上栄一)	〒063 北海道札幌市西区琴似1条5丁目 第1生命ビル 北海道ヤマハ㈱内	011-612-1060
札幌モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒065 北海道札幌市東区東五条3条1丁目4番3号	011-782-1492
〃 会長	和田庄太郎	〒061-01 北海道札幌市豊平区月寒東1条17丁目1-55 北日本ホンダ販売㈱内	011-854
〃 事務局長	伊藤福治	〒065 北海道札幌市東区東五条3条1丁目4番3号	011-782
〃 スポーツ委員長	船谷 彦	〒062 北海道札幌市豊平区豊平3条10丁目1-20 ㈱アマモーターサイクル内	011-823-1980
旭川モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒070 北海道旭川市1条通5丁目右7号 ㈱旭川商會内	0166-22-7301
〃 会長	堀川悦郎	〃	〃
〃 事務局長	石沢辰義	〃	〃
〃 スポーツ委員長	奥家敦範	〒078 北海道旭川市栄山2条12丁目 ㈱ホンダ道北	0166-47-1561
釧路モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒084 北海道釧路市鳥取大通5-1-1 釧路地区軽自動車協会内	0154-51-0745
〃 会長	茂野正義	〒084 北海道釧路市星力通南1-3-51	0154-51-1475
〃 事務局長	阿部哲也	〒084 北海道釧路市鳥取大通5-1-1 釧路地区軽自動車協会内	0154-51-0745
〃 スポーツ委員長	能代谷善徳	〒084 北海道釧路市鳥取大通4-4-1	0154-53-0025
帯広モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒080-24 北海道帯広市西19条北1丁目8番3号 帯広地区二輪車安全普及協会内	0155-33-3154
〃 会長	石原正光	〒080-24 北海道帯広市西22条北1丁目	0155-37-5211
〃 事務局長	広瀬晴美	〒080-21 北海道帯広市西19条北1丁目8番3号 帯広地区二輪車安全普及協会内	0155-33-3154
〃 スポーツ委員長	西河正徳	〒080 北海道帯広市東9条南12丁目8 北道ヤマハ㈱帯広駐在所内	0155-21-5593
北見モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒090 北海道北見市三輪5-13 北見地区軽自動車協会内	0157-24-6130
〃 会長	渡角幸道	〃	〃
〃 事務局長	藤田 智	〃	〃
〃 スポーツ委員長		〃	〃
函館モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒041 北海道函館市亀田本町67番32号	0138-43-1801
〃 会長	藤尾尚司	〃	〃
〃 事務局長	(藤尾尚司)	〃	〃
〃 スポーツ委員長	岩崎定雄	〃	〃

青森・岩手・宮城

東北

秋田・山形・福島

東北プロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所		〒980 宮城県仙台市通町2丁目17-17 H.R.Sササキ内	022-234-4832
〃 会長	緒沢謙一	〃	〃

東北プロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務局長	佐々木健雄	〒980 宮城県仙台市青葉区2丁目17-17 H.R.Sササキ内	022-234-4832
〃	スポーツ委員長	高橋道雄	〃
〃	ロードレース部会長	板橋孝行	〃
〃	モトクロス部会長	(高橋道雄)	〃
〃	トライアル部会長	大友克人	〒982 宮城県仙台市長町3丁目3-9
〃	スノーモビル部会長	藤本 謙	〒980 福島県福島市天神町12-24 藤本モーターズ
青森県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒030 青森県青森市港町2丁目10番13号	0177-42-1477
〃	会長	石越周平内	〒030 青森県青森市稲田3丁目4番2号
〃	専務理事	野呂光正	〒030 青森県青森市大字大野字前田88番地15
〃	事務局長	新山隆悦	〒030-01 青森県青森市大字野沢字沢部180番地
〃	スポーツ委員長	高橋道雄	〒030 青森県青森市大字良館字前田21番地の15
岩手県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒020-01 岩手県盛岡市みたちけ5丁目16番27号	0196-41-6465
〃	会長	中島毅洋	〒020 岩手県盛岡市上田4丁目12番25号
〃	専務理事	玉山廣次	〒020-01 岩手県盛岡市みたちけ5丁目16番27号
〃	事務局長	野中次郎	〃
〃	スポーツ委員長	高橋秀夫	〒020-01 岩手県岩手郡滝沢村大字大釜第22地割字土井尻55
宮城県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒980 宮城県仙台市青葉区2丁目17-17 H.R.Sササキ内	022-234-4832
〃	会長	船越謙一	〃
〃	事務局長	佐々木健雄	〃
〃	スポーツ委員長	西 末男	〃
秋田県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒010-01 秋田県南秋田郡天王町天王字上北野139-2	0188-73-3271
〃	会長	鈴木祐彦	〃
〃	事務局長	三浦 竜	〃
〃	スポーツ委員長	(鈴木祐彦)	〃
山形県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒990 山形県山形市江俣1丁目6番22号 山形県軽自動車会館内	0236-84-9343
〃	会長	佐藤山由	〃
〃	専務理事	羽内 宏	〃
〃	事務局長	江目一正	〃
〃	スポーツ委員長	小松久雄	〃
福島県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒960 福島県福島市古倉字名倉1-1 群馬自動車会館内	0245-46-2577
〃	会長	関 登	〃
〃	専務理事	佐藤三男	〃
〃	スポーツ委員長	佐々木 敏	〒984 福島県二本松市松原216-7 ニホンマツサイクルセンター

東京・茨城・栃木・群馬・埼玉

関東

千葉・神奈川・新潟・山梨・長野

関東プロック協議会事務所		〒108 東京都港区港南3-3-10	03-472-6241
〃	会長	岩田定雄	〒161 東京都新宿区上落合2-28-15 東京スズキ販売内
〃	事務局長	宮城久夫	〒108 東京都港区港南3-3-10
〃	スポーツ委員長	外川一雄	〒108 東京都港区芝5-33-8 三菱自工機スポーツコーナー
〃	ロードレース部会長	神谷 忠	〒352 埼玉県新座市北野1-2-6
〃	モトクロス部会長	村上正司	〒123 東京都足立区江北6-9-6 村上製作所
〃	トライアル部会長	上原保男	〒190 東京都昭島市田中町3-5-23-303
〃	レジャースポーツ部会長	村山栄一	〒151 東京都渋谷区恵比寿2-6-3 村山モーターズ
〃	スノーモビル部会長	高橋和雄	〒949-63 新潟県南魚沼郡湯沢町大字南田中423
東京都モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒108 東京都港区港南3-3-10	03-472-6241
〃	会長	岩田定雄	〒161 東京都新宿区上落合2-28-15 東京スズキ販売内
〃	専務理事	宮城久夫	〒108 東京都港区港南3-3-10
〃	スポーツ委員長	外川一雄	〒108 東京都港区芝5-33-8 三菱自工機スポーツコーナー
茨城県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒310 茨城県水戸市住吉町307	0292-47-5832
〃	会長	石川和夫	〒308 茨城県下館市二本成324
〃	専務理事	大内勝也	〒310 茨城県水戸市住吉町307
〃	スポーツ委員長	小塚文男	〒310 茨城県水戸市住吉町123-3
栃木県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒321-01 栃木県宇都宮市西川田町1664-3	0286-45-0956
〃	会長	岡子豊俊一	〃
〃	専務理事	伊藤富代美	〃
〃	スポーツ委員長	松本栄太郎	〃
群馬県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒379-21 群馬県前橋市野中町578	0272-61-0505
〃	会長	沼原井原次	〒376 群馬県桐生市新橋3-1-11
〃	専務理事	滝沢 又	〒379-21 群馬県前橋市野中町578
〃	事務局長	(滝沢 又)	〃
〃	スポーツ委員長	下田敬嘉	〒371 群馬県前橋市高井町1-32-22
埼玉県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒331 埼玉県大宮市大字中町2082	0486-24-1221
〃	会長	家田正雄	〃
〃	専務理事	熊井戸紀一	〃

//	事務局長	田中克己	〒331 埼玉県大宮市大字中釘2082	0486-24-1221
//	スポーツ委員長	(田中克己)	//	//
千葉県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒260 千葉県千葉市新港223	0472-42-1564
//	会長	秋篠肇作	//	//
//	専務理事	金子竹治	//	//
//	事務局長	(金子竹治)	//	//
//	スポーツ委員長	山下健治	〒276 千葉県八千代市吉橋1825-10	0474-50-9828
神奈川県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒226 神奈川県横浜市磯区地辺町3575	045-931-4290
//	会長	友安雄次	//	//
//	専務理事	鈴木克典	//	//
//	スポーツ委員長	中山 博	//	//
新潟県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒950 新潟県新潟市大形本町117-3	025-275-5704
//	会長	池田芳男	//	//
//	専務理事	加藤俊明	//	//
//	スポーツ委員長	高藤正利	//	//
山梨県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒406 山梨県東八代郡石和町榎柏791-1 山梨県軽自動車センター内	05526-2-
//	会長	秋原茂賢	〒400 山梨県甲府市藤田3-9-3 山梨スズキ販売店内	0552-24-2127
//	専務理事	中田幸彦	〒406 山梨県東八代郡石和町榎柏791-1 山梨県軽自動車センター内	05526-2-7548
//	スポーツ委員長	西谷祐司	〒409-14 山梨県東八代郡一宮町東原38 スポーツショップ西谷	05534-7-1476
長野県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒380 長野県長野市西和田字栗和田438-3 長野県軽自動車協会内	0262-43-1967
//	会長	柳田 勝	〒380 長野県長野市川合新田818 株式会社二輪販売	0262-27-3100
//	専務理事	小泉真人	〒380 長野県長野市西和田字栗和田438-3 長野県軽自動車協会内	0262-43-1967
//	事務局長	永井清次	//	//
//	スポーツ委員長	西板徳光	〒390-17 長野県南安曇郡神川村1630	0263-78-2020

静岡・岐阜・愛知・三重

中 部

富山・石川・福井

中部ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所			〒501-01 岐阜県羽島郡津田町大字高桑字立野3276-1	0582-79-1561
//	会長	仲神桂二	〒508 岐阜県中津川市新町8-5	05736-5-2032
//	事務局長	早川幸男	〒501-01 岐阜県羽島郡津田町大字高桑字立野3276-1 岐阜県軽自動車協会内	0582-79-1561
//	スポーツ委員長	藤井津美	〒514 三重県鈴鹿市住吉町6786	0593-78-1455
//	ロードレース部会長	(藤井津美)	//	//
//	モトクロス部会長	高藤 昇	〒486 愛知県春日井市津島通り8-15-1	0568-84-5251
//	トライアル部会長	鈴木隆一	〒470-01 愛知県愛知郡津田町大字錦輪字東原59-99	05613-8-0796
//	レジャースポーツ部会長	本間英典	〒457 愛知県名古屋南区南野1-72	052-612-2151
//	スノーモビル部会長	高藤正義	〒930 富山県富山市藤之本台3丁目16	0764-24-3181
静岡県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒422 静岡県静岡市国古田3番地の7	0542-61-4455
//	会長	戸田芳司	//	//
//	専務理事	長田幹雄	//	//
//	スポーツ委員長	長谷川広	〒431-31 静岡県浜松市有玉南町471	0534-34-
岐阜県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒501-01 岐阜県羽島郡津田町大字高桑字立野3276-1	0582-79-1561
//	会長	仲神桂二	〒508 岐阜県中津川市新町8-5	05736-5-2032
//	専務理事	早川幸男	〒501-01 岐阜県羽島郡津田町大字高桑字立野3276-1 岐阜県軽自動車協会内	0582-79-1561
//	スポーツ委員長	仲神桂三	〒507 岐阜県多治見市本町7丁目43 株式会社二輪販売内	0572-22-0185
愛知県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字富見ヶ丘110-6 愛知県軽自動車協会内	052-833-9676
//	会長	本間英典	〒457 愛知県名古屋南区南野1丁目7番地	052-612-2151
//	専務理事	相沼幸雄	〒466 愛知県名古屋市中区天白町大字八事字富見ヶ丘110-6 愛知県軽自動車協会内	052-833-9676
//	事務局長	兼松昭次	//	//
//	スポーツ委員長	(本間英典)	〒457 愛知県名古屋南区南野1丁目7番地	052-612-2151
三重県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒514-03 三重県津市豊出長常町六ノ番1190-1 三重県軽自動車協会内	0592-34-8611
//	会長	藤井津美	〒514 三重県鈴鹿市住吉町6786	0593-78-1455
//	事務局長	佐野純二	〒514-03 三重県津市豊出長常町六ノ番1190-1 三重県軽自動車協会内	0592-34-8611
//	スポーツ委員長	(藤井津美)	〒514 三重県鈴鹿市住吉町6786	0593-78-1455
富山県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒930 富山県富山市藤本521-1	0764-24-6420
//	会長	高藤正義	//	//
//	専務理事	太田三郎	//	//
//	事務局長	岩田清範	//	//
//	スポーツ委員長	(高藤正義)	//	//
石川県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒921 石川県金沢市入江3丁目134番地	0762-91-7111
//	会長	木原和清	//	//
//	専務理事	西出家央	//	//
//	事務局長	(西出家央)	//	//
//	スポーツ委員長	(木原和清)	//	//
福井県モーターサイクルスポーツ協会事務所			〒910-37 福井県福井市浅水町138字上楢木11-2 福井県軽自動車協会内	0776-38-0558
//	会長	松岡光之輔	〒910-37 福井県福井市浅水町二日町135字中楢木11 株式会社二輪北陸福井営業所	0776-38-6020
//	専務理事(代行)	津路徳弘	〒910-37 福井県福井市浅水町138字上楢木11-2 福井県軽自動車協会内	0776-38-0558
//	スポーツ委員長	(松岡光之輔)	〒910-37 福井県福井市浅水町二日町135字中楢木11 株式会社二輪北陸福井営業所	0776-38-6020

大阪・滋賀・京都

近畿

兵庫・奈良・和歌山

MFJ近畿ブロック協議会事務所		〒550 大阪府大阪市西区立売堀1丁目7番14号 大阪府二輪車安全普及協会	06-541-5254
〃	会長	鈴木義夫	〃
〃	事務局長	山田和夫	〃
〃	スポーツ委員長	吉田武英	〃
〃	ロードレース部会長	杉本五十洋	〃
〃	モトクロス部会長	田中隆道	〃
〃	トライアル部会長	山本 隆	〃
大阪府モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒550 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 大阪府二輪車安全普及協会	06-541-5254
〃	会長	鈴木義夫	〃
〃	専務理事	神田圭造	〃
〃	事務局長	山田和夫	〃
〃	スポーツ委員長	吉田武英	〃
滋賀県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒520-01 滋賀県大津市膳越3-17-1 滋賀県自動車会館内	0775-22-4871
〃	会長	藤部 清	〃
〃	スポーツ委員長	青木祥治	0775-62-2523
京都府モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒612 京都府京都市伏見区竹田西代町51-5 京都自動車会館内	075-671-5887
〃	会長	櫻井伊藤	075-431-2101
〃	専務理事	兵庫泰弘	075-671-5887
〃	スポーツ委員長	杉本五十洋	075-461-2243
兵庫県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒673 兵庫県神戸市西区玉津町徳住67番地の1 兵庫県軽自動車協会内	078-927-7701
〃	会長	西島清治	078-942-1785
〃	専務理事	中林敏弘	078-927-7701
〃	事務局長	(中林敏弘)	〃
〃	スポーツ委員長	池田徳寛	06-499-7566
奈良県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒630 奈良県奈良市南京新町2丁目321の1	0742-61-5583
〃	会長	小島末太郎	〃
〃	専務理事	坂中 武	〃
〃	事務局長	上大修正	〃
〃	スポーツ委員長	井上家裕	〃
和歌山県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒641 和歌山県和歌山市西浜中川内岸1660-389	0734-32-5378
〃	会長	林 伸良	0734-45-5000
〃	専務理事	大道就次	0734-32-5378
〃	事務局長	竹内真夫	0734-32-5378
〃	スポーツ委員長	阿部 達	0734-22-9083

鳥取・島根

中国

岡山・広島・山口

中国ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会			
鳥取県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒660 鳥取県鳥取市秋津246-5 鳥取県二輪車安全普及協会内	0857-28-6850
〃	会長	吉兼宅彦	〃
〃	スポーツ委員長	関根耕一 路	〃
島根県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒690 島根県松江市八幡町725番地 島根県二輪車安全普及協会内	0852-37-1685
〃	会長	杉尾俊之	〃
〃	事務局長	三穴栄一郎	〃
〃	スポーツ委員長	田中正司	0652-22-0211
岡山県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒700 岡山県岡山市柳町2丁目10番1号 東中国ススキ自動車オレンジビル内	0862-22-8625
〃	会長	坂代 修	0862-92-5251
〃	事務局長	正木善久	0862-78-3681
〃	スポーツ委員長	(正木善久)	〃
広島県モーターサイクルスポーツ協会事務所			
〃	会長		
山口県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒753 山口県山口市美1丁目5番58号 山口県自動車会館内	0839-22-8877
〃	会長	佐々木吉雄	0836-29-8181
〃	専務理事	江藤信男	0839-22-8877
〃	事務局長	矢野 誠	0839-22-8877
〃	スポーツ委員長	若木恭一	0827-31-1166

徳島・香川

四国

愛媛・高知

四国ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務所		〒761 香川県高松市東東町140番地	0878-82-3212
〃	会長	高木 宏	0878-51-8211

四国7ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会事務局長	清水新輔	〒761 香川県高松市東栄町140番地	香川県モーターサイクルスポーツ協会	0878-82-3212
〃	スポーツ委員長	高萩 拓	〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7 柳富高商店	0886-22-5545
〃	ロードレース部会長	川竹健二	〒780 高知県高知市湖新町2-38-10 柳ライダーハウス	0888-31-4848
〃	モトクロス部会長	岡村秀樹	〒760 香川県高松市西宝町3-11-7 南MCSおかわら	0878-34-1634
〃	トライアル部会長	(高萩 拓)	〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7 柳富高商店	0886-22-5545
〃	レジャースポーツ部会長	三原森雄	〒790 愛媛県松山市東石井町639-1 カワサキ三原	0899-56-8151
徳島県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7番地	柳富高商店	0886-22-5545
〃	会長	武井治男	〒770 徳島県徳島市大原町千代ヶ丸93 雅ホンダ二輪徳島内	0886-53-4377
〃	専務理事	高萩 拓	〒770 徳島県徳島市西新町4丁目7番地	0886-22-5545
〃	事務局長	(高萩 拓)	〃	〃
〃	スポーツ委員長	(高萩 拓)	〃	〃
香川県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒761 香川県高松市東栄町140番地		0878-82-3212
〃	会長	高木 宏	〒760 香川県高松市朝日新町5-14 雅高木兄弟商会	0878-51-8211
〃	事務局長	谷本謙二	〒761 香川県高松市東栄町140番地	0878-82-3212
〃	スポーツ委員長	岡村秀樹	〒760 香川県高松市西宝町3-11-7 南MCSおかわら	0878-34-1634
愛媛県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒791-11 愛媛県松山市南高井町1812-3	愛媛県二輪車安全普及協会内	0899-76-4505
〃	会長	栗田 昇	〒790 愛媛県松山市宮田町2-8	0899-43-0085
〃	専務理事	土居謙雄	〒791-11 愛媛県松山市南高井町1812-3	愛媛県二輪車安全普及協会内
〃	事務局長	(土居謙雄)	〃	〃
〃	スポーツ委員長	三原森雄	〒790 愛媛県松山市東石井町639-1	0899-56-8151
高知県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒781-02 高知県高知市横浜1057		0888-42-4311
〃	会長	奥谷朝男	〃	〃
〃	専務理事	奥村 康	〃	〃
〃	スポーツ委員長	川竹健二	〒780 高知県高知市湖新町2-38-10	0888-31-4848

福岡・佐賀・長崎・熊本

九州

大分・宮崎・鹿児島・沖縄

MF九州ブロック協議会事務所		〒816 福岡県博多市博多区半道橋2丁目7番70号	西京ホンダ販売株内	092-474-6196
〃	会長	西 俊明	〃	092-473-6811
〃	事務局長	西 京輔	〃	〃
〃	スポーツ委員長	高武重久美	〒810 福岡県福岡市中央区赤坂2丁目5番54号	092-781-2682
〃	ロードレース部会長	倉富福生	〒813 福岡県福岡市東区唐の原913番地1号	092-662-2631
〃	モトクロス部会長	松尾正一	〒810 福岡県福岡市中央区小坂4番4号	092-524-0108
〃	トライアル部会長	内野徳助	〒834 福岡県八女市大字古田1328	09432-4-3629
〃	レジャースポーツ部会長	北村美津弘	〒803 福岡県北九州市小倉北区西港町15番7号	093-561-4634
福岡県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒816 福岡県福岡市博多区半道橋2丁目7番70号	西京ホンダ販売株内	092-474-6196
〃	会長	西 俊明	〃	092-473-6811
〃	事務局長	西 京輔	〃	〃
〃	スポーツ委員長	高武重久美	〒810 福岡県福岡市中央区赤坂2丁目5番54号	092-781-2682
佐賀県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒840-01 佐賀県佐賀市高木瀬町大字高木五本杉1240-10		0952-30-8442
〃	会長	野田幸治	〃	〃
〃	専務理事	上野繁次	〃	〃
〃	事務局長	内川直紀	〃	〃
〃	スポーツ委員長	岡田恒行	〃	〃
長崎県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒851-01 長崎県長崎市田中町581-3		0958-37-8421
〃	会長	村上幸三	〃	〃
〃	スポーツ委員長	伊村兼光	〒850 長崎県長崎市出雲2丁目130番地32	0958-22-1248
熊本県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒862 熊本県熊本市東町4番71号		096-367-5488
〃	会長	玉森昌一	〒862 熊本県熊本市水前寺公園11-5	096-382-6539
〃	事務局長	松田忠也	〒862 熊本県熊本市新豊敷3丁目5-18	096-362-5482
〃	スポーツ委員長	土肥幸彦	〒862 熊本県熊本市長徳町3525 熊ホンダ熊本二輪	096-380-3361
大分県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒870-01 大分県大分市三川上1丁目4-35		0975-52-1004
〃	会長	倉石 秀	〒870 大分県大分市桜町4丁目1011 熊ホンダ二輪大分内	0975-36-2200
〃	専務理事	田原立平	〒870-01 大分県大分市三川上1丁目4-35	0975-52-1004
〃	事務局長	坂本浩司	〃	〃
〃	スポーツ委員長	刈野一成	〒870 大分県大分市興業新116組	0975-49-3650
宮崎県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒880 宮崎県宮崎市田代町7の1 宮崎県軽自動車協会内		0985-27-1520
〃	会長	杉浦勝弘	〒880 宮崎県宮崎市花ヶ島町屋形町1204	0985-25-7211
〃	事務局長	藤田和司	〒880 宮崎県宮崎市花ヶ島新地横1134 熊ホンダ二輪南九州・宮崎(宮)	0985-27-6611
鹿児島県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒891-01 鹿児島県鹿児島市谷山2丁目4番3号		0992-61-4011
〃	会長	天村真雄	〒890 鹿児島県鹿児島市新栄町20-10	0992-55-8254
〃	事務局長	家村行夫	〒891-01 鹿児島県鹿児島市谷山2丁目4-3	0992-61-4011
〃	スポーツ委員長	大西尚治	〒890 鹿児島県鹿児島市小松原1丁目9-5	0992-68-5101
沖縄県モーターサイクルスポーツ協会事務所		〒901-21 沖縄県那覇市字中野145 沖縄県ホンダモーター株内		0988-77-2558
〃	会長	徳野毅夫	〃	〃
〃	専務理事	上原正博	〃	〃

総則

'87MFJ国内競技規則

総則

本国内競技規則は、国際モーターサイクリスト連盟 (Fédération Internationale Motocycliste — 略称FIM) の国際スポーツ憲章、FIM競技規則にもとづいて作成され、日本国内のモーターサイクルスポーツの国内規則の一部として発行する。

本国内競技規則は、総則と付則に大別され、競技種目によって内容に差異のある事項は付則に示される。



1 MFJ国内競技規則について	24	13 ライターおよび車両の変更	29
2 特別規則および公式通知	24	14 走行中の遵守事項	29
3 ライセンス	24	15 レース	30
4 エントラント、ライダー、ピットクルー	25	16 優勝者、入賞者および完走者	31
5 出場申込み	26	17 入賞車両の検査	31
6 出場料、MFJ共済会掛金および指定保険料	26	18 レース結果および記録の公表	31
7 配布物品	26	19 レースの延期、中止および打ち切り	32
8 賞および得点	27	20 抗議	32
9 出場車両	27	21 損害の補償	32
10 MFJ公認車両及び公認部品	28	22 競技規則の違反行為に対する罰則	33
11 燃料およびオイル	28	23 主催者の権限	33
12 車両検査	29	24 大会審査委員会の権限	33

1 MFJ国内競技規則

MFJ国内競技規則は、日本国内のモーターサイクルスポーツのための規則であり、国際モーターサイクリスト連盟（Fédération Internationale Motocycliste — 略称FIM）の国際スポーツ憲章、FIM競技規則にもとづいたものである。

日本モーターサイクル協会（略称MFJ）はFIMの日本における代表機関として、モーターサイクルスポーツの国内管理、一般的モータリゼーションの普及、振興、競技の安全および公正を保持する等の目的のために本国内競技規則を制定、施行する。

1. 適用の範囲

本国内競技規則はMFJ競技者ライセンスまたは都道府県モーターサイクルスポーツ協会（以下県協会という）の会員証を所有する者が参加するMFJ、またはFIM公認及び承認のもとに行なわれるすべてのモーターサイクルスポーツ競技会（以下競技会という）および承認行事に適用され、各種目によって、内容に差異のある事項はそれぞれの付則の定めるところによる。

2. 公認・承認競技会および行事の種目

競技会および行事の種目は次のように分けられる。

1) 公認・承認競技会

種 目	摘 要
ロードレース	MFJ公認サーキットロードレースコースにおいて行なわれるもの
①ロードレース	
②プロダクションレース ③ミニバイクロードレース	
モトクロス トライアル スノーモビル	オフロード、ダートモトクロス場、トライアル場等において行なわれるもの
①モトクロス	
②トライアル	
③ミニモトクロス	
④ミニトライアル	
⑤エンデューロ ⑥スノーモビル	
ミニバイクレース	カートコースまたはこれに準ずるコースにおいて総排気量80cc以下で行なわれるもの

2) 承認行事

種 目	
①ジムカーナ	④オートキャンプ
②ツーリング	⑤その他レジャースポーツ
③ラリー	
⑥講習会（ライセンス講習会）	
ロードレース	
モトクロス	
トライアル	
ミニバイクレース	
競技役員（ロードレース・モトクロス・トライアル）	

3. 競技規則の解釈

競技会における判定および競技規則全般の解釈は、本国内競技規則にもとづいて、競技会審査委員会（以下「大会審査委員会」という）だけがおこない、大会審査委員会の判定および解釈を最終的なものとする。

国際競技会において疑義が生じた場合で、本規則に規定されていない事項はFIM競技規則並びに、その趣旨により判定する。

2 特別規則および公式通知

1. 競技会の公示

競技会は、この国内競技規則にもとづいておこなわれ、競技会の運営上、競技の細部の規則並びに指示は公示、特別規則、および公式通知によって公示される。

2. 特別規則および公式通知

特別規則および公式通知は、競技会主催者（以下主催者という）が発行し、競技会が運営される。

1) 特別規則

特別規則には次の各項が示される。

- 競技会の名称
- 主催者の名称、所在地および連絡先
- 開催日時
- 開催場所（コース）
- 競技の内容と参加者、ライダーの資格
- 出場申込み受付場所
- 出場申込み期間
- 出場料とMFJ共済会掛金および指定保険料
- クラス区分
- 出走者の定員
- 賞およびその詳細
- 運営組織
- その他、国内競技規則に定められた事項

2) 公式通知

公式通知には特別規則に規定し得なかった競技会運営の細部にわたる規則、指示等が示される。

3 ライセンスならびに県協会会員証

ライセンスとはMFJ競技者ライセンスとビットクルーライセンスがあり、競技会に参加するために必要な証書である。県協会会員証は県協会会員に対して県協会が発行する会員証であり、MFJ承認競技会に参加するために必要な証書である。

1. 競技者ライセンス区分および競技会の参加者資格

競技者ライセンス区分および競技会の参加者資格は次のとおりである。

1) MFJ競技者ライセンスならびに県協会会員証の区分

国内における国内格式のMFJ公認・承認競技会に参加することのできるライセンスである。

種目	競技者ライセンス区分	競技会参加区分
ロードレース	B、ノービス、ジュニア、国際A級	MFJ公認競技会
モトクロス	ノービス、ジュニア、国際B級、国際A級	MFJ公認競技会 MFJ承認競技会
トライアル	ノービス、ジュニア、国際B級、国際A級	
スノーモビル	スノーモビル	MFJ承認競技会
ビットクルー	ビットクルー	
県協会会員	県協会会員証	MFJ承認競技会
モトクロス	限定B、B	MFJ公認競技会
トライアル	限定B、B	
ミニバイクレース	限定B、B	MFJ承認競技会
スノーモビル	限定B	

2) FIMライセンス

国内・国外における世界選手権競技会、国際競技会に参加することのできるライセンスである。

種目	競技者ライセンス区分	取得資格と料金
ロードレース	① 大会のみ有効なライセンス 国内における世界選手権競技会に使用できる。	10,000円 当該種目の国際B級以上のライセンス所持者
モトクロス	② 年間ライセンス 国内、国外で行なわれる世界選手権、国際競技会に使用できる。	15,000円 当該種目の国際A級ライセンスを取得後1年以上経過した者
トライアル		

競技者ライセンス取得者の資格

競技者ライセンス取得申請をおこなう者は、下記の条件をみたしていなければならない。

- 1) 日本にスポーツ国籍を有する者
- 2) 外国籍の場合は、下記の要件を備えていなければならない。
 - (1) 日本国内に3ヵ月以上継続的に居住した外国人が、その期間を公的に証明できる書類を提出すること。
 - (2) 本人が所属する国の代表機関の書面による承諾を有すること。
- 2) 種目による条件
 - (1) モトクロス、トライアル、スノーモビル、ミニバイクレース
 - ① 9歳から15歳で競技ライセンス講習会の修了証を受けている者。
 - ② 16歳以上で運転免許証を取得している者。
 - ③ 16歳以上で運転免許証を受けていない者は、競技者ライセンス講習会の修了証を受けていること。
 - (2) ビットクルー
 - 16歳以上であること。

(3) ロードレース

① ノービスライセンス

MFJ承認ロードレース・ノービスライセンス講習会の修了証を受けている者、またはMFJ公認サーキットの3時間走行証明書を受けている者。

② Bライセンス

MFJ公認サーキットのライセンス講習会の修了証を受けている者。

- 3) 職業選手でないこと。また過去に職業選手として登録し、または登録されたことのある者は、登録取消後1年以上経過した者でなければならない。

注：職業選手とは、日本小型自動車振興会所管のレースのために登録された者、およびスタントカー、サーカス等に所属している者をいう。

3. ライセンスの効力の停止

下記の者のライセンスは停止される。

- 1) 日本のスポーツ国籍を失った者。
- 2) 職業選手として登録された者。
- 3) MFJの認めないモーターサイクル競技に出場した者。
- 4) MFJスポーツ委員会の裁定により停止処分を受けた者。(スポーツ委員会の定める期間)
- 5) 刑法上の罪を犯し罰金刑以上の刑に処せられ、その執行を終り、または執行を受けることがなくなった日から起算して2年を経過しない者。

4. 競技者ライセンス資格の昇格及び降格

競技者ライセンスの昇格及び降格は、付則8(83頁参照) MFJライセンス昇格・降格規定に定める。

4 エントラント、ライダー、ビットクルー

1. エントラント

- 1) MFJに所属して、「参加の申請」をおこなった個人およびクラブ。
- 2) MFJに登録されている二輪車メーカー、及び賛助会員で、「参加の申請」をおこなった者。

2. ライダー

ライダーとは県協会会員証またはMFJ競技者ライセンス所有者(効力の停止中の者を除く)で、当該競技会に「出場申込み」をおこなった者。

3. ライダーの資格

- 1) 当該競技会出場申込みのとき、日本にスポーツ国籍を有する者で、県協会会員証またはMFJ競技者ライセンスを所有する者に限る。ただし、満20歳未満の者は親権者の承諾書を必要とする。
- 2) 主催者は競技会当日、県協会会員証またはMFJ競技者ライセンスの提示を求め、当日の資格を判定する。

- 3) ライダーは過去6か月以内に重大な刑法上の犯罪により処罰された者であってはならない。
- 4) ライダーは、医師によってレース出場可能な健康体であると診断された場合、レース出場資格者、もしくはレース継続資格者としてみとめられる。
主催者は、どのライダーに対しても、指定した医師による健康診断を要求することができる。またこの診断をもって最終とする。
- 5) 開催期間中、転倒事故等により負傷したライダーは指定医師の承認を得なければ再び出走することはできない。

4. ビットクルー(メカニック、ビットサインマン、ヘルパー)

- 1) メカニック(ビットクルー)
メカニックとは、16歳以上の県協会会員でMFJビットクルーライセンスを所有し当該競技に「参加の申請」をおこなった者とする。
- 2) ビットサインマンおよびヘルパー(ビットクルー)
ビットサインマンおよびヘルパーとは、16歳以上の県協会会員でMFJビットクルーライセンスを所有しライダーまたはメカニックを援助する目的で当該競技会に「参加の申請」をおこなった者とする。

5. 参加者(エンタラント、ライダー、ビットクルー)の遵守事項

- 参加者は次の事項を守らなければならない。
- 1) 競技会中は、MFJ国内競技規則にしたがって行動し、参加者はすべての行動に対して責任を持たなければならない。
 - 2) 国内競技規則および競技管理上のあらゆる規定や競技役員の指示にしたがい、かつレース場以外では交通法規を守らなければならない。
 - 3) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、野卑な言動は厳に慎まなければならない。
 - 4) 競技に関する業務についているときは、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。
 - 5) 競技会中は参加するためのライセンスを必ず携帯していなければならない。

5 出場申込み

1. 申込み方法

- 1) 申込み期間、申込み場所、その他の詳細については当該特別規則に示される。
- 2) 主催者より支給された用紙の記載事項のすべてに指示どおり記入し、この競技規則を厳守することを誓約しなければならない。
- 3) 主催者は、エンタラント、ライダーおよびビットクルーのいずれに対しても、その理由を明らかにすることなく申込みを拒否、または無効とする権限を

有する。

2. 定員

- 1) レース出走者数または出場申込み者数の定員は特別規則に示される。
- 2) 出場申込み者数が10名に満たない場合は、そのクラスのレースを中止することがある。

3. 出場車両の登録

出場申込み者は、「出場申込み書」により競技会に使用する出場車両(以下車両という)を主催者に登録しなければならない。

6 出場料、MFJ共済会掛金および指定保険料

1. 出場料

エンタラント、またはライダーは、出場申込みのときに出場料を(金額は特別規則に明示)払込まなければならない。

2. MFJ共済会掛金および指定保険料

ライダーは、出場申込みのときMFJ共済会掛金および指定保険料の実費を主催者に払込まなければならない。MFJ共済会掛金、指定保険料の内容の詳細は付録(104頁参照)に示される。

3. 出場料等の払戻し

いったん、主催者に受理された出場料等は払戻しされない。

7 配布物品

参加賞および配布物品は主催者(大会事務局)から交付される。時期および詳細は特別規則に示される。



8 賞および得点

1. 賞
賞は原則的に6位までとする。その詳細は特別規則に示される。

2. 競技会の出走台数によって与えられる得点

1) 全日本選手権および地方選手権競技会

台数 順位	25 以上	22-24	20-21	18-19	16-17	14-15	12-13	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	不成立
2位	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
3位	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
4位	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13		
5位	11	11	11	11	11	11	11	11	11			
6位	10	10	10	10	10	10	10					
7位	9	9	9	9	9	9						
8位	8	8	8	8	8							
9位	7	7	7	7								
10位	6	6	6									
11位	5	5										
12位	4											
13位	3											
14位	2											
15位	1											

2) その他の公認競技会

台数 順位	12 以上	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	10	10	10	10	10	不成立
2位	8	8	8	8	8	
3位	6	6	6	6		
4位	5	5	5			
5位	4	4				
6位	3					

3) 得点の制限

(1) 出走台数によって与えられる得点は、上記の表のとおり得点を制限する。

(2) 出走台数はそのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数とする。ただし、公式予選がある場合は、予選スタートラインに並んだ台数で得点を制限する。

出場申込み台数	公式予選のスタートラインに並んだ台数	決勝レースのスタートラインに並んだ台数	与えられる得点順位
25台	◎24台	21台	1位~12位
20台	◎16台	15台	1位~8位
25台	予選なし	◎24台	1位~12位

◎印が得点対象台数

9 出場車両

1. クラスの区分

車両は排気量によって次のようにわけられ、付則2・ロードレース車両規定に示される。

1) GPフォーミュラ・ロードレース

クラス	通常吸気型		4サイクル過給型	
	最小	最大	最小	最大
80cc	51cc	80cc	25.5cc	40cc
125cc	81cc	125cc	40.5cc	62.5cc
250cc	126cc	250cc	63cc	125cc
500cc	351cc	500cc	125.5cc	250cc

2) TTフォーミュラ・ロードレース

クラス	2サイクル型		4サイクル通常吸気型		4サイクル過給型		最大限 シリンダー数
	最小	最大	最小	最大	最小	最大	
TTF 1	351cc	500cc	601cc	750cc	301cc	375cc	4
TTF 2	251cc	350cc	401cc	600cc	201cc	300cc	4
TTF 3	126cc	250cc	251cc	400cc	126cc	200cc	4
TTF 4	51cc	125cc	126cc	250cc	62.5cc	125cc	4

3) SPフォーミュラ・ロードレース
(スポーツプロダクション)

クラス	排気量 (cc)	2サイクル	4サイクル
SP50	~50	○	○
SP80	51~80	○	○
SP125	81~125	○	○
SP250	126~250	○	○
SP400	251~400	×	○

※ただし各サーキットごとにそれぞれ2サイクル、4サイクルの排気量別に開催クラスの組合せが認められる。

4) モトクロス

クラス	最小排気量	最大排気量
50cc	0cc~	50cc
80cc	51cc~	80cc
125cc	81cc~	125cc
250cc	126cc~	250cc

5) トライアル

排気量による区分は設けない。

6) ミニバイクレース

クラス	最小排気量	最大排気量
50cc	0cc~	50cc
80cc	51cc~	80cc

2. 総排気量の算出基準

総排気量は下記の計算式により算出する。ただしシリンダー内径・ピストン行程(m/m)は小数点以下1位まで四捨五入し、少数点以下を切り捨てて表示する。この際内容はクランク軸方向とその直角方向を測定し平均する。 $総排気量(cc) = 0.7854 \times 内径^2 \times 行程 \times 10^{-3} \times 気筒数$

3. 仕様

車両は付則に示す「改造の限度」と「総合仕様」に合致し、かつ特別規則の条件をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。



4. 危険な車両

車検長または大会審査委員会より危険であると判断された車両は、理由のいかんを問わずレースに使用することはできない。

10 MFJ公認車両および公認部品

MFJ公認車両および公認部品の公認基準は下記のとおりである。

1. 車両公認基準

	種目又は排気量	国内出荷台数
一般市販車	250cc以下	500台以上
	250cc以上	250台以上
市販レーサー	ロードレーサー	25台以上
	モトクロス用	100台以上
	トライアラー	100台以上

*輸入車はMFJ技術委員会にて別途審査する。

2. 部品公認基準

種目	国内出荷セット
ロードレース用	25セット以上
モトクロス用	50セット以上
トライアル用	50セット以上

3. 公認発効

上記基準にのっとり、製造メーカーまたは輸入総代理店が毎月定例のMFJ技術委員会に申請し、公認された車両および部品は公示され、審査日を含み30日後より発効

される。

- 1) 当該競技会出場申込みの時点で公認が発効されている車両でなければ、出場申込みをすることができない。ただし、大会当日に公認が発効されている車両は、車両変更として申請することができる。

11 燃料およびオイル

1. 燃料

レースに使用する燃料は、一般市販ガソリン（民間航空機用の市販ガソリンも可）でなければならない。また主催者が指定しレース場にて供給する場合は、ガソリンの製造メーカー及び、その他の詳細は公式通知に示される。

2. オイル

オイルの製造メーカーは指定しない。

3. その他の規定

- 1) ガソリンおよびオイルには、オクタン価や燃焼効率を高めるような添加剤あるいは起爆剤を加えてはならない。
- 2) ガソリンにオイルを混合する必要があるときは、安全を確認して作業しなければならない。また主催者より作業場所の指定がある場合は、必ずその指示にしたがわなければならない。
- 3) ガソリンおよびオイルを入れる容器は消防法により認められているものとする。

12 車両検査

1. 車両検査

- 1) 車両は、競技規則にもとづいた車両検査を受けなければならない。車両検査の時刻、および場所は公式通知に示される。
- 2) 車両は、レース直前に車両検査を受けたままの状態に保たれているかどうかのチェックを受けなければならない。チェックの時刻およびチェック場所は公式通知に示される。
- 3) FIM方式による音量測定方法

排気管から0.5mのところ、端部のセンターラインから測って45°の角度で、排気管の高さと同じ高

音量規制:回転数(小数点以下は四捨五入)

ピストン ストローク (mm)	(2サイクル) モトクロス ロードレース	・トライアル エンデュロ (4サイクル) ロードレース モトクロス	ピストン ストローク (mm)	(2サイクル) ロードレース モトクロス	・トライアル エンデュロ (4サイクル) ロードレース モトクロス
30	13,000	11,000	66	5,909	5,000
31	12,580	10,645	67	5,820	4,925
32	12,187	10,313	68	5,735	4,853
33	11,818	10,000	69	5,652	4,783
34	11,470	9,706	70	5,571	4,714
35	11,142	9,429	71	5,492	4,648
36	10,833	9,167	72	5,416	4,583
37	10,540	8,919	73	5,342	4,521
38	10,263	8,684	74	5,270	4,459
39	10,000	8,462	75	5,200	4,400
40	9,750	8,250	76	5,132	4,342
41	9,512	8,049	77	5,065	4,286
42	9,285	7,857	78	5,000	4,231
43	9,069	7,674	79	4,937	4,177
44	8,863	7,500	80	4,875	4,125
45	8,666	7,333	81	4,815	4,074
46	8,478	7,174	82	4,756	4,024
47	8,297	7,021	83	4,699	3,976
48	8,125	6,875	84	4,643	3,929
49	7,959	6,735	85	4,588	3,882
50	7,800	6,600	86	4,535	3,837
51	7,647	6,471	87	4,483	3,793
52	7,500	6,346	88	4,432	3,750
53	7,358	6,226	89	4,382	3,708
54	7,222	6,111	90	4,333	3,667
55	7,090	6,000	91	4,286	3,626
56	6,964	5,893	92	4,239	3,587
57	6,842	5,789	93	4,194	3,548
58	6,724	5,690	94	4,149	3,510
59	6,610	5,593	95	4,105	3,474
60	6,500	5,500	96	4,063	3,438
61	6,393	5,410	97	4,021	3,402
62	6,290	5,323	98	3,980	3,367
63	6,190	5,238	99	3,939	3,333
64	6,093	5,156	100	3,900	3,300
65	6,000	5,077			

さ、すなわち地上から少くとも20cmの高さにマイクロフォンをすえ付けて測った場合、下記のリミット内でなければならない。これが「不可能である場合は、測定は45°上方において行うことができる。音量測定の際、ギヤボックスをニュートラルにして、車両のスタンドを立てておくものとする。検査する際マフラーに印をつけることが必要である。認証の後にマフラーを変更することは許されない。ただし、同様に検査され、印をつけられたスベアのマフラーについてはこの限りではない。ライダーは、ニュートラルでエンジンを所定の回転数に達するまで回転させねばならない。所定の回転数に達したときに測定を行うものとする。回転数は、エンジンのストロークに相応するピストンの平均速度に基く。(左表を参照)

2. 使用部品の登録(車両改造申告書)

ライダーは、車両検査時に大会事務局より支給された車両改造申告書をもって、使用する車両、部品等の製造メーカー型式の登録をしなければならない。

13 ライダーおよび車両の変更

1. ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

2. 車両の変更

出場した車両の変更は許されない。

- 1) ただし、破損など止むを得ず出場登録済の車両を変更する必要がある場合は、規定の書式にしたがって車両の変更申請をおこない、競技総監督がこれを認めた場合に限り車両の変更が認められる。
- 2) 公式練習終了後、安全上の理由により、フレームボディとクランクケースを交換する必要がある場合は、競技総監督に申告し、許可されなければならない。
- 3) 紛争に際して、製造メーカーについての立証の責任は参加者側にあるものとする。
- 4) その他、特別規則に示される。

14 走行中の遵守事項

- 1) 必要以外にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離したり、外につき出したりするような危険な姿勢をとってはならない。
- 2) 故意に他のライダーの走行を妨害するような走りかたをしてはならない。
- 3) 車両はそれ自信が持つ動力、およびライダーの筋

力、または重力などの自然現象以外の方法で、走ったり、加速したりしてはならない。

- 4) 他の人の援助を一切受けてはならない。他の人による援助とは、そのレースに参加しているライダー、きめられた位置についている担当のメカニックおよび業務執行中の競技役員以外の人々が車両に触れることをいう。
- 5) 車両にいかなる他人も同乗させてはならない。
- 6) ライダーはレース中、酒気をおびたり、または医薬品等(興奮剤、麻薬等)により故意に精神状態をつくろってはならない。

15 レース

1. 予選

出場者数が多い場合等は、予選またはタイムトライアルによって決勝レース出場者を決定することがある。その詳細については付則および特別規則に示される。

2. スタート

スタートの方法は付則および特別規則に示される。

3. 合図旗および合図(16頁参照)

- 1) レース中、競技役員が次の合図、旗を示した場合、各ライダーはただちにそれに従わなければならない。
 - (1) シグナル緑または国旗……………スタート

- (2) 赤 旗……………全ライダーの走行停止
- (3) 黄 旗

- ① 静止……………危険予告
- ② 振る……………コース上に重大な危険あり、徐行、安全確認、追越し禁止

注：重大な危険とは、コース上に事故車両またはライダーの存在および競技役員等による事故等の処理作業中のため、コースの全面または部分的閉鎖を意味する。

- (4) 緑 旗……………先に示された合図の解除
- (5) 3本黄色縦縞のある赤旗…コース上オイルあり
- (6) 青 旗……………追越し車あり、進路ゆずり
- (7) 白 旗……………コース上に救急車またはサ
ス車あり、またはコース上にて
救急作業がおこなわれている。
- (8) 黒 旗……………黒旗により指示されたライダー
は走行停止
- (9) チェッカーフラッグ……………レース終了(ゴール
イン)

この合図旗の使用は、競技役員にのみ許され、他のいかなる合図旗またはそれとまぎらわしいもの使用はいっさい認められない。

4. 停止

- 1) レース中、コース内で停止する場合には、ライダーはただちに車両をコース脇によせ、他のライダーの走行の邪魔にならないよう十分に注意しなければ



ならない。

- 2) レース中、車両をコースの進行方向と逆方向に移動してはならない。ただし、競技役員（コース審判）の指示のある場合はこの限りではない。
- 3) 事故、または車両故障などの理由によってリタイア（中途退場）する場合は、その地点からもっとも近い競技役員（コース審判）に報告し、用意してある用紙によってリタイア届けを提出しなければならない。
- 4) ライダーは、リタイア届けを提出した競技役員に車両をあずけて退場しなければならない。
- 5) ライダーは停止車両をそのレースが終了するまで競技役員（コース審判）の管理下におかななければならない。ただし、そのレースに支障のない地点まで車両を移動させることをコース審判（競技役員）から指示された場合にはこれに従わなければならない。

5. レースの終了

レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップ走者がゴールしたのち付則および特別規則に示す時間を

経過した時点である。

16 優勝者、入賞者および完走者

優勝者、入賞者および完走者の定義は付則に示す。

17 入賞車両の検査

レース終了後、各クラスの1位から6位までの車両は暫定結果発表後30分以上保管され、必要に応じて検査される。

18 レース結果および記録の公表

- 1) レース終了直後、暫定結果の公表をおこなう。
- 2) レース正式結果は、レース終了後3時間以内に、公表される。
- 3) 参加者、ライダーは公表されたレース正式結果に対して抗議することはできない。



19 レースの延期、中止および打ち切り

- 1) レースは特別な理由のない限り、打ち切ったり、中止したりされない。
- 2) 大会審査委員会が特別な理由によってレースのいずれかを放棄しなければならないと判断したときに限り、レースを中止することができる。
- 3) すべての関係者は大会審査委員会の決定にしたがわなければならない。
- 4) 特にやむを得ぬ理由によって、トップ走者がそのレースにきめられた周回数(または時間)の3分の2を完走しないうちにレースを打ち切った場合は、そのレースは無効となる。
- 5) トップ走者が決められた周回数(または時間)の3分の2以上を完走した場合でレースを打ち切った時は、大会審査委員会はそのレースの判定結果に条件を付して発表する。
- 6) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料は返還されるが、他のいっさいの損害賠償を主催者に請求することはできない。
公式予選終了後の中止については決勝進出者のみエントリー料が返却される。
- 7) 大会審査委員会が本項に関し下した裁定に対してはいっさい抗議することはできない。

20 抗議

- 1) エントラント、ライダーおよびピットクルーのみが抗議申し立てができる。
- 2) 抗議しようとするときは、定められた手続によって大会事務局に申し入れをしなければならない。
抗議手続きは、大会事務局に備え付けの抗議申し立て書に記載し、1項目につき、抗議保証金10,000円をそえて大会事務局に提出しなければならない。
- 3) 暫定結果に対する抗議は発表後30分以内に限り受付られる。
- 4) 正式の手続きをふんで提出された抗議申し立てだけが受付られ、大会審査委員会において審議される。
- 5) 大会審査委員会は、証人を必要と認めた場合証人をたて、その証言を求め、十分に実情を調査したうえで裁定をくだすものとする。
- 6) 大会審査委員会が下した裁定に対してはいっさい抗議することはできない。
- 7) 抗議保証金は抗議が成立した場合のみ返還される。

21 損害の補償

1. 車両の破損

- 1) 車両およびその附属品等が破損した場合、その責



任は参加者が負わなければならない。ただし、車両が車検長または大会審査委員会によって保管されている期間をのぞく。

- 2) 車検長または大会審査委員会は、車両を保管している期間中に、これらの車両がなんらかの理由によって破損した場合には、一台当たり10万円を最高限度額としてその所有者に補償する。

2. 損傷の責任

競技会開催期間中、またはその前後に起された損傷は自らが責任を負うものとする。

3. 競技役員の実任

ライダーおよびピットクルー等の参加者は、競技役員がいつさいの損害補償の責任を免ぜられていることを知っていなければならない。すなわち競技役員はその職務に最善を尽すが、仮りに競技役員の実任によって起きた参加者、ライダー、ピットクルーおよび車両等の損傷に対しても、競技役員はいつさいの責任のないことをいう。

22 競技規則の違反行為に対する罰則

大会中（競技中）における違反行為に対しては、その軽重によって大会審査委員会ならびに競技総監督の権限で下記の罰則を課することができる。

- 1) 注意処分（口頭による注意または注意処分通告書）
- 2) 嚴重警告（警告通知を受けたものは始末書提出）
- 3) 罰金（1万円以上5万円以下）
- 4) 競技結果に対する1分以内の加算
- 5) 競技結果に対する1分以上の加算または1週間以上の減算
- 6) 失格

違反の判定は、競技総監督の判断を優先するが、罰則の減量や適用は、大会審査委員会の決定を優先するものとする。

罰則は、大会審査委員会の報告にもとづき、MFJスポーツ委員会によってさらに事後の出場停止、資格停止にまでおよぶかどうか、審査、裁定され、30日以内に通告される。

23 主催者の権限

主催者は必要に応じて随時、競技会場内（パドック、ピット等）で、参加者（エントラント、ライダー、ピットクルー）のライセンスの提示を求めることができる。

24 大会審査委員会の権限

大会審査委員会は、競技役員規定に基づき競技会において最高権限を行使することができる。



ROAD RACE

付則1 ロードレース



- | | | | |
|------------|---|----------------------|---|
| 1 適用の範囲 | ④ | 5 公式予選(オフィシャルプラクティス) | ④ |
| 2 ロードレース | ④ | 6 レース | ④ |
| 3 レース出場車両 | ④ | 7 優勝者、入賞者順位、完走者および得点 | ④ |
| 4 合図旗および合図 | ④ | 8 ライダーの装備 | ④ |

1 適用の範囲

以下に記す規則は、総則にもとづき、すべての国内ロードレース競技会に適用される。(世界選手権を除く)

2 ロードレース

ロードレースとは、舗装され、完全にクローズドされたサーキットでおこなわれるレースであり、総則およびこの付則により運営・管理される。

3 レース出場車両

- 1) 1大会において同一車両を複数の種目のレースに使用することはできない。
- 2) 1大会において同一車両を複数のライダーが使用することはできない。

4 合図旗および合図

- 1) 公式練習、予選および決勝レース中は、下記の合図旗が使用される。

2) 寸法

- ・シグナル用フラッグ 60×80cm(最小限)
- ・赤旗 60×100cm

3) コントロールラインで使用される旗

- ・国旗……………レース・スタート
- ・白黒チェッカー旗……………レース終了
- ・赤旗……………レースまたはプラクティスが中断され、すべてのライダーは最大限の慎重さと注意をもってそれぞれのピットに復帰。赤旗はサーキットを閉鎖する場合にも用いられる。
- ・黒旗と白ナンバーを付した黒の合図板との併用…

示されたナンバーを付けているモーターサイクルのライダーは、次のラップでピット停止。

- 4) 各コーナーポストで使用される旗
- ・黄旗……………危険ノ
 - { 静止……………減速
 - { 振る……………減速、停止準備、追越禁止
 - ・黄色ストライプ付の赤旗……………
 - トラック表面滑り易し
 - ・黄旗と黄色ストライプ付赤旗の併用……………
 - レース停止。コース長が赤旗を出したらすぐにかかげる。
 - ・緑旗……………先に示した合図は解除。
 - ・白旗……………トラック上に徐行車両あり。
 - ・青旗……………追越シグナル。1台またはそれ以上の高速マシンが貴方を追越そうとしている。
 - { 静止……………間もなく追越される。
 - { 振る……………追越される寸前。
- 5) ライトによるシグナル
- スタートの際の国旗の代わりに、赤、黄、緑のライト・シグナルを用いることができる。旗によるサインの代わりに、ライトによるシグナルを使うことができる。
- ・黄色燈の点滅1、2回…黄旗と同意味。
 - ・緑色燈……………緑旗と同意味。
 - ・赤色燈……………赤旗と同意味、競技総監督が使用。
- ライトによるシグナルは、特に夜に行われるレースに使用しなければならない。

5 公式予選(オフィシャルプラクティス)

1. 公式予選の内容

- 1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 2) 公式予選の日程および時間は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- 1) レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。
- 2) 公式予選においては、競技役員による車両の安全上のチェックがなされた後にスタートし、与えられた時間内であれば走行を中断し、または再スタートすることができる。
- 3) 公式予選では、ラップタイムが測定されている。この測定で、最高ラップタイムがはなはだしくおとるものは、たとえ定員内であっても出場資格を与えられない場合がある。
- 4) 公式予選において測定される各ライダーの最高ラ

ップタイムにより、大会特別規則に示されるレース出場台数を限度としてスタート位置が定められる。最高ラップタイムが同じ場合は次のラップタイムの順位による。

- 5) 各クラスの公式予選義務周回数は3周以上とする。なお、最初の1ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。
- 6) 2種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。
- 7) 予選が複数の組に分れて行なわれる場合、天候の変化等により組ごとに路面状態に大幅な差異が生じることがあるが、その場合は総合タイム順ではなく、各組ごとのタイム順により決定する。
- 8) 最終的な予選選出方法は大会審査委員会の決定による。

3. 予選通過者で出場不可能となった者はすみやかに届けを出さなければならない。

レース出場が不可能となったことを届けたライダーがあった場合、予選タイムを基準としてくり上げる場合がある。

6 レース

1. スタート位置

- 1) レースのスタート位置は、各ライダーに与えられているゼッケンナンバーとは関係なく最高ラップタイムによって決定される。

2. スタートまでの行動

- 1) スタートまでの行動は原則として次の時間割による。

スタート	約60分前	給油およびレース前車両チェック開始、終了後ただちに待機区域に入る。待機区域コースへ誘導。
スタート	15分前	ウォーミングアップ、またはウォーミングアップラップ1周開始
スタート	5分前	スタート位置整列
スタート	3分前	エンジン停止
スタート	2分前	表示。メカニック離れる
スタート	1分前	表示
スタート	30秒前	表示
スタート	10秒前	レースのスタートを示す合図
スタート		青色シグナルまたは国旗にて表示
- 2) 決められた時間以外にエンジンを始動させてはならない。

3. スタート方法

- 1) スタート方法は同時スタートとし、下記の2種類があり、公式通知に示される。
 - (1) 押がけスタート
 - (2) クラッチスタート
- 2) スタート位置は、すべての正規のスタートラインからなされたものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。
- 3) スタートの合図は原則としてシグナル・ランプによっておこなわれる。ただし特別の理由により旗によっておこなわれることがある。

4. ビット

ビットとは車両の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業をおこなう目的のためにライダーに与えられた区域のことである。

5. ビットイン

- 1) ビットインする車両のライダーは、ビットロード入口手前よりビット側に車両を寄せ、手または足でビットインの合図を行ったのち、安全を確認してビットロードを徐行しなければならない。
ビットエリア（停車区域）を走行してビットインしたりビットアウトする事は禁止される。
- 2) ビットインする車両のライダーは、自己のビットに出来るだけ近いビットロードからビットエリアに入り、出来るだけ自己のビットに近づけて車両を停

車させ、必ずエンジンを停止させなければならない。

- 3) ビットインしてビットエリアに入った車両、及び当該車両のライダーやビットクルーは、ビットインして来る他の車両、あるいはビットアウトして行く他の車両の通過を妨げてはならない。
- 4) ビットインのさい、自己のビット前を通り越して停車した車両のライダーは、エンジンを停止させたのち、競技役員の承認を得て当該車両のライダー及びビットクルーによって後向きに押し戻し、自己のビットにつけることが出来る。

6. ビットアウト

- 1) ビットロードに於てはビットインしてくる車両に優先権がある。
- 2) ビットロードを出てコースに復帰するライダーは、ビットロードを出て最初のコーナー出口に達するまで、コースビット側に沿って走行しなければならず、その間、後方から近づく車両の走行を妨げてはならない。

7. ビット作業

- 1) レース中における車両の修理、調整、部品交換は、ビットに準備してある部品と工具によっておこない、必ずエンジンは停止しておこななければならない。
- 2) ビットに準備してある部品、工具による作業は、正規にビットインした車両に対してのみおこなうことができる。
- 3) エンジンアッセンブリーおよびフレームアッセン



ブリーを交換してはならない。

- 4) ピット区域内にオイルをこぼしたり、汚したりした場合は、ただちにきれいに掃除しておかなければならない。

8. ピット作業人員

- 1) ライダーはその車両のメカニックを2名まで持つことができる。
- 2) レース中にピットインし、エンジンを停止した車両に対しての作業は、2名のメカニックと、その車両のライダーの計3名だけに限られる。
- 3) ライダーに対するピットクルー（メカニック、ピットサインマンおよびヘルパー）の合図は、大会競技役員の使用する合図用旗にまぎらわしいものであってはならず、また「ピット区域」のみで合図を送ることができる。
- 4) ピット作業をおこなう者はすべてピットクルーライセンス所持者で、大会に参加の申請がなされた者でなければならない。
- 5) ピットクルーは開催期間中を通じてどの大会競技役員からの指示にもしたがわなければならない。
- 6) ピットクルーが守らなければならないことに違反した時は、そのピットクルーの担当のライダーが責任を問われ、罰則が課せられる。

9. レースの終了

各レースの終了は、チェッカーフラッグによりトップ走者がゴールしたのち特別規則に示す時間を経過した時あり、チェッカーフラッグ・マーシャルが指定位置より退場したことにより示される。

注：原則的にコースの1周の距離を1kmにつき1分として定められる。

7 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は、規定の周回数を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の優先順序

周回数の多い者を優先する。同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。

4. 完走者

- 1) 優勝者の75%以上の周回数を完了したライダーが

完走者である。

- 2) レース途中でリタイア届を提出したライダーも完走周回数を完了している場合は完走者とみなされる。

5. ピットロードでのゴールは周回数には積算されるがチェッカーを受けたとは認められない。

6. 得点

- 1) 得点は総則〔8〕（27頁参照）によって与えられる。
- 2) SPフォーミュラクラスについては自動昇格のポイントの対象外とする。

8 ライダーの装備

1. ヘルメット

- 1) ヘルメットはフルフェイス型のものでMFJが公認したものでなければならない。
- 2) MFJの公認したヘルメットには下記の認証マークが貼付される。
- 3) 競技会の車両検査受付時に、ヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでも、ライダー本人の安全上使用を禁止する。
- 4) MFJ公認ヘルメットでMFJの公認認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料（1,000円）を支払い、新規に検査を受けなければならない。



ヘルメットには特別推薦を示すホワイト地、またはゴールド地の認証マークがついてなければならない。

2. ライダーの服装

- 1) ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、操縦を妨げるものであってはならない。
- 2) 皮製のレーシングスーツ、皮製の手袋およびブーツなどは、フックなどが外部に突出していないライダーの身体にピッタリしたものでなければならない。
- 3) ライダーは競技会中、合成繊維（ナイロン、テトロン等）の肌着を着用してはならない。皮製のレーシングスーツの裏地は、耐熱および耐火処理をほどこした難燃性の布製のものでなければならない。

【乗る】バイクから【走る】マシンへ...

街中を走るバイクをレーシングシーンを彷彿させるフォルム
 に変えるオリジナルストリートカウル(手軽に取り付けOK!)



SPOT TZR250 オプション
 ストリート ¥124,000 *シングルシート
 カウル、スクリーン、ウィンカー、
 マーシャルヘッドライト(2個)、
 マーター(ネール、取付ステー、
 ゲルコート仕上げ ¥49,000
 マルコスカーペイント ¥98,000 *バックシールド(2+1組) ¥7,000
 P-3用 *カウル ¥93,000
 *スクリーン ¥18,000
 *タンクカバーシート(専用ステー付) ¥47,000

TZR250



SPOT NS250 R-F オプション
 ストリート ¥124,000 *バックシールド ¥ 7,000
 カウル、スクリーン、ウィンカー、
 マーシャルヘッドライト(2個)、
 マーター(ネール、取付ステー、
 ゲルコート仕上げ ¥39,000
 *専用ハンドル ¥ 8,000
 *アルミサイレンサー ¥22,000
 *クラフトマン製) ¥53,000
 *F仕様に限り、ステーに加工
 が必要です。 *NS250Fカウル ¥18,000
 *スクリーン ¥18,000
 *ロスマンズカーペイント ¥100,000 *NS250Fシート ¥38,000



NS250R/F



※取付の前には必ず両連絡下さい

野島の本公署 日本センター
 東京事務所 当社
 大阪事務所 東京事務所
 名古屋事務所 東京事務所
 京都事務所 東京事務所
 福岡事務所 東京事務所
 仙台事務所 東京事務所
 北九州事務所 東京事務所

全製品
 通信販売
 専用
 クレジット
 OK

SPOT F.R.P. SERVICE
 RACING F.R.P. PARTS & SCREEN

スポット エプアールビー サービス

〒143東京都大田区京浜島2-14-3
 ☎03-799-0815
 夜 03-428-0454
 AM9:00~PM6:00
 定休日:日曜・祭日



MFJ会員の方に、
 特典有り
 御買い求めの際は
 御知らせ下さい。

代理店: 関東地域 西コニオートセンター 関西地域 ユーエーエス
 031-86219811 UAS 0798(46)1000

スポーツの一番
 03-799-0815

ROAD RACE

付則2

ロードレース車両規定



- | | | | |
|----------------|---|-------------------|---|
| 1 レース出場車両 | ③ | 4 GPフォーミュラ部門の改造限度 | ④ |
| 2 MFJ公認車両・公認部品 | ④ | 5 TTフォーミュラ部門の改造限度 | ⑤ |
| 3 総合仕様 | ④ | 6 SPフォーミュラ部門の改造限度 | ⑦ |

1 レース出場車両

出場車両（以下車両という）は、下記の仕様と改造の限度をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

1. 車両の排気量区分

車両の排気量区分は次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

●GPフォーミュラ部門

クラス	通常吸気型		4サイクル過給型	
	最小	最大	最小	最大
80cc	51cc	80cc	25.5cc	40cc
125cc	81cc	125cc	40.5cc	62.5cc
250cc	126cc	250cc	63cc	125cc
500cc	351cc	500cc	125.5cc	250cc

●T.T.フォーミュラ部門

クラス	2サイクル型		4サイクル通常吸気型		4サイクル過給型	
	最小	最大	最小	最大	最小	最大
TTF 1	351cc	500cc	601cc	750cc	301cc	375cc
TTF 2	251cc	350cc	401cc	600cc	201cc	300cc
TTF 3	126cc	250cc	251cc	400cc	126cc	200cc
TTF 4	51cc	125cc	126cc	250cc	62.5cc	125cc

●SPフォーミュラ部門(スポーツ・プロダクション)

クラス	排気量(cc)	2サイクル	4サイクル
SP 50	~50	○	○
SP 80	51~80	○	○
SP 125	81~125	○	○
SP 250	126~250	○	○
SP 400	251~400	×	○

※ 但し各サーキットごとにそれぞれ2サイクル、4サイクル、の排気量別に開催クラスの組合せが認められる。

2 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両および公認部品は、総則〔10〕28頁を参照。

3 総合仕様

車両は、安全のために次の各項のすべてをみたしていなければならない。

1) ブレーキ

車両は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えなければならない。

2) リムとタイヤ

50ccと80ccを除き最小限リム直径は16インチとする。

3) ハンドルバー

(1) ハンドルの端から端までの幅は80cc以下は400mm

以上、それ以外は450mm以上でなければならない。

(2) 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

4) ハンドルバーのクリアランス

(1) グリップ部およびレバーとカウリングとのクリアランスは20mm以上でなければならない。

(2) ハンドルの回転角度を左右いっばいに切った時ライダーの指を挟まないようにハンドルバーと燃料タンクの間で最低30mmの間隔を確保しなければならない。

5) スロットルコントロール

スロットルコントロールは手をはなすともどる方式でなければならない。

6) クラッチおよびブレーキレバー

クラッチレバーおよびブレーキレバーの末端は、直径19mm以上の球状で容易に取れたり外れたりするものであってはならない。このボールを平たくすることも認められるが、いかなる場合においてもその端部に丸味を持たせることが必要である（この平たくした部分の厚みは少くとも14mmとする）。ピボット点からボールの端まで測った場合のコントロールレバーの長さは200mmまでとする。

7) フートレストおよびペダル

(1) フートレストは、前後車軸の中心を通過する線の100mm上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるように取り付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作できる位置にしなければならない。

(2) フートレストおよびペダル類の先端の角は安全上丸められていなければならない。

8) シートエンドの高さ

シートの後方の部分が150mm以上の高さがあるてはならない。（43頁図参照）

9) 排気系

排気はすべて側方に開口のない管により、車両の後方に排出されねばならず、排気管の端部は少なくとも30mmの長さで、マシンのセンター軸と水平かつ平行でなければならない。（許容誤差 $\pm 10^\circ$ ）

また排気管は後輪最後端垂線より突出してはならず、排気がほこりを立てるように排出されたり、タイヤやブレーキを汚したり、後続のライダーに迷惑を与え無にする為、洩れたオイルの飛散を防ぐあらゆる可能な処置をしなければならない。但し、公認時の排気系を使用する場合はこの限りではない。

10) 音量規定

(1) 排気管およびサイレンサーは音量規制についてのすべての要求事項を満たしていなければならない。

(2) 音量はFIM方式による測定方法で、105db(A)。ただし4サイクル車は誤差値が+5db(A)まで認められる。

2) FIM方式による音量測定方法は、総則〔12〕1.の

3) 29頁を参照。



11) 車両の傾斜角

車両の傾斜角度は無負荷で、タイヤを除きどの部分も接地することなく垂線に対して50°傾斜させることが可能でなければならない。(43頁図参照)

12) カウリング

カウリングを使用する場合は次の条件をそなえたものでなければならない。(42～43頁図参照)

- (1) タイヤを除く前輪は両側に明瞭に見えなければならない。
- (2) 前後輪の車軸を通る垂線の間になければならない。
- (3) カウリングの下端と地面との間隔は100mm以上でなければならない。
- (4) ライダーが普通に乗車した状態でライダーの両前腕部以外は上方、後方、両側面から見えなければならない。ライダーの顔面またそのヘルメットとカウリング(ウインド・スクリーンを含む)との間の最小限スペースは100mmとする。
- (5) 後方に面しているカウリングのいかなる部分も、その端部を少くとも半径3.5mmの丸状にしなければならない。後方に面しているウインド・スクリーンの端部にはガードを施して切り傷を負う恐れのないようにしなければならない。
- (6) エアfoilまたはスポイラーは、それらがフェアリングまたはシートの不可欠部分である場合に限り、とり付けることができる。これら装置の幅は、フェアリングの幅をオーバーしてはならず、また、その高さはハンドルの高さをオーバーしてはならない。ふちのとがった部分は少くとも8mmの丸味をもたせなければならない。
- (7) 上記の適用を避けるために透明な物質を使用することはできない。
- (8) カウリングの前端部の形状は42頁の図に示す範囲でなければならない。

13) 後輪の可視範囲

後輪のリムは後輪の垂直線の後部円周180度にあたって明瞭に見えなければならない。

14) 部品の最後端

いかなる部品も後輪最後端垂線よりうしろに突出してはならない。

15) フェンダー(泥よけ)

フェンダーは、前後とも取りのぞいてもかまわない。ただし取り付けの場合は43頁図に示すとおり確実に装備しなければならない。

16) 取りはずさなければならないもの

ライト類、バックミラー、スタンド類、荷台、およびキックアームは取りはずさなければならない。

17) レースナンバープレート

(1) ナンバープレートの大きさ

ナンバープレートは、車両の前面に取りつけるものは左右285mm以上、上下235mm以上の大きさのもので、43頁図に示されているものでなければならない。車両の左右に取りつけるのは43頁図に示されるように左右300mm以上、上下250mmの長方形のものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚は車両の前面に、前向きに、垂直から25度以内の角度をつけて取り付け(42頁図参照)、車両の両側面にも各1枚垂直方向に取りつけなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通り。
ノービス部門=白地に黒文字(SPクラスは黒地に白文字)

ジュニア部門=黄地に黒文字)

国際A級部門=赤地に白文字

※世界選手権競技会においてはFIM規定に準ずる。

※蛍光色は禁止する。

(4) ナンバーの字体および寸法

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。

ナンバーの文字寸法は、高さ200mm、幅は25mmとする。誤読されないよう書体には注意。(16頁図参照)



総合仕様(40~41頁より)参考図

25度以内

前面のナンバープレートは、垂直に対して25度以内の角度とする。

25mm以下

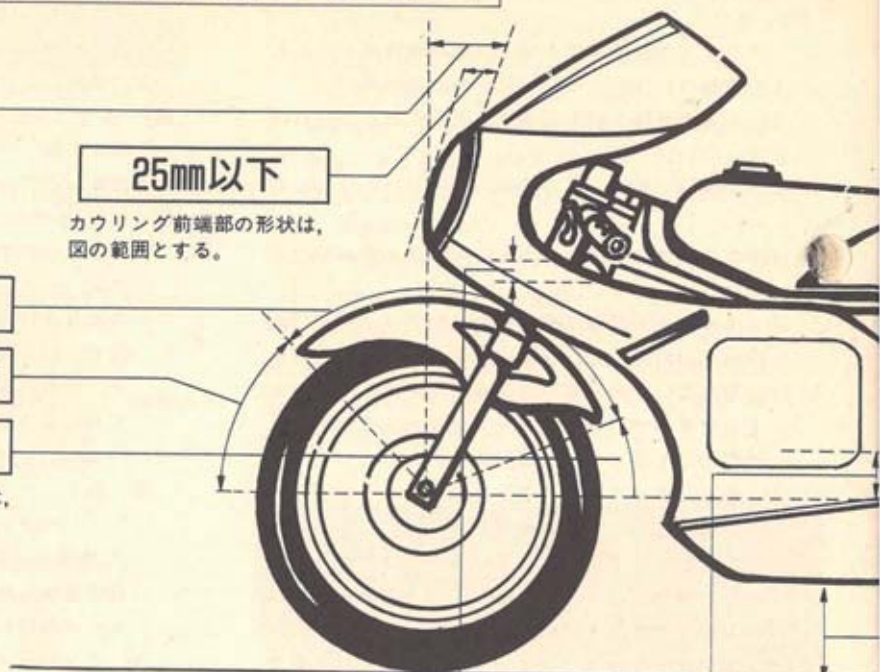
カウリング前端部の形状は、図の範囲とする。

100度以上

45度~60度の間

20度以下

フェンダーを取りつける場合は、図の示すように装備する。



19mm以上

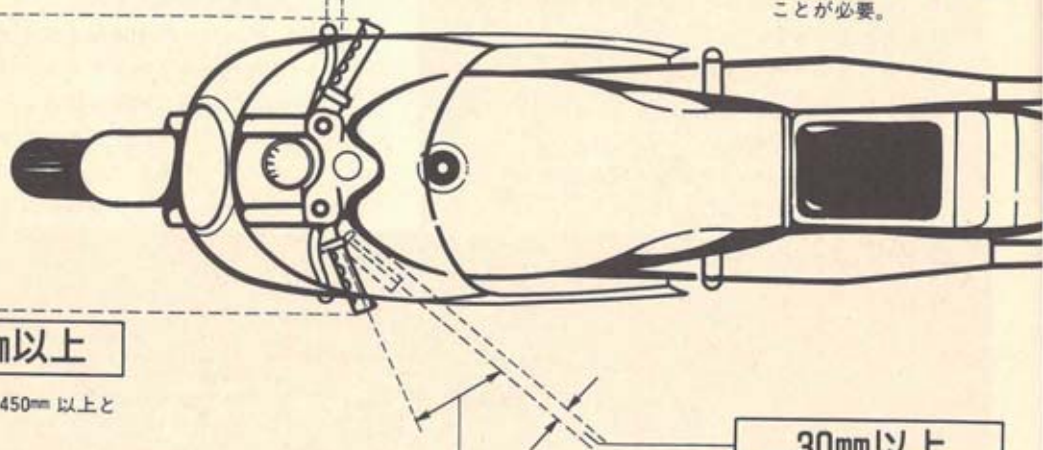
クラッチレバー、ブレーキレバーの先端は、直径19mm以上の球状とする。

20mm以上

グリップ部、レバーとカウリング間には20mm以上のクリアランスをとる。

100mm以下

フットレストは、前後車輪の中心を結ぶ線の100mm上方より下側に、また後輪の中心を通過する線の前側に取り付けられる必要がある。



450mm以上

ハンドル幅は450mm以上とする。

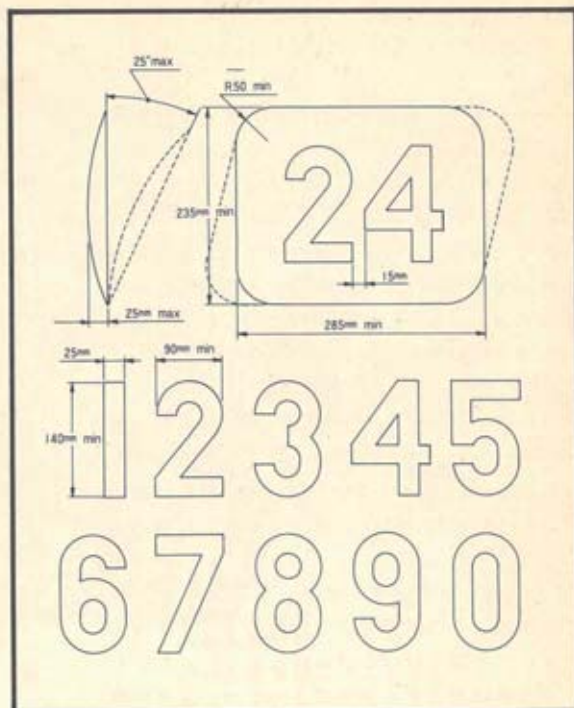
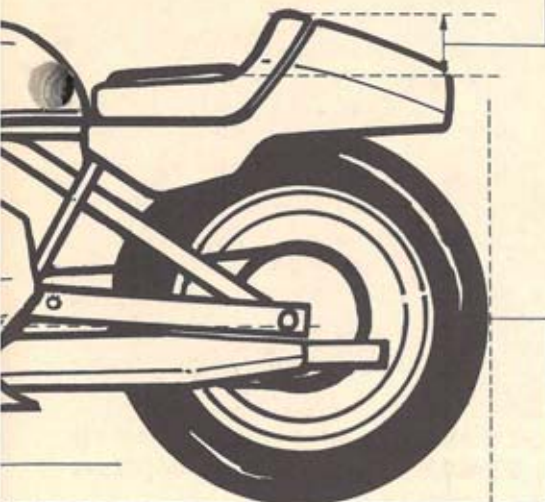
20度以上

ハンドルの回転角度は20度以上とする。

30mm以上

ハンドルをいっばいに切ったとき、ハンドルバーと燃料タンクの間隔は30mm以上にする。

150mm以下

シート後方部分の高さは
150mm以下にする。

100mm以上

カウリング下端と地面には
100mm以上の間隔をとる。

はみ出し禁止

いかなる部品もこの垂直線
より後方に出てはならない。

丸める

フットレスト、ペダル類
の先端は丸められたもの
とする。

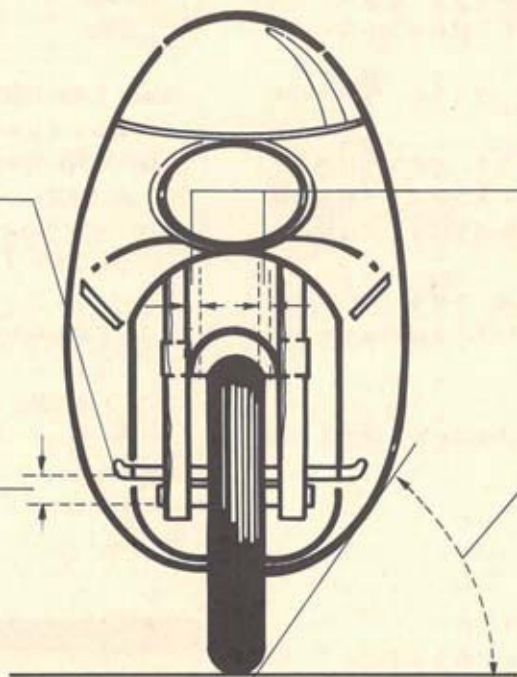
10mm以上

フェンダーを取りつける
場合は、フェンダー幅を
タイヤ幅より左右それぞれ
10mm以上とる。

100mm以下

フットレストは、前後車
輪の中心を結ぶ線の100mm
上方より下側に、また後
輪の中心を通過する垂線
の前側に取り付けられる
ことが必要。

50度以上

無負荷の状態、タ
イヤを除きどの部分
も接地することなく
50度の傾斜角をもつ
こと。

18) オイル・ドレーン・プラグと供給パイプ

すべてオイル・ドレーン・プラグはきつく締め、ゆるみ止めに有効なロックワッシャーで固定するかドリルで穴をあけ、ワイヤーで所定の位置に固定する。オイル供給パイプは、ワイヤーで所定の位置に固定する。

オイルキャビテーターに達する外側のオイルフィルター、スクリューまたはボルトは安全のためにワイヤーどめをしなければならない。

19) 燃料、オイル・フィルター・キャップ

燃料、オイル・フィルター・キャップは、閉じた状態でもれる恐れがあってはならない。さらに、いかなる場合においても誤って開くことのないように、完全にロックされていなければならない。

20) 燃料タンク・ブリーザー・パイプ

燃料タンクブリーザーパイプを取り付ける場合は、ノン・リターン・バルブを燃料タンク・ブリーザーパイプに取り付けなければならない。これらは適切な材質の最小限容量 250cc のキャッチパンに排出式とする。

21) オイル・キャッチ・タンク

全ての車両はその排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。ただし 2 サイクル車はギヤボックスブリーザーパイプの取り付けられている車両のみ、その排気量の 1/2 より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けること。なお、転倒時に容易に脱落したり破損せず、高温にも耐えられる材質のものでオイルがこぼれないように、確実に取り付けなければならない。また、スタート時には必ず空にしておかなければならない。

22) 燃料タンク

燃料は、車両にしっかりと固定された唯一つのタンク内に収めるものとする。

シート・タンクおよび補助タンクの使用は禁止される。軽便着脱式のとりかえタンクは、すべての種類の競技について、燃料補給の手段としては使用を厳禁される。

さらに、タンクの容量を減少させる一時的充てん物の使用は禁止される。防火物質の全面的充てんは認められる。

23) 危険防止

他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような改造をしてはならない。

4 GPフォーミュラ部門の改造限度

競技の公平および安全性に関連して次のような改造制限を定める。

1 国際A級部門

(1) 車両は自由とする。

車両区分

クラス	排気量区分				最大限 気筒数	最大限 ミッション	タンク容量 (リットル)
	通常吸気型		4サイクル過給型				
	最小	最大	最小	最大			
125cc	81cc	125cc	40.5cc	62.5cc	2気筒	6段	6-32
250cc	126cc	250cc	63cc	125cc	2気筒	6段	6-32
500cc	351cc	500cc	126cc	250cc	4気筒	6段	6-32

(2) すべての車両は総則及び総合仕様を示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。

(3) 半乾燥重量は下記の最低重量をみたしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車両重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

クラス	最低重量
125cc (単気筒)	65kg
125cc (2気筒)	75kg
250cc	90kg
500cc	100kg

なお、上記の最低重量をみたすために、ダミーウェイトを装備してはならない。

(4) 車両が発生する音量については、総合仕様10)参照(40頁)

(5) すべてのモーターサイクルについて、フレーム、フロント・フォーク、スイング・アーム、ハンドルバーおよびホイール・スピンドル構造にチタニウムを使用することは禁止される。

ホイール・スピンドルに軽合金を使用することも、また禁止される。

※予告事項

'88年1月1日より125ccクラスの最大限気筒数は単気筒となる。

2 ジュニア・ノービス部門

1) 車両は市販レーサー又は一般生産型モーターサイクルでMFJが公認した車両でなければならない。



2) すべての車両は総則及び総合仕様を示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。

3) 車両区分

クラス	排気量区分	最大限気筒数	最大限ミッション	最大限タンク容量
80cc	51cc～80cc	単気筒	6段	6～32ℓ
125cc	81cc～125cc	2気筒	6段	6～32ℓ
250cc	126cc～250cc	2気筒	6段	6～32ℓ

※予告事項

'88年1月1日より125ccクラスの最大限気筒数は単気筒となる。

4) 半乾燥重量は下記の最低重量をみたしていなければならない。

半乾燥重量とは、走行可能な状態から燃料を抜いた車両重量をいう。ただし、分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

クラス	最低重量
80cc	55kg
125cc (単気筒)	65kg
125cc (2気筒)	75kg
250cc	90kg

なお、上記の最低重量をみたすためにダミーウェイトを装備してはならない。

5) 車両が発生する音量については、総合仕様10) 参照 (40頁)

6) 一般生産型モーターサイクルの改造限度

一般生産型モーターサイクルをベースに改造を行う場合は下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) フレームの基本骨格及びクランクケース本体は車両公認時のものでなければならない。

ただし、フレームの補強は認められる。

(2) チタン合金を素材としこれを加工して製造された部品を使用してはならない。

(3) 過給はみとめられない。

(4) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。

7) 市販レーサーの改造限度

市販レーサーをベースとし改造を行う場合は下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

(1) フレームの基本骨格及びクランクケース本体は車両公認時のものでなければならない。

(2) 下記の部品はMFJが公認したもののみ変更することが出来る。

(1) シリンダー

(2) シリンダーヘッド

(3) ミッション

(4) フロントフォーク

(5) リヤサスペンションユニット

(6) スイングアーム

(7) キャブレター

(3) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。

(4) 過給は認められない。

(5) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。

5 TTフォーミュラ部門の改造限度

1. 車両の排気量区分

車両のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。

クラス	2サイクル型		4サイクル通常吸気型		4サイクル過給型(国際A級のみ)	
	最小	最大	最小	最大	最小	最大
TTF 1	351cc	500cc	601cc	750cc	301cc	375cc
TTF 2	251cc	350cc	401cc	600cc	201cc	300cc
TTF 3	126cc	250cc	251cc	400cc	126cc	200cc
TTF 4	51cc	125cc	126cc	250cc	62.5cc	125cc

注：エンジンは、各クラスの上限を15%越える排気量の公認車両のものまで、ベース車両として選択できるが、ボアダウンによって当該クラスのリミット内に排気量を下げなければならない。(ストロークダウンはできない)

国際A級部門

2. 国際A級部門の車両

TTフォーミュラ・モーターサイクルは、現在生産されているモーターサイクルで、一般ユーザーが容易に入手し得るものであり、下記の条件をみたしていなければならない。

- 車両は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルでMFJまたはFIMが公認したものでなければならない。
- TTフォーミュラレース参加に適合する為には、同一モデルのマシンが少なくとも1000台販売された事を証明しなければならない。生産台数は文書により証明する。申請より60日後に当該モーターサイクルの競技使用が認められる。(FIM公認車両)

※世界選手権競技会においてはFIM公認車両に限られる。

3. 国際A級部門の改造限度

- すべての車両は、総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。
- 下記のものについて、公認型式に変更を加えることは禁止される。
 - エンジンの型式
 - シリンダー、吸入・排気バルブの数
 - ピストンストローク
 - シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース、及びギヤボックスシユルの材質及び鋳造
 - バルブ数を含む吸・排気装置、及び2サイクル型エンジンのポート数、キャブレターの数
- 下記の制限内で改造をおこなうことができる。
 - ギヤミッションは6速の範囲内でギヤボックスシユルに変更を加えない限りギヤ段数及び変速比を変更できる。
 - 燃料タンク最大限容量は下記に制限される。
 フォーミュラ 1 = 24リッター
 フォーミュラ 2 = 20リッター
 フォーミュラ 3 = 18リッター
 フォーミュラ 4 = 15リッター
 ※但し車両公認時のものはこの限りではない。
 (世界選手権大会は除く)
 - シリンダーのキャストイング(鋳造)を変更することなくボアを拡大することができる。ただし、この拡大が当該車両本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。



ただし、再ボーリングの場合は当該クラスのリミットの1%オーバーまで認められる。

- (4) 安全上の理由により、ヘッドライト、電装品、ホーン、ナンバープレート、スピードメーターおよび競技規則にうたわれているその他の部品を取り外すことが認められる。
- (5) 安全と音量コントロールのために、排気管とマフラーの改造が認められる。音量規定については3総合仕様10(40頁)参照。
- (6) すべてのモーターサイクルについて、フレーム、フロント・フォーク、スイング・アーム、ハンドルバーおよびホイール・スピンドル構造にチタニウムを使用することは禁止される。
ホイール・スピンドルに軽合金を使用することも、また禁止される。

ジュニア・ノービス部門

1. ジュニア・ノービス部門の車両

車両は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

2. ジュニア・ノービス部門の改造限度

- 1) すべての車両は、総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。
- 2) 下記のものについて、公認型式に変更を加えることは禁止される。
 - (1) エンジンの型式
 - (2) シリンダー、吸入・排気バルブの数
 - (3) ピストンストローク
 - (4) シリンダー、シリンダーヘッド、クランクケース、及びギヤボックスシユルの材質及び構造
 - (5) バルブ数を含む吸・排気装置、及び2サイクル型エンジンのポート数
 - (6) キャブレターの数と型式
 - (7) フレーム
 - (8) 燃料タンク
- 3) 下記の制限内で改造をおこなうことができる。
 - (1) ギヤミッションは6速の範囲内でギヤボックスシユルに変更を加えない限りギヤ段数及び変速比を変更できる。(MFJ公認部品)
 - (2) シリンダーのキャストリング(铸造)を変更することなくボアを拡大することができる。ただし、この拡大が当該車両本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。ただし、再ボーリングの場合は当該クラスのリミットの1%オーバーまで認められる。
 - (3) 安全上の理由により、ヘッドライト、電装品、ホーン、ナンバープレート、スピードメーターおよび競技規則にうたわれているその他の部品を取

り外すことが認められる。

- (4) フレームの補強及び必要でないステー類のカット。
- (5) 燃料タンクの給油口及びコック。
- (6) 安全と音量コントロールのために、排気管とマフラーの改造が認められる。音量規定については3総合仕様(10)(40頁)参照。
- 4) 構成部品
 - ① 変速機はMFJが公認したものでなければならない。(MFJ公認部品)
 - ② チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。
 - ③ フレームとクランクケースの製造ナンバーは、出場申込書に記入しなければならない。部品交換の場合は販売証明が必要。

6 (スポーツ・プロダクション) SPフォーミュラ部門の改造限度

1. 出場車両

車両は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

2. 車両の排気量区分とライセンス区分

クラス	排気量	2サイクル	4サイクル	ライセンス区分
SP50	~ 50	○	○	Bロード、ノービス
SP80	51~ 80	○	○	Bロード、ノービス
SP125	81~125	○	○	Bロード、ノービス
SP250	126~250	○	○	ノービス
SP400	251~400	×	○	ノービス

※但し各サーキットごとにそれぞれ2サイクル、4サイクルの排気量別に開催クラスの組合せが認められる。

3. 改造の限度

- 1) すべての車両は総合仕様に表示されているロードレースについてのすべての条件に全面的に適合していなければならない。ただし公認時の型式に変更を加えない車両については、総合仕様41頁の8)シートエンドの高さ、15)フェンダー、12)カウリング、14)部品の最後端の項はこれにあたらない。
- 2) 改造規定

車両はMFJが公認した時と同じもので、以下に記してある項目以外は改造、変更は出来ない。

 - (1) エンジンおよび補機
 - ① キャブレターは車両公認時のものとし、ジェット類、ニードル類の変更及びエアファンネルの取り付けは可。
 - ② エアクリナー及びボックス、エレメントの改造・変更及び取りはずしは可。



- ③ スパークプラグ、プラグキャップの変更は可。
- ④ セルモーター、発電機の取りはずしは可。
ただし、セルモーターを取りはずさない場合は、それが作動しないようにしなければならない。
(セルスタータースイッチを取りはずすこと)
- ⑤ 2サイクル車の分離給油のオイルポンプ(オイルタンク含む)の改造、変更及び取りはずしは可。
- ⑥ アクセルワイヤー、アクセルグリップ部(ラバーR、L含む)オイルポンプ作動用ワイヤーの改造、変更は可。
- ⑦ クランクケースカバー(R、L)の改造、変更は可。
- ⑧ 4サイクル車のオイルクーラーの取り付けは可。
- ⑨ ラジエーター、ラジエーターカバー、クーリングファン、サーモスタットの改造・変更は可。
- (2) マフラー：改造、変更は自由。ただし、総合仕様10) 40頁参照に従って処置されていなければならない。
- (3) フレーム：改造、変更は不可。ただし、ゼッケンプレート・メーター・シート等の取り付けのためのステーの追加、及び必要でないステー類のカットは可。
- (4) フロント、リヤサスペンション：変更は不可。ただしエア加圧、スプリングの変更は可、なおスタビライザーでの補強はフロントのみ可。
- (5) フロント・リヤフォーク：ステアリングステム・トップブリッジを含み変更は不可。ただし必要でないステー類のカットは可。
- (6) ステアリングダンパー：取り付けは可。ただしステアリングストッパーとの兼用は不可。
- (7) ホイルアッセンブリ：変更は不可。ただしスピードメーターケーブルの取り出し口の改造は可。
- (8) タイヤ：一般市販されていて通常ルートで購入できるもののみ交換は可。ただし、スリックタイ

ヤ(レーシングレイン、インターミディエイト含む)及び摩耗限度を越えたもの及びグルーピング(溝切り)は不可。

- (9) スプロケット・チェーン：ファイナルレシオの変更は可(チェーンサイズを含む)
- (10) チェーンケース：取りはずしは自由とするが、ライダーの足がチェーンにまきこまれないようにカバーを取り付けることが望ましい。
- (11) ハンドルバー：変更する場合、グリップエンドはトップブリッジよりも上とする。(車両公認時のものはこの限りではない)ただし、3 総合仕様 3) (40頁参照)に従って処置されていなければならない。
- (12) カウリング：車両公認時に取り付けられているもの(メーカーオプション含む)のみ可。カウリングステーの改造・変更も可。
- (13) メーター類：改造・変更は可。
- (14) シート・シートカウル：改造・変更は可。(後輪の最後端の垂線より出はならない)
- (15) ガソリンタンク・車両公認時のもので、形状の改造、変更は認めないが、フューエルコック、給油口の改造は自由。
- (16) サイドカバー：取りはずしは自由とするが、取りはずさない場合は脱落しないような処置を施すこと。
- (17) フェンダー：フロントおよびリヤ共、改造・変更は可。
- (18) ステップ・ペダル：改造・変更は良いが、3 総合仕様 7) 40頁参照に従って処置していなければならない。
- (19) ブレーキ：前後ブレーキは当該車両公認時のものとし変更は認めない。ただしパッドの材質及びブレーキホースのみの変更は認める。
尚、不用のカバー類の取りはずしは自由。
注) ブレーキとはマスターシリンダー、ブレーキキャリパー(トルクロッド含む)、ディスクプレートまでをいう。
- (20) オイルキャッチタンク：4サイクル車は、その排気量より容量の多いオイルキャッチタンクを取り付けなければならない。
2サイクル車はその排気量の1/2以上とし、クラックケースよりホースの出ているもののみ取り付けなければならない。
尚、転倒時に容易に脱落したり、破損せず高温にも耐えられるものでオイルがこぼれたりしないような処置をし、確実に取り付けなければならない。
- (21) ワイヤーハーネス：改造、変更は可。
- (22) バッテリー：変更、取りはずしは可。
- (23) キルスイッチ：キルスイッチの改造、変更は自由であるが、完全に作動しなければならない。

ROAD RACE

付則3・'87全日本 選手権大会特別規則

全日本選手権ロードレース大会は、日本モーターサイクル協会（MFJ）公認のもと、MFJ国内競技規則にしたがい開催される。本特別規則は、1987年度全日本選手権シリーズのすべての大会に適用される。

1 開催競技会	④	14 ライターの装備	⑤	27 停車指示	⑤
2 運営実行組織	④	15 カソリンおよびオイル	⑤	28 レースの停止と再スタート	⑤
3 公式通知、タイムスケジュール	④	16 ビット割当て	⑤	29 棄権（リタイヤ）と停止	⑤
4 開催種目	④	17 出場受付	⑤	30 レース終了	⑤
5 競技内容	④	18 車両および装備の検査	⑤	31 優勝者、入賞者、完走者および順位	⑤
6 参加定員	④	19 ライターの変更	⑤	32 レース終了後の車両の保管と再検査	⑤
7 参加資格	④	20 出場車両の変更	⑤	33 レースおよび大会の延期・中止等	⑤
8 出場申込み	④	21 公式予選	⑤	34 抗議	⑤
9 出場料および保険料	④	22 決勝レース出場台数	⑤	35 違反に対する罰則	⑤
10 参加受理	④	23 スタートの手順	⑤	36 本規則の解釈	⑤
11 賞および得点	④	24 スタートにおける反則	⑤	37 本規則の施行	⑤
12 レース出場車両	④	25 レース	⑤		
13 セクセンナンバー	④	26 レース中の合図	⑤		

1 開催競技会(50頁に掲示)

2 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

3 公式通知、タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

4 開催種目

1. 競技部門およびクラス区分

全日本選手権シリーズの競技部門、クラス区分は右記の通りである。

- 1) 全日本選手権シリーズ・ロードレース大会にノービス地方選手権が併催となる場合がある。

部門 クラス	ジュニア	国際A級
125cc	○	○
250cc	○	○
500cc	—	○
F-3	○	○
F-1	—	○

全日本選手権ロードレース大会および主要ロードレース大会、世界選手権の開催種目および地方選手権併催レース種目は50頁掲載の表の通りである。

5 競技内容

- 1) レース区分は50頁および51頁の通りである。ただし、参加台数、天候などの都合により変更される場合がある。
- 2) 第1戦BIG 2 & 4、第6戦鈴鹿200kmレース大会、第11戦鈴鹿ロードレース大会の国際A級部門は、国

際格式によって開催される。

7 参加資格

1. エントラントおよびライダー

エントラントおよびライダーは、1987年度版MFJ国内競技規則・総則〔4〕(25頁)に合致していなければならない。

6 参加定員

参加定員は定めない。

'87全日本選手権シリーズ大会カレンダー/開催種目

開催日	大会名	ノービス(併催)				ジュニア			国際A級				
		SP400	125	250	F3	125	250	F3	125	250	500	F3	F1
3月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 BIG 2 & 4大会(国際格式)							○			○		○
4月11日(土) 12日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 筑波ロードレース大会					○	○	○		○	○	○	
4月25日(土) 26日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 鈴鹿ロードレース大会	○ 選抜				○			○	○	○	○	○
5月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 筑波ロードレース大会					○	○	○	○	○	○		
5月23日(土) 24日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 SUGOロードレース大会		○				○	○		○	○	○	○
6月6日(土) 7日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 インター鈴鹿200km大会(国際格式)				○ 選抜		○		○	○		○	○
6月27日(土) 28日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 筑波ロードレース大会					○	○	○	○	○	○	○	○
7月11日(土) 12日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 SUGOロードレース大会				○			○	○	○	○	○	○
8月8日(土) 9日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 筑波ロードレース大会					○	○	○	○	○	○	○	
9月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 SUGOロードレース大会			○		○	○			○	○	○	○
9月26日(土) 27日(日)	全日本選手権シリーズ第11戦 鈴鹿ロードレース大会(国際格式)					○	○	○	○	○	○	○	○
11月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第12戦 MFJジャパンカップロードレース大会(筑波)					○ 選抜	○ 選抜	○ 選抜	○	○	○	○	○

'87主要競技会カレンダー/開催種目

開催日	大会名	ノービス				ジュニア			国際A級				
		SP250F	125	250	F3	125	250	F3	125	250	500	F3	F1
3月27日(金) ～29日(日)	世界選手権第1戦 日本グランプリ・ロードレース大会(鈴鹿サーキット)									○	○		
7月24日(金) ～26日(日)	世界耐久選手権第5戦 鈴鹿8時間耐久ロードレース大会												○
8月28日(金) ～30日(日)	TTフォーミュラ世界選手権第8戦 TTフォーミュラロードレースSUGO大会				○ (併催)			○ (併催)				○	○
10月17日(土) 18日(日)	インターTBCビッグロードレース大会 (スポーツランドSUGO)(国際格式)						○	○			○		○
10月24日(土) 25日(日)	富士インターナショナルロードレース大会 (富士スピードウェイ)(国際格式)							○		○	○		○

2. MFJジャパンカップロードレース大会の参加資格

- 1) 国際A級部門はフリーエントリーとする。
- 2) ジュニア部門は9月13日開催の全日本選手権 SUGO大会までに125cc、250cc、F-3各クラスで得点を得た者。

2) 出場申込み手続き

- (1) 各部門とも所定の申込み書に必要事項をすべて記入し、出場料および保険料を添えて大会事務局に提出しなければならない。
- (2) 2クラス以上に出場を申込み場合は別々に申込み書を作成しなければならない。
- (3) 郵送の場合は現金書留とし、締切り日当日の消印のあるものまでが有効となる。
- (4) 電話による申込みおよび締切り日以後の申込みはいつさい受け付けない。

8 出場申込み

- 1) 出場申込み場所は各主催者の住所とする。

開催競技会の日程、名称、主催、開催場所、出場申込み期間

全日本選手権シリーズはMFJジャパンカップロードレース大会を含め下表の12戦が開催される。

日 程	大会 名 称	主 催(出場申込み先)	開催場所	出場申込み 期間(消印有効)
3月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 BIG 2 & 4 大会 (国際格式)	株式会社ホンダ鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	1月26日(月) 2月5日(木)
4月11日(土) 12日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 筑波ロードレース大会	株式会社オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門1-5-8 オフィス虎ノ門1ビル2F ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	3月2日(月) 3月12日(木)
4月25日(土) 26日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 鈴鹿ロードレース大会	株式会社ホンダ鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	3月16日(月) 3月26日(木)
5月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 筑波ロードレース大会	MFJ関東ブロック協議会 〒108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03(472)6241	筑波サーキット ☎0296(44)3146	3月30日(月) 4月9日(木)
5月23日(土) 24日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 SUGOロードレース大会	SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎022483-3111	4月13日(月) 4月23日(木)
6月6日(土) 7日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 鈴鹿200kmロードレース大会 (国際格式)	株式会社ホンダ鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	4月27日(月) 5月7日(木)
6月27日(土) 28日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 筑波ロードレース大会	株式会社オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門1-5-8 オフィス虎ノ門1ビル2F ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	5月18日(月) 5月28日(木)
7月11日(土) 12日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 SUGOロードレース大会	SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎022483-3111	6月1日(月) 6月11日(木)
8月8日(土) 9日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 筑波ロードレース大会	株式会社オートスポーツセンター 〒105 東京都港区虎の門1-5-8 オフィス虎ノ門1ビル2F ☎03(591)6056	筑波サーキット ☎0296(44)3146	6月29日(月) 7月9日(木)
9月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 SUGOロードレース大会	SUGOスポーツクラブ 〒989-14宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO内 ☎022483-3111	スポーツランド SUGO ☎022483-3111	8月3日(月) 8月13日(木)
9月26日(土) 27日(日)	全日本選手権シリーズ第11戦 鈴鹿ロードレース大会 (国際格式)	株式会社ホンダ鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町 7992 ☎0593(78)1111	鈴鹿サーキット ☎0593(78)1111	8月17日(月) 8月27日(木)
11月7日(土) 8日(日)	全日本選手権シリーズ第12戦 MFJジャパンカップロードレース大会	日本モーターサイクル協会(M.F.J.) 〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル ☎03(561)8566	筑波サーキット ☎0296(44)3146	9月28日(月) 10月8日(木)

9 出場料および保険料

1. 出場料およびライダー保険料

1) 第1戦～第12戦

出場料 1クラス 8,500円
MFJ共済会掛金および指定保険料
1人1口3,500円(保険金額700万円)
ただし2口以上5口までは1口1,350円
(保険金額1口100万円)

2) ビットクルー(メカニック、ビットサインマン、ヘルパー等)はビットクルーライセンスを所持しなければならない。



10 参加受理

- 1) 必要事項を記入した出場申込み書、必要金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が送られる。
- 2) いったん受理された出場料、保険料はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかったものも同様である。
- 3) 大会が取りやめになった場合、参加者が拒否された場合(申込み者が必要な手続きを怠った場合はこれにあてはまらない)にのみ出場料、保険料が返還される。

11 賞および得点

1. 賞

- 1) 賞の詳細については公式通知に示される。

2. 全日本選手権ランキングの得点

- 1) 得点は総則〔8〕の2、3。(27頁参照)によって与えられる。
- 2) MFJジャパンカップロードレース大会については、上記の得点に、さらに3点が加算される。
- 3) 全日本選手権ランキングの順位は上記によって与えられた得点の総合計によって決定される。その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(83頁参照)に示される。
- 4) 異ったライセンス部門との合同レースの場合でも、全日本選手権ポイントは各ライセンス部門別に与えられる。

3. 賞および得点制限

- 1) 賞および得点の制限は、総則〔8〕3。(27頁参照)による。

12 レース出場車両

車両は、付則2(39頁参照)を厳守しなければならない。

13 ゼッケン・ナンバー

- 1) 国際A級部門のライダーには、ライディング3月号No205に示す通り年間指定ナンバーが割当てられる。
- 2) 他部門のライダーには、主催者によってナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- 3) ゼッケン・ナンバーは、車両検査までに、規定の書体および色分けて記入しておかななければならない。
- 4) ゼッケン・ナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。

14 ライダーの装備

- 1) ライダーの服装、ヘルメット等は、付則1〔8〕(37頁参照)による。
- 2) レーシングスーツには、ライダー名を一カ所に記入することが望ましい。

15 ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは総則〔11〕(28頁参照)による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細は公式通知に示される。
- 3) 車両検査および公式予選中は、パドック内の所定の給油区域内においてガソリンの給油を受けなければならない。

16 ビット割当て

- 1) 各ビットの使用は、公式通知による。

17 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 定められた時間内に必ず本人または参加者がMFJライセンス、参加受理書を提示して出場資格の確認を受けなければならない。
- 3) MFJライセンスを提示できない者は出場が認められない。

18 車両および装備の検査

- 1) 車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、パドック内の車両検査区域においておこなわれる。
- 2) 車両検査のための車両はライダー本人または参加者が持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済まさなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) ライダーは改造申告書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。
- 4) 車両検査待込み台数はノービスおよびジュニア部門は出場1レースにつき1台に限定、国際A級部門は2台までとする。(Tカーは同一メーカーに限る)
- 5) 車両検査において、規則または安全上出場が不適当と判断された車両は、公式予選を含むいっさいの走行を拒否される。
- 6) 予選を通過した車両全車に対し、音量測定を行う。
- 7) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両検査を行うことがある。

19 ライダーの変更

ライダーの変更は、総則[13] (29頁参照) による。

20 出場車両の変更

- 1) 車両の変更は総則[13] (29頁参照) による。
- 2) ただし、車両変更の申請は同部門、同クラスの車両に限定され、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。
- 3) 車両の変更は、公式予選終了後は如何なる理由があっても認められない。

21 公式予選

- 1) 公式予選の内容は付則1[5] (35頁参照) による。
- 2) 公式予選の日程および時間は公式通知または公式プログラムに示される。

22 決勝レース出場台数

- 2) 決勝レース出場台数は、開催場所により原則として次の台数以下とする。
 - (1) 鈴鹿サーキット=44台
 - (2) 筑波サーキット=32台
 - (3) スポーツランドSUGO=40台

23 スタートの手順

※今年度よりスタート方式はFIM規則に準じて行なわれる。現在、スタートの手順の新方法が検討中であり、下記のどちらかのスタート方法が取り入れられる予定である。決定後、公式通知に記載する。

1. 押がけスタートの場合

スタートはエンジンが停止した状態で行われる。スタート装置の使用は禁止される。下記の手順が尊重されなくてはならない。

1) スタート約30分前

ライダーはコース外のウェイティング・グリッドにて、マシンと共に準備してはいてはならない。

2) スタートの約20分前

ライダーはコースに出て、自分のグリッドに着く前に1周の試走を行う。これが終わった時点で、グリッドに着いたライダーは、コース・コンディションに合わせてタイヤ交換を行うことができる。

3) スタートの約7分前

競技総監督が、コースを1周回る義務づけられたラップ(ウォーミング・アップ・ラップ)のスタートを合図する。技術的な理由で、このウォーミング・アップ・ラップを達成できなかった者は、グリッドの最後尾からのスタートとなる。

ライダーがこのラップから戻ってグリッドに着いたら、マシンあるいはタイヤの交換は禁止される。競技総監督がすみやかに下記の合図を出す。

4) スタート3分前のカウント・ボード

ライダーと競技役員以外の全員がグリッド・エリアから退去する。エンジンは停止される。ヘルメット・パネルによって、ライダーに自分のヘルメットのおご紐がきっちりしまっているかどうかチェックさせる。その後、グリッドからライダー、競技役員以外の人間が退去したらすぐに。

5) スタート1分前のカウント・ボード

6) スタート30秒前のカウント・ボード

7) 約10秒前にレッド・ライト

8) スタート：グリーン・ライトあるいは国旗

スタートは、レッドとグリーンライト・シグナルで示されるのが望ましい。

コース・コンディションが試走終了後とレース・スタートまでの間に大幅に変わった場合には、競技総監督がスタートを遅らせる決定を出すことができる。この場合、スタートの手順は、試走のところで再開される。

2. クラッチスタートの場合

1) スタートの約30分前

ライダーは車両と共に準備して、コース・エリアの外側にあるウェイティング・グリッドで待機してはいてはならない。

2) スタートの約15分前になったら、ライダーはコース上に現れ、エンジン停止の状態グリッドの自分のポジションに並ぶ前に、1周のサイティング・ラ

ップを行う。サイティング・ラップは義務づけられてはいない。

サイティング・ラップが終了した時点で、ライダーはグリッド上で、コース・コンディションに合わせてタイヤを交換してもよい。

- 3) 義務づけられているウォーミング・アップ・ラップの5分前になると、下記のボードが警告と共に表示される。

- (1) 5分前のボード：秒読み開始
- (2) 3分前のボード：ライダー、オフィシャル、エンジンを始動させるのを手伝えるチーム・メンバー以外の全員がグリッドを離れる。
- (3) 1分前のボード：エンジンが始動され、ライダー以外の全員がグリッドを離れる。
- (4) 30秒前のボード：このボードが出されてから、グリーン・フラッグがグリッドの前部で掲示され、すべてのライダーが前進してサーキットを1周しなくてはならないことが示される。

この時にスタートできないライダーは、手を挙げなくてはならない。

- 4) ウォーミング・アップ・ラップを終えてグリッドに戻って来たライダーは、エンジンを始動させたままの状態、グリッドの自分のポジションで止まる。列の番号の書かれたボードを持った競技役員が、グリッドの各列の反対側に立つ。自分の列のマシンが静止したらただちに、競技役員はボードを下げる。ボードが下げられた後で、スターターはグリッドが静止状態にあることを確かめてから、レッド・ライトを点灯する。レッド・ライトが点灯されてから4秒以上、7秒以内にレッド・ライトに替えてグリーン・ライトが点灯され、レースのスタートが示される。

- 5) スターティング・グリッドに戻ってきた後に、マシンのエンジンが止まってしまったり、ライダーがスタートできなくなった場合には、このライダーは手を挙げ、この列の担当である競技役員が、自分のボードを上げ(または上げ続ける)、ボード裏の黄色の側をスターターの方に向け、この状況を伝える。スターティング・グリッドに戻ってきたマシンに問題があった場合には：

- (1) もし、まだレッド・ライトが点灯されていない場合には、スタートが遅れるというボードがスタート・ラインで示され、レッド・フラッグが提示される。
- (2) レッド・ライトが点灯された後には、スターターは点滅するイエロー・ライトのスイッチを入れ(レッド・ライトはそのままにされる)、スタートが遅れると書かれたボードがスタート・ラインで提示される。

(1)と(2)の両方のケースにおいて：

エンジンは停止され、スタートの手順は5分前のところから再開され、レースの距離は1周減少される。スタートの手順が、これらの事情によって1回以上繰り返された場合には、スタートの手順を1回繰り返すごとに1周ずつレース距離が減少されていく。

- 6) もし、スタート後にマシンがスターティング・グリッドから動かない場合には、競技役員がただちに介入し、マシンをコースに添って押し、エンジンを掛ける。もし、数回の試みによってもマシンが再スタートしない場合には、競技役員がそれを押してピットに運ぶ(入口、あるいは出口、近い方)。そしてピットでメカニックがそれをスタートさせるための作業を行う。
- 7) グリッド上の全員がピットの出口を通過した後に、ピット・レーンで待っているライダーのために、遅れたスタートの合図がライトで示される。
- 8) コースに入ったら(スタートの約15分前)、マシンの変更および追加の給油は厳禁される。

※これはFIMのグランプリ・スタート方式を参考にしている。

※ただし、一部変更もありうる。

24 スタートにおける反則

- 1) スタートラインについて車両およびライダーはスタート用意からスタート合図が出されスタートが終了するまで出発合図の統制下にある。
- 2) スタート合図がおこなわれる前に自分のスターティングポジションから前進した場合は1分間のペナルティが課せられる。
- 3) ピットクルーがスタートの規則にしたがわなかった場合も反則とみなされ当該ライダーに1分間、もしくは失格のペナルティが課せられる。
- 4) ペナルティは、当該ライダーのピット要員にただちに通告されるが判定に対する抗議は受けつけられない。

25 レース

- 1) 走行中の遵守事項は総則[14] (29頁参照)による。
- 2) 如何なる場合でも逆方向、あるいは、規定外のコースを走行してはならない。これに違反した場合は失格とする。
- 3) レースまたは予選中、直線部分では、前車を追越すために、あるいは後車のスリップ・ストリーミングを外す目的以外で、進路を著しく変更することは許されない。

26 レース中の合図

- 1) レース中の合図は、総則[15]3.(30頁参照)による。
- 2) 赤旗の使用は、コントロールライン上において、競技総監督、または競技総監督の命を受けた代理役員のみに限られる。

27 停車指示

- 1) レース続行が危険とみなされるライダーまたは車両について、競技総監督は、大会審査委員会の同意を得てピットインを命じ、あるいはレースから除外することができる。この決定に対する抗議は受けられない。
- 2) 天災、大事故等不慮の事態が発生した場合は、競技総監督は、赤旗によって全ライダーに対し、その場に停止を指示することができる。

28 レースの停止と再スタート

事故または、天候その他の事情で継続が危険になって、レース停止が必要になった場合、競技総監督はスタート／ゴールラインに赤旗をかかげ、同時にすべての旗係が、黄旗と黄色ストライプのついた赤旗を交差させてかかげ、レースが停止されたことを告げるものとする。

レース停止の決定は、競技総監督もしくは、やむを得ない状況の下においては、次席の役員だけがとり得るものとする。

これらの合図が出されたら、ライダーは直ちにレースを停止、徐行してそれぞれのピットに戻るが、その際、そのレースの順位は前ラップの順位によってきまる。

1. レースが再スタートされる条件は次のとおりである

- 1) 走行が2周以下の場合：
 - (1) もとのスタートは無効とされ、もとのスタートに参加したすべてのライダーはもとの車両、もしくは同一型の車両を使用して再スタートすることができるが、車両変更の場合は、それがTカーとして登録され車検に合格し、レースに適することを車検長が認めた場合に限られる。
再スタートのレースは全距離にわたって行なわれ、もとのグリッド・ポジションが適用される。再スタートに出場できないモーターサイクルの場所はそのまま空席とされる。
 - (2) レースの再スタートが不可能である場合、選手権ポイントは与えられない。
 - (3) 再スタートが行なわれる場合は常に、もとのレース停止から少なくとも30分後に行なわなければならない。
- 2) 2周以上走行したが、カバーされた距離が総走行

距離の75%未満である場合：

- (1) そのレースはふたつの部分に分れるとみなされる。レース前段の順位は、停止に先立つラップ終了時の順位とする。
 - (2) 再スタートされたレースの距離は、もとのレースの全距離に達するまでの距離とする。
 - (3) 再スタートのグリッドにおける車両のポジションは、計時長が前段終了時の順位に基づいて決定する。
 - (4) レース前段において順位を得たライダーだけが再スタートを認められる。
車両の修理、あるいは交換が認められる。1)(1)参照
 - (5) レース再スタートが不可能である場合は、正規の選手権ポイントの1/2が与えられる。
 - (6) レースがふたつの部分から成る場合、各部分のラップ数が集計され、最大数のラップを走行したライダーが優勝者になる。
ラップ数で同位になった場合は、それらに要したタイムが優勝者決定のきめ手になる。
- 3) 全距離の75%以上がカバーされた場合：
 - (1) レース成立が宣言される。レース停止に先立つラップ終了時の順位がレースの順位になる。
 - (2) 正規の選手権ポイントが与えられる。

29 棄権(リタイア)と停止

- 1) リタイアと停止は、総則[15]4.(30頁参照)による。
- 2) ライダー本人が負傷その他の理由でリタイア届を提出できないときは、競技役員の評定より、リタイアと認めることができる。
- 3) ピット以外の地域でリタイアする場合、ライダーは車両をレース(または予選)終了まで競技役員の下におかななければならない。ただし、競技役員から車両移動を指示された場合は、これに従わなければならない。
- 4) 車両を押しピットに戻る場合は必ずコース両サイドのいずれか片側のグリーンを歩くこと。
- 5) コース外側より、作業もしくは工具・部品等の援助を受けてはならない。この場合は失格とされる。

30 レース終了

各レースの終了は、チェッカー・フラッグによりトップのライダーがゴールインしたのち次の時間を経過したときである。

鈴鹿サーキット	4分間
筑波サーキット	2分間
スポーツランドSUGO	3分間

31 優勝者、入賞者、完走者および順位

優勝者、入賞者、完走者および順位は付則1〔7〕(37頁参照)による。

32 レース終了後の車両の保管と再検査

- 1) 上位入賞車両は、所定の位置より競技役員誘導にしたがって車両保管区域へ入らなければならない。
- 2) 上位入賞車両は音量測定およびエンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再検査をおこなうことがある。
- 3) 上位入賞車両は暫定結果発表後30分以上保管される。

33 レースおよび大会の延期・中止等

- 1) 大会は、原則として本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) レースまたは大会が中止された場合、参加者が、支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。公式予選終了後の中止については決勝進出者のみエントリー料が返却される。

34 抗議

- 1) 抗議は、総則〔20〕(32頁参照)による。
- 2) 車両の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定する。

35 違反に対する罰則

競技規則による違反行為に対する罰則は、総則〔22〕(33頁参照)による。

36 本規則の解釈

本特別規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑申立てができる。なお、この回答は大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

37 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込み受け日より有効となる。なお本規則に示されていない事項はMFJ国内競技規則による。

昭和62年1月1日

全日本選手権大会事務局長



●筑波サーキット
(1周=2045mのクロースドサーキット)

第2戦、第4戦、第7戦、第9戦、
第12戦(MFJジャンパニック)を開催



茨城県結城郡千代川村岡字西原

●鈴鹿サーキット

(1周=5913.58mのクロースドサーキット)

第1戦、第3戦、第6戦、第11戦を開催



三重県鈴鹿市稲生町7992

●スポーツランドSUGO

(1周=3737mのクロースドサーキット)

第5戦、第8戦、第10戦を開催



宮城県柴田郡村田町菅生



MOTOCROSS

付則4 モトクロス

1 適用の範囲	58	7 改造の限度	59
2 モトクロス	58	8 ライダーの装備	60
3 コースの仕様	58	9 公式予選	62
4 出場車両	58	10 レース	62
5 MFJ公認車両・公認部品	58	11 優勝者、入賞者順位、完走者および得点	62
6 総合仕様	58		

1 適用の範囲

以下に記す規則は、総則と共にすべての国内モトクロス競技会に適用される。

2 モトクロス

モトクロスとは、走路面に凹凸、急勾配、走路方向が急変化する等の地形のところで行なわれるクロスカンントリー・レースであり、総則およびこの付則により管理される。

3 コースの仕様

コースの長さは1周1km以上2km以下とし、その幅は少なくとも追い越し可能なコース等であり、モトクロス会場に関する規則に準拠し、適切なレーシングコンディションと安全性を確保されていなければならない。

4 出場車両

車両は6.総合仕様と7.改造の限度をみだし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

なお、改造されて型式（モデル）が判明できないような車両は出場することはできない。

5 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両および公認部品は総則(10)28頁を参照。

6 総合仕様

車両は安全のために次の各項のすべてをみたしていなければならない。

1) クラス区分

- 1) 車両のクラス区分は原則として次のように分けられ、開催種目および運用は特別規則に示される。
- 2) 最大限ギヤ段数・最低重量は下表のとおりとする。最低重量は半乾燥重量とする。半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた車両重量をいい、分離給油式の場合の潤滑オイルも燃料とみなす。なお、最低重量をみたすためのダミーウェイトは装着してはならない。

クラス	最小排気量	最大排気量	最大ギヤ段数	最低重量
80cc	51cc	80cc	6	
125cc	100cc	125cc	6	88kg
250cc	175cc	250cc	6	98kg

2) ブレーキ

前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキをそなえていなければならない。

3) タイヤ

タイヤチェーン、スパイク等を加工装備してはならない。

4) ハンドルバー

ハンドルの端から端までの幅は最小600mm、最大850mmでなければならない。

- 5) クラッチとブレーキレバーおよびペダル
- (1) 端部は、少なくとも直径19mmの球状でなければならない。また、この球状は平たくすることもできるが、その端部は少なくとも直径14mmの丸味を持たせなければならない。
 - (2) ライダーが乗車姿勢を変えないで操作できるように配置しなければならないが、その位置は自由とする。
- 6) フェンダー
- (1) フェンダーはタイヤの両側方に張り出していないなければならない。
 - (2) フロントフェンダーはタイヤの周囲を少なくとも100度にわたってカバーしていなければならない。また、フェンダーの前端とタイヤの中心を結ぶ線とタイヤの中心を通る水平線の角度は最小45度、最大60度でなければならない。
 - (3) リヤフェンダーはタイヤの周囲を少なくとも120度にわたってカバーしていなければならない。フェンダー後端とタイヤの中心を結ぶ線とタイヤの中心を通る水平線の角度は20度以上あってはならない。
 - (4) フロントフェンダーのみ主催者が認めた場合に限り、取り外すことができる。
- 7) フートレストおよびペダル
- (1) フートレストは前後車両の中心を通る線の上方50mm以内に、またリヤタイヤの中心を通る垂線の内側になるよう取り付けられ、どのコントロールペダルも容易に操作できる位置になくてはならない。
 - (2) フートレストおよびペダル類の先端は安全上、丸められていなければならない。
- 8) 過給
- 過給器を取付けたり過給をしたりしてはならない。
- 9) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。
- 10) 音量
- (1) 音量はFIM方式による測定方法（総則[12]1.3）29頁参照）で、106db/A以下でなければならない。
 - (2) 4サイクル型エンジンについては、5db/Aの誤差値が認められる。
- 11) マフラーおよびサイレンサー
- (1) マフラーおよびサイレンサーは規定の音量値を満足できるものでなければならない。
 - (2) サイレンサーの端部は、リヤタイヤ後端を通る垂直線より突出してはならない。
- 12) レースナンバープレート
- (1) ナンバープレートの大きさ
ナンバープレートは、第1図に示す大きさ以上のものでなければならない。

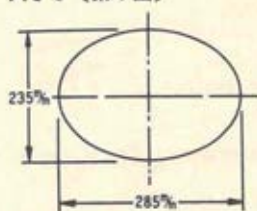
(2) 取り付け方法

ナンバープレートは、車両の前面に1枚を前向きに、車両の両側面に各1枚を垂直方向に取り付けなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け（16頁参照）

ナンバープレートおよび文字の色分けは次の通りである。

レースナンバープレートの大きさ〔第1図〕



Bライセンス部門=白地に黒文字
 ノービス部門=白地に黒文字
 ジュニア部門=黄地に黒文字
 国際B級部門=緑地に白文字
 国際A級部門125ccクラス
 =赤地に白文字
 国際A級部門250ccクラス
 =赤地に黄文字

(4) ナンバーの字体

ナンバーの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。角ばった字体や斜体であってはならない。なお螢光色の文字の使用は禁止する。

13) 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような構造であってはならない。

14) 一般生産型のモーターサイクルについて

(1) 下記部品を取り外さなければならない。

- ① スタンド類
- ② キャリア類
- ③ タンデム・フートレスト
- ④ 車両番号標板（ブラケットごと）
- ⑤ バックミラー
- ⑥ ライト類およびガラス類（ただし、レンズおよびライト類の飛散防止を施せばよい）

(2) ゼッケンナンバープレートを取り付けなければならない。

7 改造の限度

競技の公平および安全性に関連して次のような改造の制限を定める。

1) 国際A級部門の車両改造の限度

(1) 車両は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

2) 国際B級、ジュニア、ノービス部門の車両改造限度

車両は市販レーサーおよび一般生産型モーターサイクルでMFJが公認したものでなければならない。車両改造限度は下記に示すとおりとする。

〔1〕市販レーサーの車両改造限度

市販レーサーをベースとし改造を行なう場合は下記各項に規定されている事項を遵守しなければならない。

1) フレームの基本骨格及びクランクケース本体は車両公認時のものでなければならない。

2) 下記の部品はMFJが公認したもののみ変更する事が出来る。

- (1) シリンダー
- (2) シリンダーヘッド
- (3) ミッション
- (4) フロントフォーク
- (5) リヤサスペンションユニット
- (6) スイングアーム
- (7) キャブレター

3) 上記項目以外の部品の改造変更は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

〔2〕一般生産型モーターサイクルの車両改造限度〔Bライセンス部門を除く〕

- 1) フレームの基本骨格は公認型式のものでなければならないが、補強等はおこなってもよい。
- 2) 異った機種エンジンの、フレームの組み合わせは公認車両同士に限りおこなうことができる。ただし、小排気量車のフレームと大排気量車のエンジンを組み合わせることはできない。
- 3) クランクケース本体やクランクシャフト・アッセンブリーは公認型式のものでなければならない。
- 4) クランクケースおよびミッションケース外に変速装置をつけ加えてはならない。
- 5) 冷却方式を変更してはならない。
- 6) 弁形式を変更してはならない。
- 7) 燃料吸入方式を変更（フェューエルインジェクターの取り付け等）してはならない。
- 8) 下記部品はMFJが公認したもののみ変更することができる。

- (1) シリンダー
- (2) シリンダーヘッド
- (3) ミッション
- (4) フロントフォーク
- (5) リヤサスペンションユニット
- (6) スイングアーム
- (7) キャブレター

9) 上記以外の部品の改造変更は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

3) Bライセンス部門の車両改造限度

車両は市販レーサーおよび一般生産型モーターサイクルで、MFJが公認したものでなければならない。

〔1〕市販レーサーの改造限度

車両はMFJ公認車両とし、改造は一切認めない。

〔2〕一般生産型モーターサイクルの改造限度

- 1) 変更してもよい部品
 - ① ハンドルおよびその附属品
 - ② コントロール・ケーブルワイヤー類

- ③ タイヤ
- ④ フートレスト
- ⑤ フェンダー
- ⑥ シート
- ⑦ 消音器の内部
- ⑧ エアクリーナー
- ⑨ 点火プラグ
- ⑩ メインスイッチ
- ⑪ ペダル類
- ⑫ スプロケット
- ⑬ チェーンケース

2) 前記1)変更してもよい部品以外は一切変更、改造を認めない。ただし、総合仕様をみたしていること。

8 ライダーの装備

1. ヘルメット

- 1) ヘルメットは、日本工業規格JIS T8133-1982-C種及びJIS-T8133-2種(JIS-T8133の1982年8月までの規格)、USA S. I. STANDARD-Z90-1-1970、米国スネル規格1980によって示された検査に合格したか、またはそれ以上の性能を有するジェット型かフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなければならない。
- 2) MFJの公認したヘルメットには、認証マークが貼付されている。
- 3) 競技会の車両検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでもライダー本人の安全上使用を禁止される。
- 4) MFJ公認の認証マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料金(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。



ヘルメットにはゴールド地の認証マークが貼付されていなければならない。

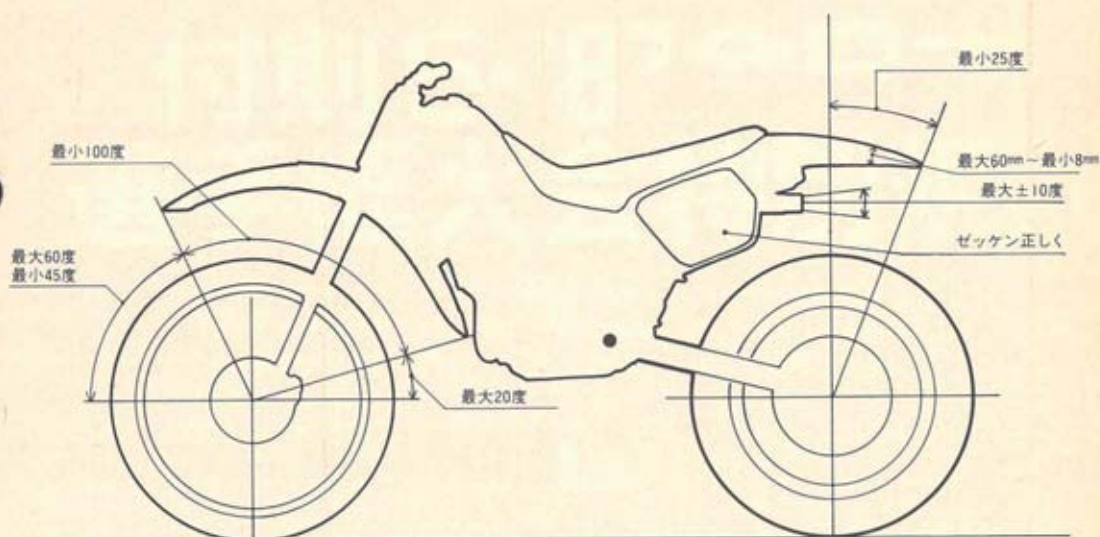
2. ゴーグル

ガラスを用いたゴーグルの使用はいつい禁止される。枠は柔軟なもの、または転倒等による衝撃を受けた場合でも危険でないものでなければならない。

3. ライダーの服装

- 1) 服装はレース中ライダーの身体の安全を確保し、操縦技術を妨げるものであってはならない。
- 2) 下半身は皮製または革と同等以上の耐摩耗性、耐熱性を有する材質のズボンを着用しなければならない。

総合仕様参考図



90

12

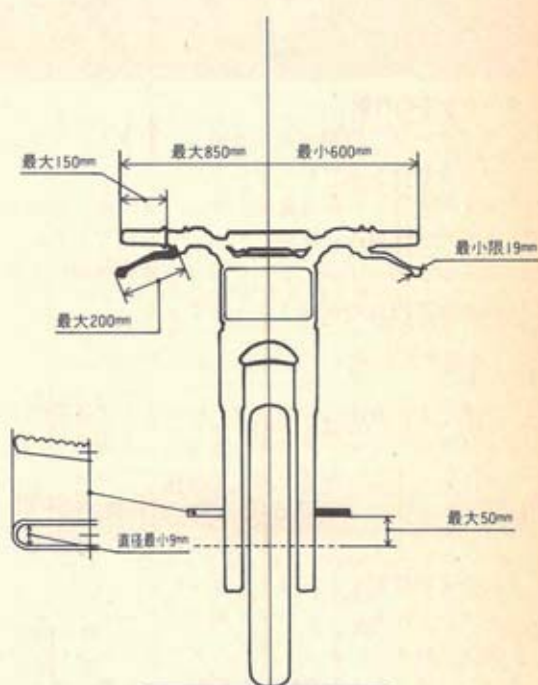
34

56

78

90

ゼッケンナンバーの見本



- 3) 上衣は特に規制しないが、安全で自由な動作をさまたげず、丈夫なものを着用しなければならない。
- 4) 突出部のない革、または革と同等以上の性能をもつ手袋および靴を着用しなければならない。
- 5) ライダーは競技会中、合成繊維（ナイロン、テトロン等）製の肌着を着用してはならない。

9 公式予選

1. 公式予選の日程

- 1) 公式予選は原則として各クラス別におこなわれる。
- 2) 公式予選の日程は特別規則に示される。

2. 公式予選の内容

- 1) そのクラスの出場申し込み台数が、規定の同時出走最多台数（30台）を大きく越えた場合、決勝進出者決定のための公式予選がおこなわれる。
- 2) 公式予選は、原則として大会公示に示される周回数のレースによっておこなわれる。
- 3) 決勝進出台数は特別規則に示される。

10 レース

1. スタートの位置

レースにおけるスタート位置の決定方法は特別規則に示される。

2. スタートまでの行動

- 1) ライダーは、特別規則に定められたタイムスケジュールを厳守しなければならない。
- 2) ライダーは、レース直前のチェックの後、車両とともに指定区域内に待機していなければならない。
- 3) エンジンのウォーミングアップは特別規則に定められた時間内のみ行うことができる。

3. スタート

- 1) スタートの方法については、原則として各部門ともエンジンランニングスタートとし、その際、必ずヘルメット上部に左手をあてて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。
ただし、スターティングマシンを使用する場合は上記の待機姿勢をとらなくてもよい。
- 2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされるものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップはいっさい考慮されない。
- 3) スターティングマシンが使用される場合は、車両の位置は原則としてスターティングマシンの後方の区域内とする。

- 4) スタートの合図は、スタート係が国旗を振ることによっておこなわれる。ただし、スターティングマシンを使用する場合はこの限りではない。
- 5) スタート合図以前にスタート・ラインを出たものがあつた場合は、スタート・ライン前方において赤旗が振られ、スタートをやりなおす。ただし同一ライダーが再びフライングをした場合は失格とする。

4. コースアウト

ライダーは、走行中やむをえず定められたコースを外れた場合、再びコースにもどるには外れ出た地点より走行し直さなければならない。

5. レース終了

レースの終了は優勝者の完走後、チェッカーフラッグが振られ、マーシャルが定位置を離れること、または競技役員車がコースを一巡することによって示される。

11 優勝者、入賞者順位、完走者および得点

1. 優勝者

優勝者は定められた周回数またはレース時間プラス2周を最短時間で完走したライダーである。

2. 入賞者および順位の優先順序

入賞者および入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合はゴールライン通過の順位による。

3. その他の順位の優先順序

- 1) レース終了時までゴールラインに達しない走行中の完走者。
- 2) 完走周回数をまっとうしたのち、リタイアした者。
- 3) 上記以外の者については周回数の多い者を優先する。

4. 完走者

各レースにおいて、優勝者の75%以上の周回数を完了してチェッカーを受けたライダーが完走者である。

得点

- 1) 得点は総則〔8〕の2.、3.（27頁参照）によって得点が与えられる。
- 2) オープンクラスに関しては自動昇格得点対象外とする。

MOTOCROSS

付則5・'87全日本選手権大会特別規則

全日本選手権モトクロス大会は、日本モーターサイクル協会(MFJ)公認のもとに、MFJ国内競技規則に準拠し開催される。本特別規則は、1987年度全日本選手権シリーズ・モトクロス大会に適用される。

1 開催競技会	⑤	13 セクケンナンバー	⑤	25 スタート	⑤
2 運営・実行組織	⑤	14 ライターの装備	⑤	26 レース	⑤
3 公式通知・タイムスケジュール	⑤	15 ガソリンおよびオイル	⑤	27 レース中の合図	⑤
4 開催部門・クラス	⑤	16 ビットエリア	⑤	28 レース終了	⑤
5 競技内容	⑤	17 出場受付	⑤	29 優勝者、入賞者および得点	⑤
6 参加定員	⑤	18 車両検査	⑤	30 入賞車両の検査	⑤
7 参加資格	⑤	19 ライターの変更	⑤	31 レースおよび大会の延期、中止等	⑤
8 出場申込み	⑤	20 車両の変更	⑤	32 抗議	⑤
9 出場料およびMFJ共済会掛金	⑤	21 部品の変更	⑤	33 レース中の違反行為に対する罰則	⑤
10 参加受理	⑤	22 自由練習および公式練習	⑤	34 本規定の解釈	⑤
11 賞および得点	⑤	23 国際A級部門の競技方法	⑤	35 本規則の施行	⑤
12 出場車両	⑤	24 公式予選	⑤		

1 開催競技会(次頁に提示)

2 運営・実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知に示される。

3 公式通知・タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

4 開催部門・クラス

1) 全日本選手権シリーズの開催部門、クラス区分は下記のとおりである。

部門	ジュニア	国際B級	国際A級
クラス	125cc	125cc	125cc (シリーズ前期)
	250cc	250cc	250cc (シリーズ後期)

- 2) 大会によりノービス部門の競技が併催されるが、ノービス部門は全日本選手権の対象とはならない。
3) 国際A級部門は、全日本選手権シリーズを前期、

後期の2期制とし、125ccと250ccを半期づつのシリーズ戦とする。1大会1クラス(125ccまたは250cc)のみ開催。なお、日本グランプリ大会も1クラスのみとする。

- (1) 前期は125ccシリーズとし、第1戦関東大会から第5戦四国大会の全5戦とする。
(2) 後期は250ccシリーズとし、第6戦北海道大会から第10戦日本グランプリ大会の全5戦とする。

※予告事項

'88年度シリーズ戦は前期を250ccシリーズ、後期を125ccシリーズとする。

5 競技内容

ノービス	10分+2周または左記時間に相当する周回数
ジュニア	15分+2周または左記時間に相当する周回数
国際B級	25分+2周または左記時間に相当する周回数
国際A級	30分+2周または左記時間に相当する周回数 (ファイナルレース)

注:上記競技内容は天候等の都合により、大会審査委員会の決定によって変更される場合がある。

6 参加定員

定員は定めない。

7 参加資格

1. 参加者およびライダー

1) 参加者およびライダーは、MFJ国内競技規則、総則〔4〕(25頁参照)に合致していなければならない。

2. 日本GP大会の参加資格

1) ジュニア部門：7月18、19日までの全日本選手権シリーズ大会及び7月5日までの地方選手権シリーズ大会の得点合計で125cc、250cc各クラス上位の者で次に示す人数。

北海道=3名 東北=10名 関東=18名 中部=15名 近畿=6名 中国=2名 四国=2名 九州=4名
なお主催地方(東北)に2名を加える。

2) 国際B級部門：7月18、19日の全日本選手権第7

戦近畿大会までの全日本選手権シリーズ大会において各クラスともランキング上位30位のライダー、30名に満たない場合は主催地方及び隣接地方の選手権シリーズでの上位者。

8 出場申込み

1) 申込み場所は各主催者住所とする。

2) 出場申込み

(1) 各部門とも所定の申込み書に必要事項をすべて記入の上、出場料およびMFJ共済会掛金を添えて提出しなければならない。

(2) 2クラス以上に出場を申込み場合でも、申込み書は1枚でよい。ただし2クラス以上出場に必要な事項をすべて記入すること。

開催競技会の日程、名称、主催場所、出場申込み期間

*87全日本選手権シリーズは日本グランプリを含め下表の10戦が開催される。

日程	大会名称	主催(出場申込み先)	開催場所	エントリー期間
3月14日(土) 15日(日)	全日本選手権シリーズ第1戦 関東モトクロス大会 (N地方選抜大会併催)	MFJ 関東ブロック協議会 〒108 東京都港区港南3-3-10 東京都軽自動車協会内 ☎03-472-6241	埼玉県川島町 セーフティパーク埼玉	2月5日(休) ↓ 2月14日(出)
4月4日(土) 5日(日)	全日本選手権シリーズ第2戦 九州モトクロス大会 (N地方大会併催)	MFJ 九州ブロック協議会 申込先: MFJ公認・チーム高武内モトクロス全日本選手権事務局 〒810 福岡県福岡市中央区赤坂2-5-54 ☎092-781-2682	大分県 大分アフリカンサファリ	2月23日(日) ↓ 3月4日(休)
4月25日(土) 26日(日)	全日本選手権シリーズ第3戦 東北モトクロス大会 (N地方大会併催)	主催: 東北ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 申込先: 〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO ☎022483-3111	宮城県スポーツランドSUGOモトクロスコース	3月16日(日) ↓ 3月25日(休)
5月9日(土) 10日(日)	全日本選手権シリーズ第4戦 中部モトクロス大会	主催: 神ホンダランド 申込先: ホンダランド鈴鹿サーキット 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎0593-78-1111	三重県 鈴鹿サーキットモトクロスコース	3月31日(火) ↓ 4月9日(休)
6月13日(土) 14日(日)	全日本選手権シリーズ第5戦 四国モトクロス大会 (N地方大会併催)	四国ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 〒761 香川県高松市郷東町140 ☎0878-82-3212	愛媛県松山市 松山オートテック	5月4日(日) ↓ 5月13日(休)
7月4日(土) 5日(日)	全日本選手権シリーズ第6戦 北海道モトクロス大会 (N地方大会併催)	北海道ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 〒065 北海道札幌市東区東雁来3条1-4-3 ☎011-782-1492	北海道留寿都 村ルスツ高原 カントリーランド	5月26日(火) ↓ 6月4日(休)
7月18日(土) 19日(日)	全日本選手権シリーズ第7戦 近畿モトクロス大会 (N地方大会併催)	MFJ 近畿ブロック協議会 〒550 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 大阪府二輪車安全普及協会内 ☎06-541-5254	奈良県山辺郡 名阪スポーツランド	6月9日(火) ↓ 6月18日(休)
8月22日(土) 23日(日)	全日本選手権シリーズ第8戦 東北モトクロス大会 (N地方大会併催)	主催: 東北ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 申込先: 〒989-14 宮城県柴田郡村田町菅生 スポーツランドSUGO ☎022483-3111	福島県二本松市 東北サファリパークエビスサーキット	7月13日(日) ↓ 7月22日(休)
9月12日(土) 13日(日)	全日本選手権シリーズ第9戦 中部モトクロス大会 (N地方大会併催)	中部ブロックモーターサイクルスポーツ協会連絡協議会 〒501-61 岐阜県羽島郡柳津町大字高桑字立野3276-1 岐阜県軽自動車協会内	未定	8月3日(日) ↓ 8月12日(休)
10月10日(土) 11日(日)	全日本選手権シリーズ第10戦 第24回モトクロス日本グランプリ大会 (国際格式)	日本モーターサイクル協会(M.F.J.) 〒104 東京都中央区銀座1-9-12 西山興業東銀座ビル ☎03-561-8566	宮城県柴田郡 スポーツランドSUGOモトクロスコース	9月1日(火) ↓ 9月10日(休)

◆国際A級部門125ccシリーズ / ♥国際A級部門250ccシリーズ

- (3) 郵送の場合は現金書留とし、締切り当日の消印のあるものまで有効となる。
- (4) 締切り日以降の申込みおよび電話による申込みは、いっさい受けつけない。

9 出場料およびMFJ共済会掛金

国際A・B級 ジュニア	出場料(MFJ共済会掛金含む) (2クラス目より)	8,000円 6,000円
併催ノービス 地方大会	出場料(MFJ共済会掛金含む) (2クラス目より)	8,000円 6,000円
本グランプリ 大会	出場料(MFJ共済会掛金含む) (2クラス目より)	9,000円 7,000円

MFJ共済会掛金1,000円を含む

10 参加受理

- 必要事項のすべてが明記された出場申込み書、必要金額が大会事務局に受理されたのちに、参加受理書が発送される。
- いったん受理された出場料、共済会掛金はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。
- 大会が中止された場合、参加が拒否された場合(申込み者が必要な手続を怠った場合はこれにはあてはまらない)にのみ出場料、共済会掛金が返還される。

11 賞および得点

1. 賞および得点

- 高松宮杯 日本グランプリ大会の特別規則による。
- その他の賞の詳細は公式通知に示される。
- 全日本選手権ランキングの得点
 - 得点は総則〔8〕2、3、(27頁参照)によってえられる。
 - 日本グランプリ大会については、規定の得点に3点が加算される。
 - 国際A級部門の得点はファイナルレース(決勝レース)のみ対象とし、規定の得点が与えられる。
 - 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計点によって決定される。
 - その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(83頁参照)に示される。
- 賞および得点の制限

賞および得点の制限は、総則〔8〕3、(27頁参照)による。

12 出場車両

車両は付則4〔4〕(58頁参照)を遵守しなければならない。

13 ゼッケンナンバー

- 国際A級および国際B級の一部(20番まで)のライダーには、年間指定ゼッケンナンバーが割当てられる。
 - 国際A級部門の指定ゼッケンナンバー(前期)
 - '86年度125cc全日本選手権ランキング順位により決定する。
 - ①に該当しない者を前年度ゼッケン順位により追加する。ただし、前年度全日本選手権大会に一度も参加していない者は⑥に該当させる。
 - '86年度250cc全日本選手権ランキング順位により決定する。
 - ③に該当しない者を前年度ゼッケン順位により追加する。ただし、前年度全日本選手権大会に一度も参加していない者は⑥に該当させる。
 - 国際A級部門に昇格した者を前年度全日本選手権ランキング順位により追加する。
 - 上記①～④に該当しない者で全日本選手権に出場申込みのあった者を追加する。
 - 後期(250ccシリーズ)については上記①～⑥の125cc、250ccを入れ替え割当てする。

※予告事項

'88年度以降についてのMFJ年間指定ゼッケンナンバー割当て方法

- ゼッケンナンバー1および2は、各クラスのチャンピオンとする。その場合、各クラスでの優勝回数が多い者を上位とする。
- 125cc、250ccの総合ポイント順上位により決定する。
- 同点の場合、250ccクラスのポイントを優先する。
- 他のライダーには、大会毎に主催者によってゼッケンナンバーが割当てられ、参加受理書に記入して通知される。
- ゼッケンナンバーは、車両検査までに、規定の書体および色で記入しなければならない。(16頁および61頁参照)
- 年間指定ゼッケンナンバーを与えられているライダーは、ヘルメットの両側にゼッケンナンバーを記入しなければならない。
- ゼッケンナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
- レース中、ナンバープレート、配布されたゼッケンおよびヘルメットナンバーシールを装着せずに走行した場合、また、間違ったゼッケンナンバーを装着して走行した場合はその周回は記録されない。
- 雨天の場合、すべてのライダーはヘルメットの両側面にゼッケンナンバーを記さなければならない。

14 ライダーの装備

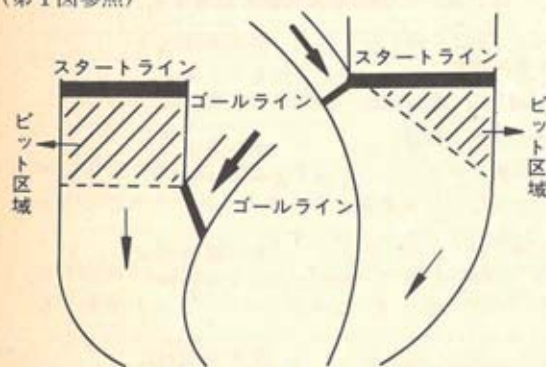
- 1) ライダーの装備等は、付則4〔5〕3。(60頁参照)による。
- 2) MFJ認証マークが貼付されていない公認ヘルメットを使用しているものについては、特別検査料金(1,000円)を支払い検査を受けなければならない。

15 ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは、総則〔11〕(28頁参照)による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された時は、当該ガソリンを使用しなければならない。

16 ビットエリア

ビットエリアは主催者により指定される。特に指定のない場合のビットエリアはスタートラインからゴールラインまでの周回走行にさしつかえないコース上である。(第1図参照)



第1図ビットエリア(区域)

17 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 定められた時間内に、必ずライダー本人または当該ライダーのメカニックがMFJライセンス、参加受理書を提出して出場資格の確認を受けなければならない。
- 4) MFJライセンスを提示できない者は、出場が認められない。

18 車両検査

- 1) 車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、パドック内の車両検査区域においておこなわれる。
- 2) 車両検査のための車両はライダー本人または当該

ライダーのメカニックが持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済まさないといけない。規定時間以後の車両検査は、大会審査委員会が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。

- 3) 車両検査持込み台数は1クラスにつきノービス(地方大会)、ジュニアおよび国際B級部門は1台に限定、国際A級部門のライダーは制限を設けない。
- 4) 車両検査において、規則または安全上出場が不当と判定された車両は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。
- 5) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両検査をおこなうことができる。

19 ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

20 車両の変更

出場登録した車両の変更は許されないが、破損など止むを得ず出場登録済の車両を変更する必要がある場合は、規定の書式にしたがって車両の変更申請をおこない、競技総監督がこれを認めた場合に限り車両の変更が認められる。

- 1) 車両の紛争に際して、銘柄についての立証の責任は参加者側にあるものとする。
- 2) その他、特別規則に示される。
- 3) 車両変更申請は、同部門、同クラスの車両に限定され、手数料5,000円を添付しなければならない。
- 4) 車両の変更は、公式予選終了後は如何なる理由あっても認められない。

21 部品の変更

- 1) エンジン・アッセンブリーの変更は認められない。

22 自由練習および公式練習

- 1) 競技前日の走行練習は禁止される。
- 2) ライダーは安全確保のためにも主催者が設けた公式練習に参加し、走行しなければならない。
- 3) 国際A級部門の自由練習日は土曜日とし、公式練習は日曜日とする。

23 国際A級部門の競技方法

1. セミファイナルレース(選抜レース)

国際A級部門は、ファイナルレース(決勝レース)に出場するためのセミファイナルレース(選抜レース)を行なう。

- 1) エントリー台数によりセミファイナルレースの組数を変更する。
 - ① 66台以内—————2組
 - ② 67台以上—————3組

2. ラストチャンスレース(敗者復活戦)

ラストチャンスレース(敗者復活戦)を行ない、ファイナルレース出場者を選抜する。

1) ラストチャンスレース出場資格

- (1) セミファイナルレースが2組の場合——各組13位より27位のライダー
- (2) セミファイナルレースが3組の場合——各組9位より18位のライダー

3. ファイナルレース選抜方法

- 1) セミファイナルレースが2組(エントリー台数66台以下)の場合——各組上位12名ずつ選抜し、ラストチャンスレースより上位6位を選抜する。
- 2) セミファイナルレースが3組(エントリー台数67台以上)の場合、各組上位8名ずつ選抜し、ラストチャンスレースより上位6名を選抜する。

4. ファイナルレース

ファイナルレースはセミファイナルレースおよびラストチャンスレースにて選抜されたライダーによって行なわれる。

5. レース時間または周回数

- 1) セミファイナル——7周～10周または15分
- 2) ラストチャンス——5周～7周または10分
- 3) ファイナル——30分+2周またはその時間に相当する周回数

6. スタート台数は原則として30台とする。**7. セミファイナルレース組分け方法**

大会当日のライダー受付にて抽選し組分けする。

8. セミファイナルレースのスタート位置の決定方法

スタート順位は抽選結果の順位によりスタート位置が自由選択できる。

9. ラストチャンスレースのスタート位置の決定方法

スタート順位はセミファイナルレースの成績結果により組分けA組、B組、C組の順にて、スタート位置を自由選択できる。

10. ファイナルレースのスタート位置の決定方法

下記順位にて、スタート位置を自由選択することができる。

- 1) セミファイナルレースの成績上位の者から組分けされたA組、B組、C組の順。
- 2) ラストチャンスレースの成績上位の者から組分けされたA組、B組、C組の順。

24 公式予選

- 1) 公式予選の内容は付則4〔6〕(62頁参照)による。
- 2) 公式予選の有無、周回数、決勝進出台数、その他の詳細は公式通知またはプログラム等に表示される。
- 3) 公式予選の組分けは公式練習終了以前に発表される。

25 スタート**1. スタートの方法**

- 1) 原則として各部門ともスターティングマシンを使ったエンジンランニングスタートとする。
- 2) ただしスターティングマシンを使用しないエンジンランニングスタートの際は、必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。

2. スタート台数

原則として30台とする。ただし、日本グランプリはこの限りではない。

3. 予選レースのスタート位置の決定方法

スタート順位は抽選結果の順位により、スタート位置が自由選択できる。

4. 決勝レースのスタート位置の決定方法

スタート順位は、下記の要領にて決められ、スタート位置は自由選択とする。

- 1) タイムトライアルによるタイム順
- 2) タイムトライアルがない場合は抽選による。

5. ウォーミングアップ

エンジンのウォーミングアップは主催者の指示する時間に限られる。

6. エンジンの始動の合図がなされた後

ウォーミングアップ以後、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は(キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後)ライダーからタイムのサインがあっても、スタート係はこれを考慮しない。

26 レース

- 1) レース中の遵守事項は総則〔14〕(29頁参照)による。
- 2) ピットエリア内で車両の整備などをおこなえるメカニックは2名に限られる。
- 3) レース中、サイレンサーまたはエキスパンションチャンバーがはずれた場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗およびゼッケンを記したボードが示され、ピットインし、修理の後、審判員の許可を得た後、再出走が認められる。

27 レース中の合図

- 1) レース中の合図は総則〔15〕3.(30頁参照)による。
- 2) 競技内容が示されている規定の時間を経過した後、トップのライダーがゴール地点に現われた時点から、残りの周回数を示す合図が出される。

28 レース終了

レースの終了は付則4〔7〕5.(62頁参照)による。

29 優勝者、入賞者および得点

1. 各レースにおける優勝者、入賞者、完走者および順位は、付則4〔8〕(62頁参照)による。



30 入賞車両の検査

- 1) 大会は、本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) 大会審査委員会が、特別な理由によってレースを中止しなければならないと判断したときに限り、レースを中止することができる。

31 レースおよび大会の延期、中止等

- 1) 本大会は、本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) 大会審査委員会が、特別な理由によってレースを中止しなければならないと判断したときに限り、レースを中止することができる。
- 3) すべての関係者は大会審査委員会の決定にしたがわなければならない。
- 4) 特にやむを得ぬ理由によって、トップ走者がそのレースにきめられた周回数(または時間)の3分の2を完走しないうちにレースを打ち切った場合は、そのレースは無効となる。
- 5) トップ走者が決められた周回数(または時間)の3分の2以上を完走した場合でレースを打ち切った時は、大会審査委員会はそのレースの判定結果に条件を付して発表する。
- 6) レースまたは大会が中止された場合、参加者が支払った出場料は返還されるが、他のいっさいの損害賠償を主催者に請求することはできない。公式予選終了後の中止については決勝進出者のみ出場料が返却される。

- 7) 大会審査委員会が下した裁定に対してはいっさい抗議することはできない。

32 抗議

- 1) 抗議は、総則〔20〕(32頁参照)による。
- 2) 車両の分解検査に要した費用はその抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に用いた費用は車検長が算定するものとする。
- 3) 車両の分解検査に立合う者は、車検長および抗議を受けた当事者のみとする。

33 レース中の違反行為に対する罰則

レース中の違反行為については、競技総監督ならびに大会審査委員会がその権限において下記の罰則を課することができる。

- 1) 故意に走路を妨害した場合、失格とする。
- 2) レース中に他の援助を受けた場合、失格とする。
- 3) コース上で逆走した場合、失格とする。
- 4) コース審判により示された信号旗にしたがわなかった場合失格とする。
- 5) 1度コース外に出て他の所より再びレースに復帰した場合、1周減算または失格とする。
- 6) ウォーミングアップ中止後、競技役員の許可なくエンジンを始動させた場合、1周減算とする。
- 7) フライングスタートが確認された場合、黒旗をもってその旨ライダー本人に通告される。黒旗およびゼッケンを記したボードを示されたライダーは、その場で1分間停止し、競技役員の指示によって再スタートする。
- 8) フライングを2度繰返したライダーは失格とする。

34 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、大会事務局あて質疑申立てができる。なお、この回答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

35 本規則の施行

本規則は出場申込み受付日より有効とする。

なお、本規則に示されていない事項は、MFJ国内競技規則による。

昭和62年1月1日

全日本選手権大会事務局長

TRIAL

付則6

トライアル



1 適用の範囲	69	9 タイムキーピング	72
2 トライアル	69	10 競技の進行	72
3 出場車両	69	11 ペナルティ	73
4 MFJ公認車両・公認部品	69	12 ペナルティの定義	73
5 総合仕様	69	13 競技結果	76
6 ライダーの装備	71	14 同点者の判定	76
7 コース	71	15 賞	76
8 セクション	71	16 審判員の権限	76

1 適用の範囲

以下に記す規則は、総則と共にすべての国内トライアル競技会に適用される。

2 トライアル

トライアルとは、自然の地形を利用してさまざまな走行条件を設定し、これを採点区間として定められた時間内に走破することで操縦技術の信頼性を試す競技である。大会は1日または2日以上にわたっておこなわれ、採点区間の成績とタイムキーピングによりその結果が表わされる。

3 出場車両

出場車両(以下車両という)は下記総合仕様をみたし、安全上完全に装備されているものでなければならない。なお、改造されて型式が判明できないような車両は出場することができない。

1) 国際A級部門、国際B級部門

車両は自由とする。ただし、総合仕様をみたしていること。

2) ジュニア部門、ノービス部門

車両は一般生産型モーターサイクルでMFJ公認車両で、総合仕様をみたしていなければならない。

4 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両および公認部品は、総則(10) 28頁を参照。

5 総合仕様

車両は安全のため、次の各項のすべてをみたしていなければならない。

- 1) 排気管およびサイレンサー
排気管およびサイレンサーは規定の音量規制値3)、7。(70頁参照)を満足していなければならない。
- 2) タイヤ
(1) タイヤはMFJ公認タイヤでなければならない。

- (2) タイヤに改造を加えてはならない。
- (3) タイヤにチェーン、スパイク等を加工整備してはならない。
- 3) クラッチおよびブレーキレバー、ペダル
- (1) クラッチレバーおよびブレーキレバーの末端は直径19mm以上の球状で、容易にとれたり外れたりするものであってはならない。
- (2) ブレーキペダルおよびギヤシフトレバーの位置は自由である。ただし、その先端は安全上丸められていなければならない。
- 4) ブレーキ
車両前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えていなければならない。
- 5) フェンダー
前後輪には有効なフェンダーが装備されていなければならない。
- 6) チタン合金を素材とし、これを加工して製造された部品を使用してはならない。
- 7) 音量はFIM方式による測定方法で、98db(A)以下でなくてはならない。

FIM方式による音量測定方法は総則[12]車両検査

1. 3) 29頁を参照。
- 8) 競技用ナンバープレート
競技が一般公道を使用しない場合、競技用ナンバープレートを装着しなければならない。
- (1) ナンバープレートの寸法
ナンバープレートは第1図に示す大きさのものでなければならない。

(2) 取り付け方法

ナンバープレートは1枚を車両の前面に見えやすいように前向きに取りつけなければならない。

(3) ナンバープレートの色分け

ナンバープレートおよび文字の色分けは次のとおりである。

ノービス部門＝白地に黒文字

ジュニア部門＝黄地に黒文字

国際B級部門＝緑地に白文字

国際A級部門＝赤地に白文字

(4) ナンバープレートの字体

ナンバープレートの字体はブロック体とし、ナンバープレートの枠内に明確に記入しなければならない。正しい書体は16頁に示す。

第1図 ナンバープレート



なお、国際A級および国際B級部門については第1図に示すようにプレート下部に記名しなければならない。

9) 一般生産型モーターサイクルの場合は、下記部品を安全上の理由により取り外さなければならない。

- ① スタンド類 ② キャリア類

トライアルタイヤ公認規格

トライアル競技に使用するタイヤは下記各項をみだし、MFJに公認申請を行ない、公認されたものでなければならない。

A: トレッドの深さ

トレッド面に直角に測って13mm以内であること。同一円周のすべてのスタッドの深さは同一であること。

B: トレッドの幅

タイヤの幅方向では9.5mm以内であること。

C: トレッドの幅

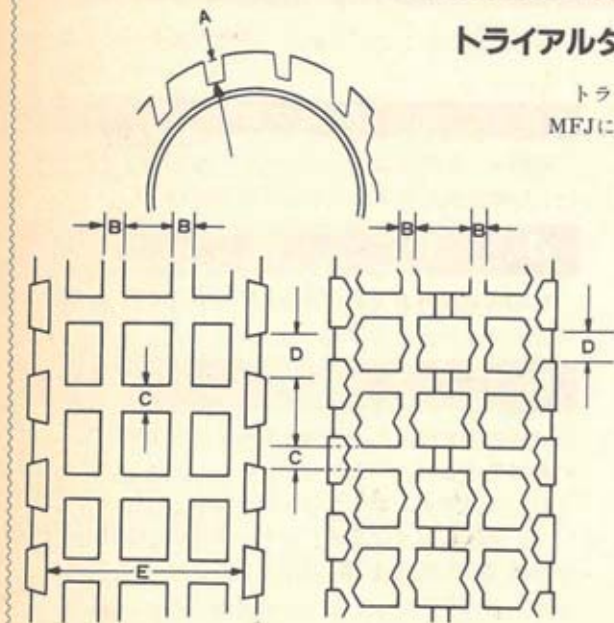
タイヤの円筒方向では13mm以内であること。

D: 肩部スタッドのスペース

22mm以内であること。

E: トレッドのさしわたす寸法

タイヤウォールに直角に測った場合、タイヤの全幅に及んでいないが、スタッドによって中断されている場合はこの限りではない。





- ③ タンデムフットレスト
- ④ 車両番号標板 (ブラケットごと)
- ⑤ バックミラー
- ⑥ ライト類及びガラスレンズ類 (ただしレンズおよびライト類の飛散防止を施せばよい)

6 ライダーの装備

1. ヘルメット

- 1) ヘルメットは、日本工業規格JIS T8133-1982のA種、および同JIS T8133の1種 (JIS T8133の1982年8月までの規格) 以上のもので、MFJが公認したものでなければならない。
- 2) MFJ公認ヘルメットには認証マークが貼付されている。
- 3) MFJ公認ヘルメットで、MFJ公認の認証マークの貼付されていない公認ヘルメットについては、特別検査料(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。
- 4) 競技会の車両検査受付時にヘルメットの検査がおこなわれ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットでもライダー本人の安全上使用を禁止される。

2. ライダーの服装

- 1) 服装は、下半身は長ズボン、上半身は長袖でなければならない。
- 2) 手袋および足首以上を保護する突出部のない皮靴またはゴム長靴を着用しなければならない。

7 コース

コースは次のコースマークにより明確に表示される。コースから外れた場合、ライダーは速やかにコースに戻らなければならない。

- (1) 右折(ターンライト) 赤いカードに“R”の黒字
- (2) 左折(ターンレフト) 青いカードに“L”の黒字
- (3) 直進(ストレート・オン) 白いカードに“SO”の黒字
- (4) 交差点、曲り角については、手前50mに進行方向を予告するカードが設置される。

8 セクション

1. セクションの表示

セクションは次のセクションカードおよびテープで表示される。

- 1) 入口 右側 赤地にセクションナンバー
左側 青地に“Section Begins”または“IN”
- 2) 途中 右側 赤いカード又はテープ
左側 青いカード又はテープ
- 3) 出口 右側 赤字にセクションナンバー
左側 青地に“Section Ends”または“OUT”
- 4) テープを使用する場合は、入口及び出口に赤と青のカードを置く。

2. セクションの幅

- 1) セクションの横幅はできる限り自然の障害物で

制限されるが、カード及びテープによって制限する場合は1.2m以上とする。

- 2) 同じ側のカードとカードの間を迂回することはできない。
- 3) 採点区間

セクションにおける採点は、前輪の接地面の先端または外側(スピンドル)がセクション入口のカードを過ぎた時点から開始され、前輪の接地面の先端または外側(スピンドル)がセクション出口のカードを過ぎた時点で終了する。

9 タイムキーピング

- 1) ライダーは、原則としてあらかじめ抽選で決められた順序により、1分間隔でスタートする。ただし同時スタートの場合はこの限りではない。
- 2) 決められたスタート時刻に遅れたライダーは1分につき1点の減点が課せられ、20分以上の遅れは失格となる。
- 3) コース走行時の平均速度は原則として20km/h以下とする。
- 4) ライダーには全コースを走破するための時間が与えられ、これに遅れてゴールしたライダーは失格となる。
- 5) 全コースを走り終えたライダーはゴール地点でタイムチェックを受けなければならない。

10 競技の進行

- 1) スタートの合図を受け、初めてエンジンを始動させることができる。
- 2) タイムキーピングを採用した場合、各セクションへのライダーの進入順序は自由であるが、審判員によって指示された場合にはこれにしたがわなければならない。
- 3) セクション間の移動は、コースマーク又はテープにしたがっておこなわなければならない。
- 4) ライダーはセクションに入る準備ができ次第、手を上げて審判員に合図しなければならない。
- 5) 審判員の指示により、速やかにセクションに入らなければならない。
- 6) セクション内でフルペナルティ(減点5点)を受けたライダーは、速やかにセクション外へ車両を移動させなければならない。
- 7) ライダーはコース上およびセクション内で一切の援助を受けてはならない。ただし、フルペナルティを受けたライダーはこの限りではない。
- 8) 競技中、車両の整備はライダー自身がコース上及び主催者の定める区域でおこなわなければならない。これに違反した場合は失格とする。

競技中、事故を起した場合や車両の故障等の理由で競技続行が不可能な場合は、速やかに競技役員に申し出なければならない。





- 9) 必要以上のスタンディング等、不適当なライダーのおこないについては、審判員の指示に従わなくてはならない。

11 ペナルティ

- 1) セクションにおける減点は0-1-2-3-5-10点とする。
 - (1) クリーン……………0点
 - (2) 足つき……………1点～3点減点
 - (3) 失敗……………5点減点
 - (4) 放棄……………10点減点
- 2) タイムキーピングによるペナルティは次のとおり課せられる。
 - (1) 予定されたスタート時間に遅れた場合……1分につき1点減点、20分以上の遅れは失格
 - (2) ゴールタイムチェックの遅れ……………失格
- 3) ライダーの不適切な行為に対するペナルティは次のとおり課せられる。
 - (1) 競技役員および審判員に対する不適当な態度……………100点減点
 - (2) セクションにおいて審判員の指示に従わなかった場合……………10点減点
 - (3) 定められたコースを不適当にカットした場合……………50点減点

注：上記(3)に関してはさらにセクション放棄の減点に加算される。

12 ペナルティの定義

セクションにおけるペナルティの定義は次のとおりとする。

1. 足つきの定義

ライダーの身体のどこかの部分、またはマシンのどこかの部分（フットレスト、エンジンガード、タイヤホイールを除く）が地面に触れた場合、これを足つきという。また車両の進行を停止することなくライダーの身体のどこかの部分が障害物（立木、壁など）にもたれた場合、足つきが生じたものとみなされる。

また身体の部分で手、足の場合、そのつけ根から先を同一とみなす。したがって足つきと同時に膝を接地しても、1回の足つきとみなす。

なお、足つきによるマーカー移動、破損は足つきのみの減点となる。

1) 1点減点

- (1) 足つき1回
- (2) 足つき状態でつま先とかかとが交互についている場合
- (3) 片足を軸にして車両を回転させた場合
- (4) 手を立木・壁等についた場合
- (5) 体または車両が障害物等にもたれかかり、バランスを修整した場合
- (6) テープの内側または外側の足つき1回

2) 2点減点

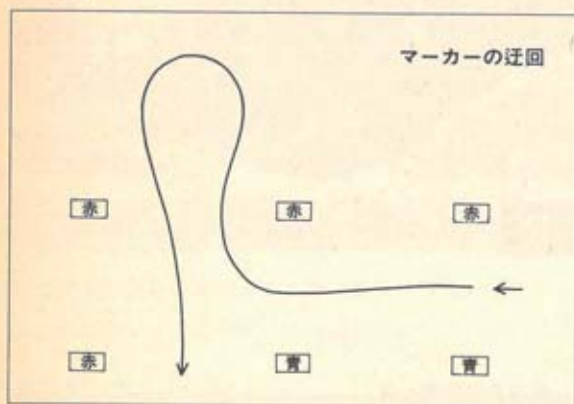
- (1) 足つき2回
- (2) 上記1)の1点減点となる行為が2回行われた場合
- (3) 両足同時の足つき

3) 3点減点

- (1) 足つき3回以上
- (2) 上記1)の1点減点となる行為を3回以上行われた場合

2.失敗(減点5点)

- 1) バック中の足つき
- 2) 登り坂等での足つきの状態でフロントタイヤが浮いてリヤタイヤがバックした時
- 3) マーカーの迂回(下図のようなふくらみ又はターン)



- 4) 車両・ライダーによるテープ切断およびたるませ、またはテープを止めている物を移動・破損した場合。
- 5) 車体の右側又は左側に両足が同時に足つきをした場合。
- 6) 両足つきの状態で車両がフロントホイールを上に90°以上かたむいた場合。

7) フロントタイヤまたはリヤタイヤがテープの上からテープ外に出て、立木、壁、石等に接触した場合。

8) 走ってきて足をついた状態でフロントタイヤが完全に停止した場合(ただし、フロントタイヤが前進を止めた状態から約1秒以内に少しでもフロントタイヤが前進を開始すれば減点5の対象にはならない。)

9) スタンディングによるフロントタイヤが完全に停止している状態から足を地面についても約1秒以内に足をあげれば減点5の対象にはならないが、この状態でフロントタイヤが進まずに再び足をつけば減点5となる。

10) 車両によるマーカー移動、マーカー破損。

11) 申告エスケープについては、特に審判員の判断により失敗申告とみなされたもののみ失敗とされる。

3.減点の対象とならない行為

1) 接触

接触とは、体の各部分または車両の各部分が立木、壁、石等その他の障害物に触れることを言い、これによって明らかにバランスの修正が行なわれない限り減点の対象とならない。

なお、マーカー、テープには車両、身体どちらで接触しても、接触のみであればペナルティは課せられない。

2) 下記の場合は減点5の対象とならない。

- (1) テープの上からフローティングターン等によるフロントタイヤ又は、リヤタイヤがテープ外に出た場合、テープ外の立木、壁、石、地面等にれずにテープ内に戻った場合。(75頁左上図参照)

●トライアルの減点は0-1-2-3-5-10

時間厳守とフェアプレーの精神で

減点ゼロ
おみごと/
クリーンです



減点1
残念、
足つき1回



減点2
無念なり
足つき2回



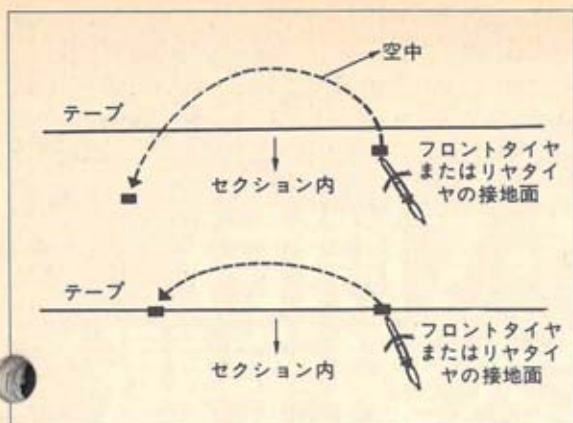
減点3
足バタバタ
3回以上



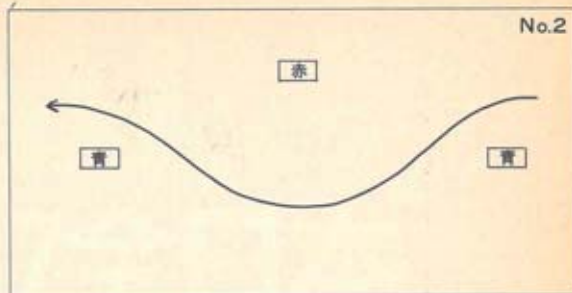
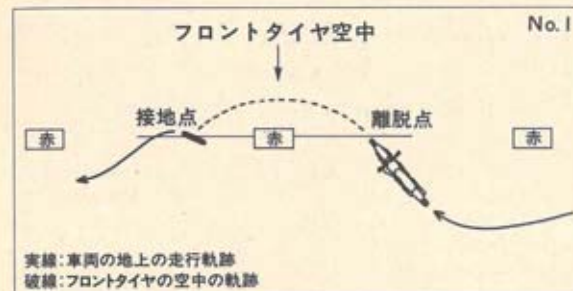
減点5
ミスりました。
失敗です。



トライを放棄すれば減点10/ それ、ゴー



(2) マーカー付近でのフローティングターン等によるマーカー迂回については、フロントタイヤの接地面と接地面がマーカーの内側を通れば減点5の対象とはならない。(下図参照)



- (3) V字型の地形等でステップがかみ込んで停止をした場合、ステップに足が乗っていれば減点5の対象とはならない。そのステップ上のつま先、足裏部分が接地しても、意識的なバランス修正がない場合、減点の対象とならない。
- (4) アンダーガードが引っかかりシーソー状態になり、エンジンが停止しても減点5の対象とはならない。尚、この状態から足をつかないでエンジンを始動させて競技の続行もできる。
- (5) エンジンが停止して足つきを行った場合でも、車両が前進していれば減点5の対象とはならず、ただの足つきの減点となる。
- (6) 足つきの状態で前輪を真横に移動又は振る事は前進とみなし、減点5の対象とはならない。
- 3) 減点の対象にならない車両の部分
車両が停止状態で立木、壁、石等又は地面で重心



を支えても減点の対象とはならない車体の部分

- (1) タイヤ
- (2) ステップ
- (3) アンダーガード底部

4. 放棄

放棄とはセクションを走行しなかった場合を言う。

13 競技結果

- 1) 総減点数の少ないものから順位を定める。
- 2) ワンデイトライアルの場合は、原則として当日の競技結果の発表を公式とする。
- 3) 2日以上たつて競技が行なわれる場合は、競技終了日より一週間以内に公式結果が発表される。

14 同点者の判定

同点者の判定は、次の判定順序に従っておこなう。

- (1) クリーン数の多い者を上位とする。
- (2) 1点減点の多い者を上位とする。
- (3) 2点減点の多い者を上位とする。
- (4) 3点減点の多い者を上位とする。
- (5) 以上によって決定できない場合は主催者の判断により決定する。

15 賞

総則〔8〕(27頁参照)に定める出走台数により次の通り賞を定める。但し、地方選手権大会以下の場合、この限りではない。賞の詳細は大会公示によって示される。

出走台数	賞の範囲	出走台数	賞の範囲
25台以上	15位迄	12台～13台	6位迄
22台～24台	12位迄	10台～11台	5位迄
20台～21台	10位迄	8台～9台	4位迄
18台～19台	9位迄	6台～7台	3位迄
16台～17台	8位迄	5台	2位迄
14台～15台	7位迄		

16 審判員の権限

審判員は、競技規則等にとり担当するセクション内における競技の進行、指揮の権限を有し、かつ、セクション内において選手の行為を減点の対象となりうるか審判する最終的権限を有するものである。



TRIAL

付則7・'87全日本 選手権大会特別規則

全日本選手権トライアル大会は、日本モーターサイクル協会(MFJ)公認のもとに、MFJ国内競技規則にしたがい開催される。本特別規則は、1987年度全日本選手権シリーズのすべての大会に適用される。

1 開催競技会	⑦	10 出場車両	⑩	19 競技中の車両整備	⑲
2 公式通知、タイムスケジュール	⑧	11 セクケンナンバー	⑪	20 ゴール	⑳
3 開催種目	⑨	12 ライターの装備	⑫	21 最終検査	㉑
4 運営実行組織	⑪	13 ガソリンおよびオイル	⑬	22 競技会の延期、中止およびうち切り	㉒
5 参加者およびライダー	⑫	14 出場受付	⑭	23 抗議	㉓
6 出場申込み	⑬	15 車両検査	⑮	24 ライターの遵守事項	㉔
7 出場料およびMFJ共済会掛金	⑭	16 ライターおよび車両の変更	⑯	25 本規則の違反、裁定	㉕
8 賞および得点	⑮	17 練習	⑰	26 本規則の解釈	㉖
9 日本代表選手団の選考基準	⑯	18 スタート	⑱	27 本規則の施行	㉗

1 開催競技会(78頁に提示)

2 公式通知、タイムスケジュール

公式通知およびタイムスケジュールの詳細は、申込み締切り後に発送される。

3 開催種目

1. トライアル

付則6〔2〕(69頁)参照。

- 1) 全日本選手権の対象部門は、国際A級部門および国際B級部門とする。
- 2) セクション数およびタイムキーピングの方法については、公式通知に示される。

4 運営実行組織

大会運営・実行組織は公式プログラムまたは公式通知

に示される。

5 参加者およびライダー

1. 参加資格

- 1) 1987年版MFJ国内競技規則、総則〔4〕(25頁)3ライダーの資格の条件を満たしていること。
- 2) 日本グランプリ大会の参加資格
 - (1) 国際B級部門について。

昭和62年7月19日開催の全日本選手権第7戦中部(北陸)大会までにポイントを獲得した者、ならびに昭和62年1月1日～7月5日までの各地方選手権ランキングで下記に示す順位の者。

北海道=6位 東北=15位

関東=30位 中部=31位(うち北陸大会の6位までを含める)

近畿=25位 中国=8位

四国=8位 九州=15位

注1: 同点者の参加資格は認められるが、欠負繰り上げについては認められない。

- 2) 日本グランプリ大会については参加資格に示された選抜規定による。

7 出場料およびMFJ共済会掛金

出場料：国際A級部門	7,000円
国際B級部門	7,000円
ジュニア部門(地方大会併催時)	7,000円
(MFJ共済会掛金200円を含む)	

8 賞および得点

1. 賞

- 付則6.トライアル規則[15] (76頁参照) にもとづいて授与される。
その他の賞の詳細は公式通知に示される。
- 国際A級、及び国際B級部門全日本ランキングの得点
 - 得点は総則[8]の1.、2.(27頁参照)によって与えられる。
 - 日本グランプリトライアル大会については、上記の得点にさらに3点が加算される。
 - 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計得点によって決定される。
 - その詳細は全日本選手権ランキング順位決定方法(83頁参照)に示される。

9 日本代表選手団の選考基準

'87年トライアル世界大会〔トライアル・デ・ナシオン・国別対抗トライアル大会〕は、9月20日フィンランドのタンペアで開催される。

今年度は、この大会に日本代表選手団を下記により派遣することとする。

1. 出場選手の選考基準

- 本年度全日本選手権シリーズランキングにおいて国際A級部門の上位3位の者。
- 日本国籍を有する者。

注：この国籍とは、スポーツ国籍をいうのではなく、選手自身の国籍をいう。

10 出場車両

車両は、付則6(3)1) (69頁参照) を遵守しなければならない。

11 ゼッケンナンバー

- 国際A級・B級各クラス選手の年間指定ゼッケンナンバーは、別に定めるゼッケンナンバー決定基準によって割り当てられる。
- 主催者から特に指示がない場合は、車両検査までに規定の書体および色分けてナンバーを記入しなければならない。
- ナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって



点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。

- 4) 競技中、ナンバープレートおよび配布されたゼッケンを装着せず、また間違ったゼッケンを装着して走行した場合は、そのトライは記録されない。

12 ライダーの装備

ライダーの服装、ヘルメットは、付則6〔6〕(71頁参照)による。

13 ガソリンおよびオイル

- 1) ガソリンおよびオイルは総則〔11〕(28頁参照)による。
- 2) ガソリンの銘柄およびその詳細が公式通知によって主催者から指定された場合は、当該ガソリンを使用しなければならない。
- 3) ガソリンおよびオイルを入れる容器は消防法により認められているものとする。

14 出場受付

- 1) 出場受付の時間および場所は公式通知に示される。
- 2) 出場受付は、定められた時間内に、かならずライダー本人が出頭し、MFJライセンス、参加受理書を提示して、当日の出場資格を確認しなければならない。
- 3) MFJライセンスを提示できない者は、出場が認められない。

15 車両検査

- 1) 車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールにしたがって、競技開始前にパドック内の車両検査区域においておこなわれる。
- 2) ライダーはタイムスケジュールに示された時間内に、必ずライダー本人が車両を持参し車両検査を受けなければならない。規定時間以後の検査は、大会審査委員会が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外はおこなわれない。
- 3) 車両検査への持込みは1台に制限される。
- 4) 車両検査において、規則または安全上出場が不適当と判定された車両は、一切の走行を拒否される。
- 5) 車両検査において、フレームボディとクランクケースについてマーキングを行なう。以上の部品は、当日の競技に使用され、競技が終了するまで交換することはできない。これらの部品を車両検査後、あるいは競技中、無断で交換した場合、失格とされる。
- 6) 車両検査時には、付則6〔5〕の7)の方式ののっ

り車両の音量検査が行なわれる。

- 7) 主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両の検査をおこなうことがある。

16 ライダーおよび車両の変更

ライダーおよび出場車両の変更は原則として認められない。ただし、総則〔13〕(29頁参照)に該当する場合は出場受付終了以前に手数料5,000円を添えて申請し、競技総監督の許可を受けなければならない。

17 練習

大会当日コースおよびセクションのいかなる場所においても練習は禁止される。これに違反したライダーは失格とする。ただし主催者が特別認めた区域内でウォーミングアップができる場合がある。

18 スタート

- 1) スタート順序は主催者によって決定される。
- 2) 決められたスタート時刻に遅れたライダーには、1分につき1点の減点が課せられ20分以上遅れたライダーは失格となる。

19 競技中の車両整備

- 1) 車両のパーツは、マークのつけられていないもののみ交換することができる。ただし、ライダーはスペアパーツを主催者の定める区域以外の場所で受け取ることはできない。
- 2) ライダーは、コース上のどこにおいても工具を受け取ることができる。ただし、ライダーが車両の整備を行なう場合、主催者の定める区域外で、他の援助を受けることはできない。これに違反した場合、失格とされる。

20 ゴール

ライダーは定められた競技時間内にゴールしなければならない。ゴール時間に遅れたライダーは失格とする。

21 最終検査

最終ラップ終了後、車両は主催者が定める区域において、車両検査時に付けたマークの有無の確認を受ける。



22 競技会の延期、中止およびうち切り

- 1) 大会は、本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。
- 2) 大会は、大会審査委員会が、特別な理由によって競技を中止しなければならないと判断したときに限り競技を中止される。
- 3) 大会が中止された場合、参加者が支払った出場料、保険料は返還されるが、他の一切の損害賠償を請求することはできない。

23 抗議

- 1) 抗議は、総則〔20〕(32頁参照)による。
- 2) 車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定するものとする。

24 ライダーの遵守事項

ライダーは次の事項を守らなければならない。

- 1) 競技会は、MFJ国内競技規則ののっとりおこなわれる。ライダーはすべての行動に対して責任をとらなければならない。
- 2) ライダーはすべて本競技会特別規則ののっとり行動すること。場合によっては、失格、さらに退場に至る罰則が課せられる。
- 3) 参加者は国内競技規則、本規則および競技管理上のあらゆる規定を守り、競技役員の指示にしたがわ

なければならない。また公道上では交通法規を守らなければならない。

- 4) 参加者は常にスポーツマンとしての態度を保ち、公正に行動しなければならない。
- 5) 参加者は競技期間中、飲酒あるいは薬品によって精神状態をつくろってはならない。
- 6) 競技が一般公道の走行を含む場合、ライダーは運転免許証、MFJ競技者ライセンスを必ず携帯しなければならない。

25 本規則の違反、裁定

本規則に対する違反の裁定は大会審査委員会によって判断され、違反者には罰則が適用される。裁定後はいかなる理由といえどもこれにしたがわなければならない。

26 本規則の解釈

本規則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑申立てができる。なお、質疑申立てに対する回答は大会審査委員の決定を最終的なものとする。

27 本規則の施行

本規則は出場申込み受付日より有効となる。

なお、本規則に示されていない事項は、MFJ国内競技規則による。

昭和62年1月1日

全日本選手権大会事務局長

Nixeレーシングスーツはベテランのクラフトマンが心をこめて作りあげたハイクオリティなレーシングギアです。

ハイテクノロジーの集大成。



■Material

- 牛革1.2~1.3mm厚。特に厳選されたゴールデンバックを使用。軽くて耐摩耗性に優れています。
- ダメージの大きい腰、肘、シャーリング部等は世界で初めてケブラー糸で縫製。ケブラー繊維はナイロンに比べ、3倍以上の破断強度をもつ高強度繊維です。

■Color

ホワイト×ブルー・ブルー×ホワイト・レッド×ホワイト

■Size

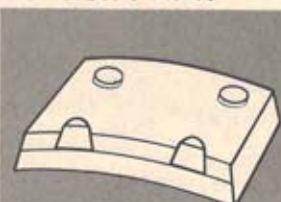
どんな体型にもフィットする6サイズ構成。M・L・LLの3サイズをスリム(細身体)とレギュラ(普通体)で構成。

■Price

定価 180,000円



■OPTION 1 スライダー



京セラとの技術開発による特殊セラミックピンをスライダー部に内蔵。ハードなコーナリング時のドリフトに対応。路面をセービングするようなスムーズライディングフィールと、抜群の耐久性が得られる。最先端のバンクセンサーです。

■OPTION 2 バックボーンパッド



衝撃吸収度(94.7%)を誇るソルボセインを更に成形プラスチックパッドでラミネート。大切な背柱部をガードします。スポンジパッド+ソルボセイン+プラスチックパッド+スポンジの4層構造が体の動きにジャストフィット。ホディープロテクションの最高級品です。



株式会社RSタイチ

〒574 大阪府大東市中垣内3-1-25 TEL.0720(74)3268(営業部直通)・0720(74)5315(小売部)・小売部定休日:毎水曜

NSK チューニング専用グラインダー

「エレクター・ロータス」

超精密小型グラインダー

エレクター (電動式) 3,000~35,000rpm.



ロータス (空圧式) 3,000~30,000rpm.



●アタッチメント

MH-300

KC-300(45°)

IC-300(90°)



●詳しくは、カタログをご請求ください。

NSK 株式会社
ナカニシ

●東京事務所/〒110 東京都台東区上野3-19-4 酒井ビル3F ☎03(835)2890 FAX03(835)2856
●大阪駐在所/〒552 大阪市港区機路2-14-1 松下マンション202 ☎06(575)1134
●本社・工場/〒322 栃木県鹿沼市上日向340番地 ☎0289(64)3380 FAX0289(62)5636

付則 8

全日本選手権

ランキング決定基準

MFJライセンス

昇格・降格規則



1 全日本選手権ランキング決定基準

1. 全日本選手権ランキング順位づけ決定の方法

全日本選手権ランキングの順位づけは次の方法により決定される。

- 1) 全日本選手権シリーズ大会で得たすべての得点を合計し、総合得点の大なるものから順位を決定する。ただし、40点未満のものはチャンピオンとはせず、ランキング2位とする。
- 2) 上記1)で同点となった場合、上位入賞回数の多いものが上位となる。
- 3) 上記2)で決定できない場合、前年度のランキング上位のものを上位とする。
- 4) 上記3)で決定できない場合、M.F.Jスポーツ委員会において最終決定する。

2 MFJライセンス昇格・降格規則

M.F.J競技者ライセンス資格は、M.F.J公認のもとで開催されるモーターサイクル競技の公正を期するために、

次の昇格および降格基準にもとずいて決定される。

1. 自動昇格基準

- 1) 公認競技会の出走台数によって与えられる得点
 - (1) 全日本選手権および地方選手権競技会

台数 順位	25 以上	22-24	20-21	18-19	16-17	14-15	12-13	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	不成立
2位	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
3位	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
4位	13	13	13	13	13	13	13	13	13			
5位	11	11	11	11	11	11	11	11	11			
6位	10	10	10	10	10	10	10					
7位	9	9	9	9	9	9						
8位	8	8	8	8	8							
9位	7	7	7	7								
10位	6	6	6									
11位	5	5										
12位	4	4										
13位	3											
14位	2											
15位	1											

昭和61年度 全日本選手権ランキング認定



(2) その他の公認競技会

順位	台数	12以上	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	10	10	10	10	10	10	不成立
2位	8	8	8	8	8	8	
3位	6	6	6	6	6		
4位	5	5	5				
5位	4	4					
6位	3						

(3) 得点の制限

- 出場台数により与えられる得点は、上記の表のとおり得点を制限する。
- 出走台数は、そのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数とする。ただし、公式予選がある場合は、予選スタートラインに並んだ総台数により得点を制限する。

出場申し込み台数	公式予選のスタートラインに並んだ台数	決勝レースのスタートラインに並んだ台数	与えられる得点順位
25台	24台	21台	1位~12位
20台	16台	15台	1位~8位
25台	予選なし	24台	1位~12位

※ []印が得点対象台数

2) 成績対象の期間

前年度の11月から当該年度の10月末日までの12ヵ

月間とする。

3) ロードレース

(1) ノービス部門からジュニア部門

- 公認競技会においてノービス部門125cc、250ccおよびF3クラスで得点10点以上の成績を得た者。ただしSPフォーミュラ部門は、自動昇格対象とはしないが、上記同等の得点を得た者は特別昇格の申請ができる。
- 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会および地方ブロック協議会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- その他、MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

(2) ジュニア部門から国際A級部門

- 全日本選手権ランキング1位~6位までにランクされた者。
- MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

注：全日本選手権シリーズで15ポイント以上取得した者でランキング15位以内の者は、特別昇格の申請ができる。

4) モトクロス

- B部門および限定B部門からノービス部門

第3式



- ① 公認競技会において各地方で下記に示す得点以上の成績を得た者。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	20	20	20	20	20	40	40	20

- ② 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- ③ MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- (2) ノービス部門からジュニア部門
- ① 公認競技会において各地方で下記に示す得点以上の成績を得た者。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	40	40	30	30	30	40	40	30

- ② 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- ③ MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- (3) ジュニア部門から国際B級部門
- ① 全日本選手権シリーズ大会において得点30点

以上の成績を得た者。

- ② 公認競技会において各地方で、下記に示す得点以上の成績を得た者。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	80	85	50	50	50	60	60	50

- ③ 全日本選手権ランキングでクラス1位～6位までにランクされた者。
- ④ 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会および地方ブロック協議会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- ⑤ MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- (4) 国際B級部門から国際A級部門
- ① 全日本選手権ランキングでクラス1位～10位までランクされた者。
- ② MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- 5) トライアル
- (1) B部門および限定B部門からノービス部門
- ① 公認競技会において、Bライセンスおよび限定Bライセンス部門での優勝者および2位の2名の者（次の大会よりノービス部門で出場すること）。ただし、Bライセンス部門の競技会は10名以上の参加によって行なわれたものに限る。
- ② その他、上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- ③ MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- (2) ノービス部門からジュニア部門
- ① 公認競技会において、ノービス部門での優勝者および2位の2名の者（次の大会よりジュニア部門で出場すること）。ただし、ノービス部門の競技会は10名以上の参加によって行なわれたものに限る。
- ② その他、上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。
- ③ MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。
- (3) ジュニア部門から国際B級部門
- ① 公認競技会において各地方で下記に示す人数で得点上位の成績を得た者。ただし、同点者のある場合は、この人数を超えることができる。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
人数	5	10	30	13 (内北陸3)	10	6	5	10

② 上記の基準と同等以上の技量を持つ者と判断され、県協会および地方ブロック協議会の承認推薦された者で、MFJスポーツ委員会が承認した者。

③ MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

(4) 国際B級部門から国際A級部門

① 全日本選手権ランキングで1位～5位までにランクされた者。ただし、同点者のある場合はこの人数を超えることができる。

② MFJスポーツ委員会が特に必要と認め承認した者。

2. 自動降格基準

ライセンスの未更新期間がある場合は、下表によりライセンス資格の自動降格がなされる。

3. 特別昇格申請

1) 昇格基準と同等とみなされるにふさわしい成績を得た者で、昇格を希望する者のみ、特別昇格申請ができる。

2) 申請期間

(1) 前年度の11月1日～12月31日までを申請期間とする。

(2) この期間以外の昇格申請はいっさい受けない。

3) 申請方法および申請料

(1) 所定の申請書に必要事項を記入し、所属する都府県モーターサイクルスポーツ協会（以下、県協会という）、および地方ブロック協議会の承認を得て、MFJ事務局に申請する。

(2) 所定の申請書は県協会またはMFJ事務局に用意されており、請求に応じて配布される。

(3) 申請にあたっては申請料3,000円(切手でも可)を添えて県協会に提出すること。なお、最終的な決定はMFJスポーツ委員会の審査結果による。

4. 特別降格申請

MFJ競技ライセンス資格の降格を希望する者は、以下の手続きによって申請し、MFJスポーツ委員会の審査によって認められた場合、降格することができる。

1) 申請方法および申請料

(1) 所定の申請書に必要事項を記入し、所属する県協会および地方ブロック協議会の承認を得て、MFJ事務局に申請する。

(2) 申請用紙はMFJ事務局に用意されており、請求に応じて配布される。

(3) 申請にあたっては、申請料3,000円(切手でも可)を添えて県協会に提出すること。

(4) 降格承認後は降格が認められた日より、その年度の終了する日まで、再昇格基準が適用される。

2) 申請期間

(1) 前年度11月1日～12月31日までを申請期間とする。

(2) この期間以外の降格申請はいっさい受けない。

5. 再昇格基準

ライセンスの降格があっても、次の基準により次大会より再昇格される。

1) ロードレース

(1) 全日本選手権シリーズ大会において、原則として2回優勝した者。

(2) 公式記録によるラップタイム等により、MFJスポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

2) モトクロス

(1) 国際B級からジュニア部門に降格した場合は、全日本選手権シリーズ大会で、原則として2回優勝した者。

(2) ノービス部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において、原則として1回優勝した者。

(3) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

3) トライアル

(1) 国際B級部門に降格した場合は、全日本選手権シリーズにおいて、原則として1回優勝した者。

(2) ジュニア部門に降格した場合は、地方選手権シリーズにおいて、原則として1回優勝した者。

(3) ノービス部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において6位以内に入賞した者。

(4) MFJスポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

未更新期間	ライセンス	モトクロス・トライアル					ロードレース			
		Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際B級	国際A級	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際A級
1年	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際B級	国際A級	Bライセンス	ノービス	ジュニア	国際A級	
2年	//	//	//	//	//	//	//	//	//	
3年	//	//	ノービス	ジュニア	//	//	//	ノービス	//	
4年	//	//	//	ノービス	国際B級	//	//	//	ジュニア	
5年	//	//	//	//	//	//	//	//	//	
6年以上	//	//	//	//	ジュニア	//	//	//	//	

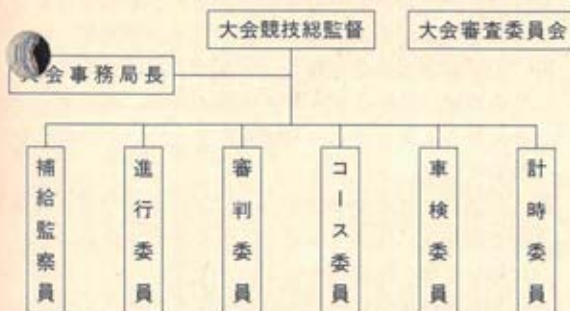
*ロードレースについては5年以上の未更新期間のある場合はMFJ公認サーキットの走行証明が必要。

MFJ 競技役員 規程

日本モーターサイクル協会（以下(MFJ)という)は、MFJ公認および承認の下で開催されるモーターサイクル競技会の公正を期するため競技を監督し、あるいは執行する競技役員に関する規程として次のように定める。

第1条 競技役員の構成

- 1) 競技役員は、競技会の指揮、監督する実行役員と監督役員とに分けられる。
 - (1) 監督役員—大会審査委員長、大会審査委員
 - (2) 実行役員—大会競技総監督、大会競技副監督、各競技役員の長及び役務を執行する役員
- 2) 次の者は競技役員として任命され、かつ補助員によって補佐させることができる。



第2条 査察権

M.F.Jは国内で公認及び承認される競技会に対し査察権をもつ。

M.F.Jは必要に応じて査察者を指名することができる。

第3条 最少限必要役員

競技会においては、少なくとも競技会審査委員長1名及び競技会審査委員2名、並びに競技総監督1名をおき、また全部もしくは一部に計時が行われる競技においては1名もしくは数名の計時委員をおかなければならない。

第4条 競技役員の任命

M.F.Jは自ら主催する競技会または世界選手権競技会、

国際選手権競技会、全日本選手権競技会、国際競技会及び特別競技会に対して、大会審査委員長を任命するものとする。その他の役員は大会組織委員会が任命するものとする。

第5条 必要な資格

競技役員はその任務についてM.F.J競技役員の資格及び認定に関する規則に伴う資格を有する者の中から選ばれるものとする。

第6条 兼務

一つの競技会において、組織委員会の決定があれば審査委員を除き同一の者が本規程第1条に掲げる任務の数種につき、その資格を有することを条件として、それらの任務を兼任することができる。

第7条 禁止された任務

いかなる役員も、一つの競技会において、それが指名されたもの以外の任務を行ってはならない。また、いかなる競技役員も、自己が公的任務を行使している競技会当日の一切の競技に出場してはならない。

第8条 役員の報酬

競技会の役務につく役員の報酬については、前もって主催者及び当該役員によって定めるものとし、役員は役務に対する正当な報酬を受けることができる。

第9条 大会審査委員会の責任

大会審査委員会は、M.F.Jに対して責務を負うものであり、競技会の組織または競技執行に対しては、なんらの責務を負うものではない。

第10条 大会審査委員会の権限

- 1) 大会審査委員会は、国際モーターサイクリスト連盟（以下FIMという）及びM.F.J発行の規則並びに大会特別規則、公式プログラムの施行について最高管理権を行使することができる。
ただし、実施面の職務を持たない競技会の運営については責任を負わない。
- 2) 大会審査委員会の発案または主催者もしくは大会競技総監督の要請により競技のスタートの延期、サーキットまたは会場の改善、緊急的な安全上の理由あるいはその他の不可抗力的な理由によっては競技終了前の停止、その一部または全部の中止の措置をとることができる。
- 3) 大会審査委員会は競技会の際、生ずるすべての異議申立て並びに次の各号に掲げる事項について裁定するものとする。
 - ① 規則に違反の場合、適用する罰則または罰金を課すること。
 - ② 審判員より提出された判定の訂正、もしくは拒否すること。
 - ③ 出場停止処分を宣告すること。
 - ④ 必要な場合、順位に対し修正を加えること。
 - ⑤ 競技参加者またはライダーが競技参加の資格のないものと認め、あるいはそのことが競技総監督もしくは組織委員会から報告され、あるいは不正行為ありと判断する場合、特定の競技への参加または競技会の期間中の参加を禁止すること、ならびに責任ある競技役員に命令に従わない競技参加者またはライダーをコース場もしくは、その付属施設から排除すること。
- 4) 大会審査委員会は特に必要ある場合は、代理の審査委員を指名することができる。

第11条 大会審査委員会の報告義務

大会審査委員会は、第4条による競技会の終了後7日以内に競技総監督による報告を含めて、提出された抗議とその処置勧告文を含む、すべての処罰の詳細などとともに、所定の報告書を作成し、署名の上、M.F.Jに提出する。また、その報告書には、競技会の組織、審査委員会としての権限行使及び競技会を許可したM.F.Jがとるべきであったと考えられる運営上の問題点などについて、審査委員会として見解を附記するものとする。

第12条 大会審査委員会の報告に基づくM.F.Jの権限

もし、大会審査委員会の報告その他により、M.F.Jにおいて競技会の成績が公正かつ正確に決定されていないことが判明した場合には、たとえこれに対する抗議または控訴がされていない場合でも、M.F.Jはこの問題を調査し、関係者を審問した上で適切な命令を発する権限を持つものである。ただし、命令を発することのできる期間は、



競技成績発表後60日以内に限られる。

第13条 大会競技総監督の任務

大会競技総監督は大会実行部門の総括者であり、全役員およびライダーを指揮して、その大会をスムーズに運営する責任を有するものとし、必要に応じて競技総監督を補佐する1-2名の副監督をおくことができる。特に競技総監督は治安の任務を有し、職務の遂行にあたり大会事務局長および大会職務担当役員への援助のもとに、次の主要職務を行わなければならない。

- 1) すべての競技役員が、その部署についていることを確認し、かつ、不在者がある場合、そのことを大会審査委員会に報告すること。
- 2) すべての競技役員が、その任務を遂行するために必要な、一切の情報を受けることを確認すること。
- 3) 競技参加者及びその車両を管制し、かつ、出場停止もしくは資格停止または資格取消しにより参加の資格を有さない競技参加者またはライダーが競技に参加することを防止すること。
- 4) ライダー及び車両の変更申請があった場合に審査し判定すること。
- 5) 大会審査委員会に対し、プログラムの変更についての提案、並びにライダーの不正行為、規則違反、またはライダーからの異議申立てについての提案を行なうこと。
- 6) 異議の申立てを受理し、かつ、それをただちに大会審査委員会に伝達すること、大会審査委員会はそれに対し必要な処置をとるものとする。
- 7) 大会職務担当役員長の報告をまとめ、大会審査委員会に提出してその承認を得ること。

第14条 大会事務局長の任務

大会事務局長は、競技会の認可要請に基づき、その運営・競技補助の作成配布、競技会に必要なすべての人員、資材の調達等、各事務部門を指揮してすべての事務作業をとどこうりなく行なう責任を有するものとする。

大会事務局長は、必要ならば各競技の最終報告書の作成について、大会競技総監督を補佐しなければならない。

第15条 計時委員の任務

計時委員はゴールラインを通過するライダーを、正確に記録し最終的に順位を決定することが任務であり、そ

の主な任務等は次のとおりとする。

- 1) 競技会の開始と共に大会競技総監督の指揮下に入り、大会競技総監督の要求により計時委員は任務を遂行すること。
- 2) 競技監督より指示を受けた場合、スタートの合図を行なうこと。
- 3) 要求があれば、大会審査委員会もしくは、M.F.J.に対して計時表の原本を提出すること。
- 4) 大会審査委員および競技総監督より指示がない限り大会審査委員以外の者に、公式タイムまたは成績を通報しないこと。

第16条 車検委員の任務

車検委員は車両の機械装置および服装に関するすべての審査を担当する。車検委員は競技総監督の指揮下に入り次のことを行なう。

- 1) 車両の重量、音量、その車体および附属品の寸法ならびに競技参加者およびライダーのライセンスに関する一切の点検を担当する。
- 2) M.F.J.もしくは組織委員会の要求により競技会開始に先立ち、あるいは、競技総監督の要求により競技開催中もしくは終了後その検査を実施すること。
- 3) M.F.J.の技術委員会が指定した場合、公認もしくは承認した検査器具を使用すること。
- 4) その検査の公式結果は、M.F.J.、大会組織委員会、大会審査委員会及び競技総監督以外の者に対しては通報してはならない。車検委員は、その責任において検査報告を作成し、競技総監督に報告書を提出すること。

第17条 補給監察員の任務

補給監察員は競技進行中における車両の燃料補給について一切の作業を監察し、かつ、特別規則の該当各項を遵守せしめる任務を有する。

また、補給監察員は競技総監督の指揮のもとにおかれ、競技参加者またはライダーにより行なわれた一切の違反について、直ちに競技総監督に対して報告しなければならない。

第18条 コース委員および信号員の任務

コース委員は、大会審査委員会もしくは組織委員会によって定められたコース上の部署につくものとする。コース委員は競技会開始後、競技総監督の指揮下に入り、各自の部署が監視する区域において生ずる一切の事故を、利用し得る方法(電話・信号・伝令・その他)によって直ちに競技総監督に通報しなければならない。信号員は特に信号旗の操作を担当するものとする。信号員は同時にコース委員を兼ねることができる。各競技終了後、コース

委員は自己が確認した事故について文書による報告を競技総監督に提出しなければならない。

また、競技中コース委員は競技総監督の指示があった場合は、自己の監視部署の前を通過する競技車の順位についてできるだけ速かに本部に報告しなければならない。

第19条 審判員の任命

必要に応じ、競技会の組織委員会は、下記の審判員を任命することができる。

- 1) スタート審判員……競技会の組織委員会は、スタートを監視するため、1人または数人の審判員を指名することができる。スタート審判員は、反則スタートを確認した場合は、ただちにそれを競技総監督に報告するものとする。
- 2) 決勝審判員……競技者がゴールラインを通過する順序を決定する必要がある競技において、その決定を担当する決勝審判員を任命できる。
- 3) 走路審判員……競技中競技者がある線に接触もしくは、それを超過したか否かを判定し、または特別規則に定められたその他の事項について判定する必要がある競技においては、走路審判員を任命し、それを判定する任務を与えることができる。
- 4) 補助審判員……審判員を補佐し、あるいは絶対必要の場合、審判員を代行するため、補助審判員を任命することができるが、これら補助審判員の間に合意が得られない場合には、その最終判定は正式の審判員によって行われるものとする。

第20条 審判員の判定

- 1) 機材による判定並びに審判員の判定を容易にするため、主催者の統括の下にビデオカメラ等の器具を使用することができる。この場合の審判においては、その確証を持つため判定を遅らせることができる。ただし、主催者が指定したもの以外の器具による確証を判定のため使用してはならない。
- 2) 抗議……審判員の判定は最終的なものであり、これに対する抗議は受付けれない。ただし、その判定には競技上のその他の必要条件が考慮に入れているものではないので、審判員の判定がそのまま競技結果とはなり得ない。
- 3) 誤審……審判員の判定に誤ちがあった場合には、大会審査委員会の承認を得て、審判員自身で訂正することができる。
- 4) 報告書……競技会終了後、判定についての報告書を競技総監督に提出しなければならない。

第21条 進行委員の任務

大会競技総監督の指揮下に入り、常にタイムスケジュールに忠実に大会に進行が行なわれるように調節しながら、作業を行なうことが任務である。

ミニバイクレース 規則



第1条 目的

この規則は主として年少者等初心者のミニバイクレース競技の安全の確保、競技秩序の維持及び公正を保つとともに、モーターサイクル・スポーツを通じて年少者の心身の健全発達に寄与することを目的とする。

第2条 定義

この規則における用語の定義は次の通りとする。

1. ミニバイクとは総排気量80cc以下のスクーター及びホイールサイズ16インチ以下のバイクで日本モーターサイクル協会（以下「M.F.J.」という）が公認したものをいう。
2. ミニバイクレースとは、直線走行コースの距離が120メートル以下の舗装されたコース・場所（一部非舗装部があっても可）において、前項に規定するミニバイクによって競われる承認競技会をいう。

第3条 ミニバイクレースのクラス区分

ミニバイクレース競技会はスクーターで行なわれるものと及びスポーツバイクで行なわれるものに大別され、各々総排気量によって競技クラスは次のように区分される。



1. スクーターで行なう競技会のクラス区分

競技クラス区分略称	車両の形態	総排気量
N5	ノーマル	50cc以下
N8	ノーマル	50ccをこえ80cc以下
NS5	一部改造	50cc以下
NS8	一部改造	50ccをこえ80cc以下

2. スポーツバイクで行う競技会のクラス区分

競技クラス区分略称	車両の形態	総排気量
S5	ノーマル	50cc以下
S8	ノーマル	50ccをこえ80cc以下
SS5	一部改造	50cc以下
SS8	一部改造	50ccをこえ80cc以下

3. 改造オープン

競技クラス区分略称	車両の形態	総排気量
SR5	一部改造	50cc以下
SR8	一部改造	50ccをこえ80cc以下

第4条 競技会クラス区分の運用

競技会主催者は、競技会クラス区分について次のように運用するものとする。

1. 同一競技ライセンス所持者が前条のクラス区分によって行う。
2. 同一競技ライセンス所持者であっても参加者の年齢、性別、経験及びライディング技術等によって考慮する。

第5条 参加資格

本競技会に参加する事の出来る資格は、次の通りとする。

1. 運転免許証を受けている者で住所地の都・府・県モーターサイクリススポーツ協会（以下「県協会」という）の個人会員であること。
2. 16歳以上で運転免許証を受けていない者が、ミニバイクライセンス講習会を終了し、ミニバイクBライセンスを受け、かつ住所地の県協会の個人会員であること。
3. 9歳以上16歳未満の者で、ミニバイクライセンス講習会を終了し、ミニバイク限定Bライセンスを受け、かつ住所地の県協会の個人会員であること。
4. M.F.J.のノービス以上の競技ライセンスを受けている者。

第6条 出場申し込み及び未成年者の誓約等

ミニバイクレースに出場しようとする者は別に定める様式による出場申し込み書を主催者に提出し、受理されなければならない。20歳未満の者については、出場申し込みの所定欄に親権者の出場を承諾する旨を明記されていなければならない。

さらに、16歳未満の者については、親権者又は親権者が委任する所属クラブ代表の同伴でなければ出場することはできない。

第7条 参加できるクラス

ミニバイクライセンス及び県会員証で参加できるクラスは下表とする。

ライセンス区分	公認 承認区分	クラス												
		N5	N8	NS5	NS8	S5	S8	SS5	SS8	SR5	SR8			
ミニバイク	公認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
限定Bライセンス	承認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ミニバイク	公認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Bライセンス	承認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
県協会会員証	公認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	承認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
M.F.J. ノービス以上の 競技ライセンス	公認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	承認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

第8条 ライダーの服装

ライダーは競技中の安全を確保する為、最低限、次のものを着用しなければならない。

- ヘルメットはM.F.J.が公認したもの。
- グローブは皮革製品またはこれに準ずるもの。
- ブーツは皮革製またはこれに準ずるもので、くるぶしままでおおうもの。
- ウェアは長袖のものでマシン操作に適しているもの。

第9条 出場車両

競技の安全性並びに公平性を確保する為、出場車両はM.F.J.公認の車両でなければならない。なお、出場車両の改造の限度は次のとおりとする。

〔I〕 ノーマルクラス(N5.N8.S5.S8)の改造限度

1. ノーマルクラスの車両
車両は市販レーサーを除く一般生産型モーターサイクルでM.F.J.が公認したものでなければならない。
2. ノーマルクラスの改造限度
 - 1) すべての車両は国内競技規則のロードレースの総合仕様で全面的に適合していなければならない(ただしノーマル状態で適合しない場合は除く)
 - 2) 安全上、下記項目については必ず処置を施さなければならない。
 - ① バックミラー、スタンド、キャリアは取りはずすこと。
 - ② ライト、レンズ、ウィンカー等、保安部品は取りはずすかテーピングを施すこと、ただしテールライト(ブレーキライト)は、作動しなければならない、後方より確認出来るようにテーピングすること。
 - 3) 下記項目以外の改造変更は一切認められない。
 - ① キャブレターのメインジェットの変更は可
 - ② プラグ：変更は自由
 - ③ タイヤ：一般市販されている通常ルートで購入できるもののみ交換は可。ただし、スリックタイヤ・インターミディエイト含む)及び摩耗限度を越えたもの及びグルーピング(溝切り)は不可。

〔II〕 改造クラス(NS5.NS8.SS5.SS8)

1. 改造クラスの車両
車両は市販レーサーを除く、一般生産型モーターサイクルで、M.F.J.が公認したものでなければならない。
2. 改造クラスの改造限度
 - 1) すべての車両は、国内競技規則のロードレースの総合仕様で全面的に適合していなければならない。
 - 2) 安全上、下記項目については、必ず処置を施さなければならない。
 - ① バックミラー、スタンド、キャリア類は取りはずすこと。
 - ② ライト、レンズ、ウィンカー等保安部品は取りはずすかテーピングを施すこと。但しテールライト(ブレーキライト)は作動しなければならない、後より確認出来るようにテーピングすること。
- 3) 下記項目以外の改造変更は、一切認めない。
 - (1) エンジンおよび補機
 - ① キャブレターは車両公認のものとし、ジェット類、ニードル類の変更及びエアファンネルの取り付けは可。

- ② エアクリーナー及びボックス、エレメントの改造変更及び取りはずしは可。
- ③ スパークプラグ、プラグキャップの変更は可。
- ④ セルモーター、発電機の取りはずしは可。
- ⑤ 2サイクル車の分離給油のオイルポンプ（オイルタンク含む）の改造、変更及び取りはずしは可。
- ⑥ アクセルワイヤー、アクセルグリップ部（ラバーR.L含む）オイルポンプ作動用ワイヤーの改造、変更は可。
- ⑦ 4サイクル車のオイルクーラーの取付けは可。
- ⑧ ラジエーター、ラジエーターカバー、クーリングファン、サーモスタットの改造、変更は可。
- (2) マフラー：改造変更は、下記により処理しなければならない。
- ① 排気はすべて側方に開口のない管により、車両の後方に排出されなければならない。排気管の端部は少なくとも30mmの距離にわたって、車両のセンター軸と平行かつ水平でなければならない。また、排気管は後輪最後端垂線より突出してはならず排気がほこりをたてるように排出されたり、後続のライダーに迷惑を与えるように排出されてはならない。
- ただし、公認時の排気系を使用する場合はこの限りではない。
- ② 音量測定
- ① 排気管及びサイレンサーは音量規制につい

ての要求事項を満たしていなければならない。

- ② 音量基準は道路運送車両の保安基準に適合していること(95フォン)。
- (3) フレーム：改造、変更は不可、ただし、ゼッケンプレート、メーター、シート等の取り付けのためのステーの追加、及び必要でないステー類のカットは可。
- (4) フロント、リヤサスペンション：変更は不可。ただしエア加圧、スプリングの変更及び、スタビライザーでの補強はフロントのみ可。
- (5) フロント・リヤフォーク：ステアリングステムトップブリッジを含み変更は不可、ただし必要でないステー類のカットは可。
- (6) ステアリングダンパー：取り付けは可。ただしステアリングストッパーとの兼用は不可。
- (7) ホイールアッセンブリ：変更は不可、ただしスピードメーターケーブルの取り出し口の改造は可。
- (8) タイヤ：一般市販されていて通常ルートで購入できるもののみ交換は可、ただし、スリックタイヤ（レーシングレイン・インターミディエイト含む）及び摩耗限度を越えたもの及びグルーピング（溝切り）は不可。
- (9) スプロケット・チェーンファイナルレシオの変更は可（チェーンサイズを含む）
- (10) チェーンケース：取りはずし自由とするがライダーの足がチェーンにまきこまれないようにカバー



ーを取りつける等、安全に配慮されていなければならない。

- (11) ハンドルバー：変更する場合、グリップエンドはトップブリッジよりも上とする。(車両公認時のものはこのかぎりではない)、ただし、下記に従って処置されていなければならない。

① ハンドルバー

- ① A ハンドルの端から端までの幅は400mm以上でなければならない。
B 中心線または中央位置の両側に対するハンドルの回転角度は20度以上でなければならない。

② ハンドルバーのクリアランス

- ① A グリップ部およびレバーとカウリングとのクリアランスは20mm以上でなければならない。
B ハンドルの回転角度を左右いっばいに切った時、ライダーの指を挟まないように、ハンドルバーと燃料タンクの間には最低30mmの間隔を確保しなければならない。

- (12) カウリング：車両公認時に取り付けられているもの（メーカーオプション含む）のみ可。カウリングステーの改造・変更も可。

- (13) メーター類：改造・変更は可。

- (14) シート・シートカウル：改造・変更は可、ただし後輪の最後端の垂線より出はならない（スクーターは除く）。

- (15) ガソリンタンク：車両公認時のもので、形状の改造・変更は認めないが、フューエルコック、給油口の改造は自由。

- (16) サイドカバー：取りはずしは自由とするが、取りはずさない場合に脱落しないよう処置を施すこと。（スクーターは除く）

- (17) フェンダー：フロントおよびリア共、改造、変更は可。（スクーターは除く）

- (18) ステップ・ペダル：改造・変更は良いが、下記に従って処置していなければならない。（スクーターは除く）

- ① フートレストは前後車輪の中心を通過する線の100mm上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるよう取り付けられ、どのコントロール・ペダルも容易に操作できる位置にしなければならない。

- ② フートレスト及びペダル類の先端の角は安全上丸められていなければならない。

- (19) ブレーキ：前後ブレーキは当該車両公認時のものとし、変更は認めない。ただしパッドの材質及びブレーキホースのみの変更は認める。尚、不用のカバー類の取りはずしは自由。

注) ブレーキとはマスターシリンダー、ブレーキキャリパー（トルクロッド含む）、ディスクプレートまでをいう。



(20) オイルタンク

転倒時に容易に脱落したり破損せず高温にも耐えられるものでオイルがこぼれたりしないような処置をし、確実に取り付けなければならない。

- (21) ワイヤハーネス：改造・変更は可。

- (22) バッテリー：変更・取りはずしは可。

- (23) ハンドルロックの取りはずしは可。

（メインスイッチも可）

- (24) キルスイッチ：キルスイッチの改造、変更は自由であるが、完全に作動しなければならない。

(III) 改造オープンクラス（SR5、SR8）の改造限度

1. 改造オープンクラスの車両

車両はすべてM.F.Jが公認したものでなければならない。

2. 改造オープンクラスの改造限度

- 1) すべての車両は国内競技規則のロードレースの総合仕様にも全面的に適合していなければならない。

2) 音量規定

① 音量管及びサイレンサーは音量規制についてのすべての要求事項を満たしていなければならない。

② 音量はF.I.M方式による測定方法で95フォン以内とする。F.I.M方式とは排気管後方0.5m、45度の角度にマイクロフォンを設置し、ピストンの平均スピードを4サイクルの場合11m/S、2サイクルの場合13m/Sでエンジンが回転している時の音量を測定する方法をいう。

第10条 車両の安全確保

出場車両で危険を招くおそれのあるものについては、当該、競技総監督並びに車検長は修正、変更を指示し安全を確保するものとする。また、甚だしく危険と認められるものについては出場を拒否することが出来る。

第11条 細部規定等

この規則に示されていない事項は、M.F.J国内競技規則並びにそれを準拠して主催者が必要に応じ定めるところにより実施される。

附 則

この規則は昭和62年1月1日から施行する。

MFJ公認車両

一般市販車

排気量	川崎重工業株	鈴木自動車工業株	本田技研工業株	ヤマハ発動機株
50		RG50, RG50Γ TS50W GAG	CB50JX-1, DAXST50, XE50, XE50-II, MB50, BIALS TL50, MONKY, GORILA, MT50, XL50S, MTX50R, MBX50, TLM50	TY50, GR50, GT50-II, MR50-II, RD50S, RD50SP, OB50, RX50S, OA50, RZ50, DT50 YSR50
80		RG80E	DAX ST70, XE75, XE75-II, XL80S, MB8, MBX80 INTEGRA	V70S(D.E.S.ED), TY80, GT80-II, MR80, RX80S YSR80
90 } 120	KE125(KS125), KH125, AR125 AR125S	RG125, RG125E, RA125 SX125R, RG125Γ RA125-2	CB125, CB125S, CD125K, CL125K, BAIALS TL125, TL125S, TL125K2, MT125, SL125S, XL125, XL125S, CB125JX, CB125T1, Ihatovo, XL125R, CB125T, MTX125R, MBX125F, TL125	TY125, DT125, SR125, XT125, RZ125, RZ125S
175 } 250	KH250, KL250A, Z250FT, GPZ250, KL250R, KR250 Casual Sports GPZ250R	GSX250-E GSX250T, GS250FW RG250Γ*HB, RH250. RG250Γ, GF250 NZ250, NZ250S GF250S, GF250SS RG250Γ フルカウル RG250Γ ハーフカウル RH250-2	CL250, CB250, MT250, XL250, CB250T, XL250S, CB250RS, SUPERHAWK, CB250RSZ, SILK ROAD, XL250R, CB250T Master, CB250T LA Custom, VT250F, CBX250RS, VT250F INTEGRA, GB250 CLUBMAN, XLX250R, TLR200, MTX200R, MVX250F, NS250F, NS250R MTX200R II CBX250S, XL200R, XLR250R XR250R TLM200R FTR250, CBR250 FOUR VT250F (MC15) NSR250R, XLR250R	TY250J, TY175, SR250, XS250S, RZ250, XT250, XS250, RZ250R, XT250T, XT200, RZ250RR, SRX250, SRX250F, TY250 SCOTTISH FZ250, SEROW225 DT200R TZR250 FZ250(YSP仕様) FZR250
350 } 400	S2T, KZ400, Z400 KH400, Z400LTD GPZ400 GPZ400F, GPZ400F-II, FX400R GPZ400R	GS400, SP370, GSX400E, GSX400F, GSX400T, GSX400FS, GSX400FW, GSX-R400 RG400Γ GSX-R GSX400X インバルス	CB350, CB400F, CB400F1, CB400F2, HAWK-CB400T, HAWK-II, HAWK-III, SUPER HAWK-III, CBX400F, WING GL400 CUSTOM, WING GL400, CBX400F, XL400R, FT400, CX-EURO, VF400F, NV400SP CBR400F, VF400F INTEGRA, CBR400F ENDURANCE CBR400F FORMULA-3 GB400TT, GB400TTMK II NS400R, VFR400R VFR400Z, CBR400R	GX400, GX400SP, SR400, XJ400, XS400SP, XJ400D, XJ400SP, XZ400, XT400, XJ400ZS, XJ400Z, XV400SP, XS400, FZ400R, XJ400Z-E, FZ400N FZR400, FZ400R(46X) SRX400(シングルディスク) SRX400(ダブルディスク)

排気量	川崎重工業株	鈴木自動車工業株	本田技研工業株	ヤマハ発動機株
500 575	Z2, Z750 Twin, Z750F, Z650, KZ750R, GPZ750, GPZ750R VZ750, GPZ600R GPZ750F VN750A, ELIMINATOR GPX750R	GSX750S, VS750, GSX-R750 RG500T GSX-R750R LS650	CB500, CB500F-II, CB750, CB750F2, CB500F, CB500F(K3), CB750(K7), CB750F-II, CB750K, CB650, CB750F, XL500S, FT500, SABRE, MAGNA, VF750F, SHADOW CB750F INTEGRA, CBX500F INTEGRA, NV750 CUSTOM, CBX650 CUSTOM, XLV750R, CBX750F, CBX750F HORIZON GB500TT, XL600R PHARAOH CBX750F, BOLD'OR VER750F	XS650SP, XS750SP, XJ650SP, XV750SP, XJ750E, XJ750A, XV750E, XV750A, XT600Z, XJ750E-II, XZ550, RZV500R, XV750 FZ750 FZX750

ロードレーサー

125			MT125R(325), MT125R-II, MT125R-III, (HRC) RS125R-W, RS125R, RS125R-III, RS125R-IV, RS125R-V RS125R-V RS125R-VI RS125R(NF4)	TZ125
250			RS250R RS250R II RS250R(NF5)	TZ250(26J), TZ250(49V) TZR250, TZ250(59W), TZ250(IRK)
350 500		RG500, RGB500, RGB500-II, RGB500-III	RS500R	TZ500

モトクロスサー

80	KX80 KX60	RM50, RM80 RM80(RC12A)	XR80, CR80R, CR80R-II XR80R	YZ50, YZ80(2JF)
125	KX125	RM125 RM125(RF13A)	CR125M, CR125M1, CR125M2, CR125M3, CR125R CR125R(JE01)	YZ125(2Y5, 3N8), YZ125 YZ125(2HG)
250	KDX200 KX250	RM250	CR250M, CR250M1, CR250R, XR200R, CR250R(ME03) XR250R	YZ250 YZ250(2HH)

トライアラー

	KT250	RL250L(RL250)	(BAIALS TL125K2), (BAIALS TL125S), TL250, (TL50), TL200R, TL200R-II, TL220R-II, RS200T, RS200TS, (Ihatovo), (TL125), (TLR200), RS250T, (TLM50), TLR240R RS250TA (TLM200R) TLR250R RTL250S, TLM240R RTL250S(ND9) TLM240R(F8F) RTL250S(ND9)	(TY80), (TY125), (TY175), (TY50-II), TY250R (TY250 SCOTTISH) TY350R TY250R(ILW)
--	-------	---------------	---	---

MFJ公認輸入車両

総輸入元	車種
	ハスクバーナ125CR・250CR, ヤワCZ250
南モリワキエンジニアリング	モリビデリMBA145
日新通商株	マランカ125E2C
株成川商會	ベネリ250 QUATTRO
株レイズ	BETA240 TRIAL, BETATR32
オオタニモータプロダクト	MBA125VR
株旺文社インターナショナル	FANTIC350, 450, 330, 430, 250, 237, 403, 301, HP1, 241, 201, 125.1
株井敬商事株	MONTESA COTA349, MONTESA COTA123, MONTESA COTA200, MONTESA COTA248
株西武百貨店	SWM240 TLNW
株トシ・ニシヤマ	KTM125MX, KTM250MX, アームストロングCMT250, アームストロングCMT320
株村山モータース	DUCATI ZDM400R, ZDM750M, ZDM750R

FIM TTフォーミュラ公認車両

排気量	川崎重工業株	鈴木自動車工業株	本田技研工業株	ヤマハ発動機株
FORMURA 1	KZ650, KZ750, KZ750V, KZ750(Z2), ZX750A, GPZ750R VN750, ZX750F(GPX750R)	PE400, GR650, GS650EZ, GS650GZ, GS750, GSX-R750 GSX750E, GSX750EX, GSX750SZ, RG500I [†] RG400I [†] , GSX-R750R	CB650(RC03), CBX650C, VFR750F CB750F2, CB750FZ(RC04), CB750K, NV750C, VF750F, VF750S, CBX750F, XLV750	IT425, XJ650, RD500LC XS650SP, XJ700X XJ750, XJ750X XV750, XS750E, XS850, RD400E FZ750
FORMURA 2	KZ500, KZ550, KZ550H GPZ600R	DR500SZ, GS500E, GS550E, GS550M, GSX550E	CX500, VT500, XL500R, XR500R, FT500, CB550F2, CBX550F2, XL600R, VF500F	RD350(RZ350), XT500, SR500, XJ550, XJ600, XT550, XV500, XT600Z, XZ550, RD350(31K)RZR SRX600, TT600
FORMURA 3	KZ400, KZ400M GPZ400F GPZ400R KR250A	GSX400F, GSX400E, DR400S, GN400L, RG250W(RG250I [†]) GSX400WR	CB400N, CB400F1, CBX400F, CBR400F, MVX250F, NS250R MTX200R, XR350R, XL400R, VF400F	RD250(RZ250),XT350 XJ400, DT200, XS400, FZ400R RD250(31L)RZR, SR400,FZ400N, XT400, XJ400ZS,XZ400
FORMURA 1			FORMURA 2	
BMW R65, BMW R80, BSA Rocket III, DUCATI DM 650 SL/A, DUCATI DM 650 SL, LAVERDA 750 SF3, MOTO GUZZI Le Mans/850, NORTON 750, OSSA YANKEE500, TRIUMPH Trident 750			DUCATI 500 SL, LAVERDA 500, MORINI 500	
FIM スタジアム モトクロス用	KX125E KX250E KX250D	RM125 RM250	CR125R CR250R	YZ125 YZ250

MFJ公認部品

会社名	部 品 名
鈴木自動車工業株式会社	RG500スペシャルRCU。
株式会社ホンダレーシング	CBR400F用6速ミッションキット、NS250R用6速ミッションキット VF400F用6速ミッションキット、RS125R-V用キャブレターAssy NSR250R用トランスミッション、 CBX400F用6速ミッションキット、CBR400R用トランスミッションセット、VFR400R/Z用トランスミッションセット
南モリワキエンジニアリング	水冷シリンダーキット、ホンダJX125用MRE、 ホンダMT125用水冷キットパーツ(New 100-01)
野口モータース株式会社	YZ125用シリンダーキット、MX用NSW-1、RR用NSW-2
ヨシモト	TZ125ミッションキット
株式会社無限	CR125R用エンジンパワーアップキットME125RZ、 CR125R用エンジンパワーアップキット(シリンダー)、 無限ME125A1スーパープロキット、無限ME250A1スーパープロキット、 無限ワークスME125水冷キット、無限ワークス水冷BANZAIキット、 ME250W無限ワークス水冷スーパープロキット、無限SHOWAワークスフロントフォークキット、 無限SHOWA '83 ME125スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '83 ME125スペシャルリヤクッションAssy、 無限'83 ME125スペシャルシリンダーヘッドセット、 無限'86 ME125Wエンジンパワーアップキット、 無限'83 ME125W IV エンジンパワーアップキット、 無限'83 ME125スペシャルフェールタンク 無限SHOWA '83 ME250スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '83 ME250スペシャルリヤクッションAssy、 無限'83 ME250W III エンジンパワーアップキット、 無限SHOWA '84 ME125スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '84 ME125スペシャルリヤクッションAssy、 無限SHOWA '84 ME125W エンジンパワーアップキット、 無限SHOWA '84 ME250スペシャルフロントフォークキット、 無限SHOWA '84 ME250スペシャルリヤクッションAssy、 無限'84 ME250 エンジンパワーアップキット、 無限'84 ME250スペシャルヘッドセット、 無限'85 ME80W エンジンパワーアップキット、 無限SHOWA '85 ME125ワークスフォークパーツ、 無限SHOWA '85 ME125スペシャルリヤクッション、 無限'85 ME125W エンジンパワーアップキット、 無限SHOWA '85 ME250ワークスフォークパーツ、 無限SHOWA '85 ME250スペシャルリヤクッション、 無限'85 ME250W エンジンパワーアップキット 無限'86 ME250スペシャルリヤクッション、無限SHOWA '87 ME125スペシャルリヤクッション、 無限'86 ME250ワークスフォークパーツ、無限SHOWA '87 ME125ワークスフォークパーツ、 無限'86 ME125スペシャルリヤクッション、無限SHOWA '87 ME250ワークスフォークパーツ、 無限'86 ME125フロントフォークAssy、無限'86 ME125W エンジンパワーアップキット
株式会社京浜精機製作所	2サイクルE/G用キャブレター-ASSY (CRS36, 38, PJRR-34-38, PJMX-34-38)
株式会社カスノモーターサイクル	HHシリンダー
株式会社カワサキモーターサービス	KR250用6速ミッションキット、GPZ400R用6速クロスミッションキット
株式会社日本ビート工業	GPZ400R用クロスレシオトランスミッション
テクノコム・ミスターヒロ	カワサキKH125用水冷キットパーツ、トランスミッションキット
岩道モータース	カワサキKX125用水冷キットパーツKX125AW
R S タ イ チ	フォークスエアショックス(MX用)、オーリングスショックス(MX用)
株式会社極東	KONIリヤクッションアブソーバー(油圧式KONIスペシャルD)
南極東精機製作所	クリーニングキップ(160×60, 125×60, 115×60)
株式会社アサミレーシング	ホワイトパワーリヤクッション(MX用)、フロントフォーク・アップサイドダウン

会社名	部 品 名
カヤバ工業株	リヤクッションユニット TSシリーズ(オイル複筒調整式), // TS-Sシリーズ(オイル複筒調整式), // MGSシリーズ(ガス封入単筒調整式), // MGS-Sシリーズ(ガス封入単筒調整式), // MGシリーズ(ガス封入単筒式), // MSシリーズ(オイル複筒式), // SSシリーズ(オイル複筒式), // SGSシリーズ(一体形成タンク付ガス封入複筒調整式), リヤショックユニット OGS-T(窒素ガス封入別タンクホース式1本ショック), // OG-T (//)
株 S. R. S. 久保	RG250用クロスミッションキット, '84 RG250ΓショックアブソーバーAssyリヤ, '84 RG250ΓレーシングフロントフォークAssy
株スポーツショップ・イシイ	XJ400Z(ZS)クロスミッションKit。
株ヨシムラ JAPAN ヨシムラ SHOWA RCU	GSX-R用クロスレシオトランスミッション, ヨシムラ・カヤバレーシングフロントフォークアッシー, GSX-R用レーシングリヤクッションユニットアッシー, '86 GSX-R400Ⅲ型用クロスミッション, ヨシムラSHOWA41φフロントフォークキット
R C S U G O	RZ250RRクロスミッションキット, '85 TY250R用ボアアップキット, FZ400Rクロスミッションキット, TZR250用6速クロスミッションキット FZ400R用レーシングリヤクッションユニットAssy. FZ750用クロスミッションキット FZR400用6速クロスミッション TZR250用6速クロスミッションキット

MFJ公認トライアルタイヤ

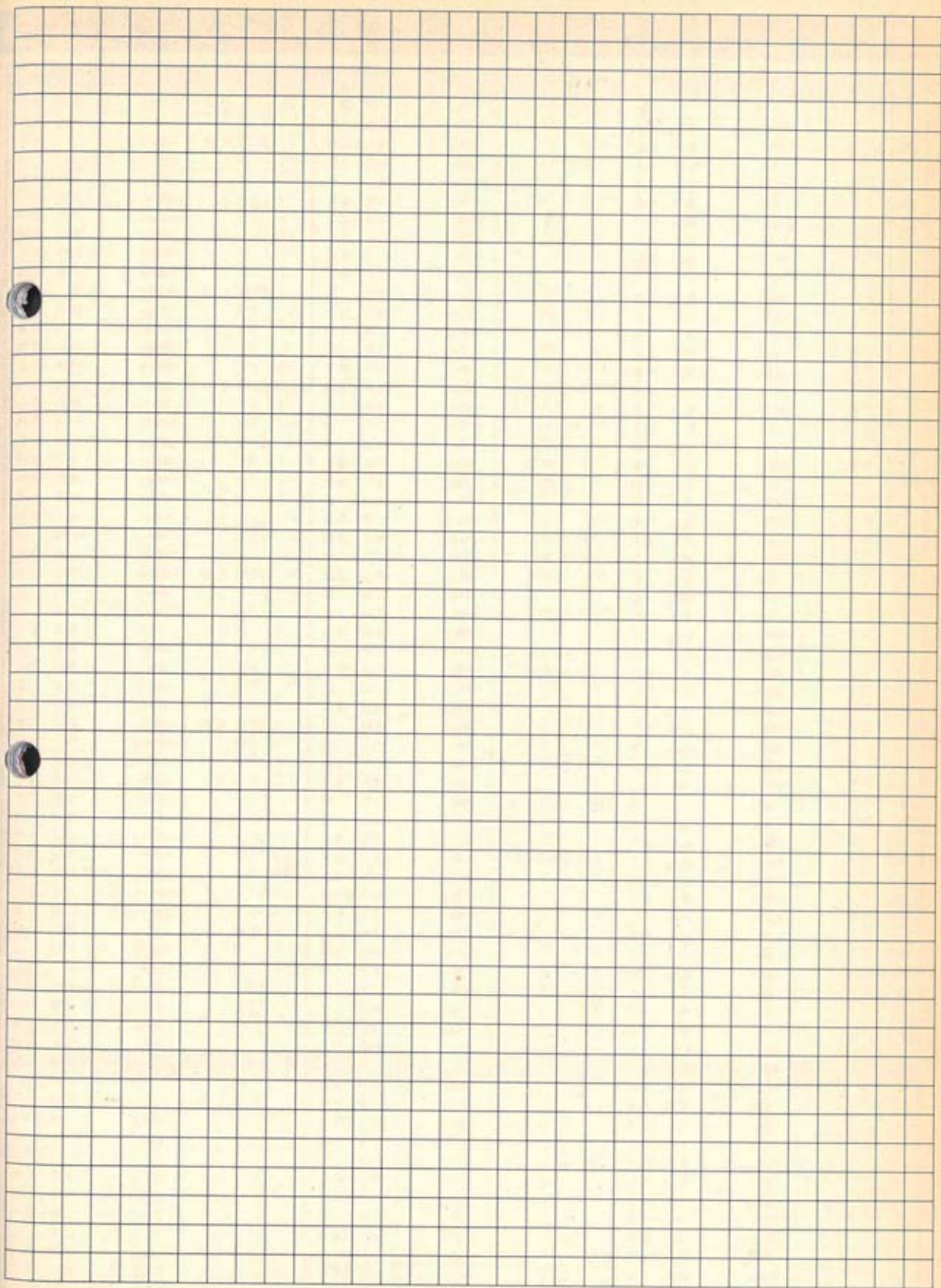
会社名	タイヤ名	サイズ
株日本ダンロップ	TRIALS UNIVERSAL K-120 K-320	2.75-21, 3.00-21, 3.50-18, 4.00-18, 2.75-21, 4.00-18, 2.75-21, 4.00-18, 4PR
株横浜ゴム	トレールスポーツ	2.50-18, 2.75-18, 2.75-19, 2.75-21, 3.00-18, 3.00-19, 3.00-21, 3.25-18, 3.25-19, 3.50-18, 4.00-18, 各PRY620
株日本ミシュランタイヤ	MICHELIN TRIAL COMPETITION TRIAL COMPETITION X1S TRIAL COMPETITION X1W	2.75-21, 4.00-18, 4.00-18, 4.00-18
株井上ゴム工業	井上トライアルタイヤ TRIAL HI-TEC TR5 TRIAL HI-TEC TR5 TRIAL WINNER	2.75-19, 2.75-21, 3.00-18, 3.00-21, 3.25-18, 3.50-18, 4.00-18, 2.75-21, 4.00-18, 2.75-21, 4.00-18, TR-7, TR-7 RADIAL
株ブリヂストン	TRAIL WING23 TRAIL WING24	2.75-21-4PR, 4.00-18-4PR
株クシタニ	ビレリ・モト・トライアル	2.75-21, 4.00-18
株岡田商事	メッツラー トライアルC	2.75-21, 4.00-18
株阿部商会	ビレリ・MT43・プロフェッショナル	4.00-18

MFJ公認ヘルメット

会社名	ロードレース特選	ロードレース用	モトクロス用	トライアル・ツーリング用
アッソヘルメット株式会社 阿部商会			PIRELLI X100	アッソ PIRELLI X70
株式会社アライヘルメット	CLC RX-7, AVANTI, ASTRO, X-75, VENT, SL80, RZR, RZ035, K-700, XJ-040D, FA-200, SUPER DOLPHIN8, SPENCER REPLICA, SHINGL TON REPLICA, COOLEY REPLICA, 高橋国光, 松本恵二, RACER REPLICA, SUPER VENT, RAPIDE, RACING VENT, TROPHY	X-1, RS-Z, F-X	CLC R-7, M-X, Challenger-S, S-75, R-7G, S-70	TL-1, TL-3, TL-8, TX-8, TX-7, R-2, R-10, RS-10, AT
岡田商事株式会社		SHIMPSON M-62, BOERI DRIVER	SHIMPSON M-52	
株式会社東極		NOLAN N31, NOLAN N32, NOLAN N33, NOLAN スペースライダー, NOLAN N34, NOLAN N42	NOLAN N19,	NOLAN JET, NOLAN MINI JET, NOLAN インテグラール, NOLAN NO2
クノー工業株式会社		UVEX F-1, KH-100, UVEX AEROホーク, UVEX モンテカルロ, UVEX チャンピオン, UVEX モナーク, KH-808	UVEX ウイリー, UVEX ギャラクシー, UVEX レーシングジェット, KH56, KH25, EF:2 KH59型, DELTA KH 59型, AIGLE KH 59型, LYNX KH 59型	UVEX TRIAL
コミネオートセンター	KF-RX	NARVA NE, KF-RV NARVA NE-II, KF-RC NARVA NZ, NARVA KF-1000, NARVA NA	NARVA NJ1, NARVA CROSS。	NT-1, KH-100, KH-300A, KH300B, KH300E, KH300F, Z5000, FUJI100, FUJI300, NT-1, A-TECH
株式会社ジャベックス		AGV X-3000	AGV X-101	AGV X-70
昭栄化工株式会社	GR-Z, ER-7, GX-1 TASK-1, TASK-2, TASK-3, RF- α AREMET ER-2, R-76 W-Gardner V-2, R-77 RF-KATAYAMA, R-78 RF-101, RF-102, R-79 RF-GARDNER, TASK-5, TASK-3, RF-VOGUE, PS-R20, PS-R66, PS-R62, PS-R61, RF-STELLAR, RF-V KATAYAMA II, RF-ZEAL, RF-VESTA	ST-Z, ZG, RC-1 ZE, GX-R, VR, ARTE-MR, Z-100, INTERO-ER, PS-R31, PS-R32, PS-R36, PS-R37, PS-R38, PS-R39, PS-R44, PS-R45, TF-201, TF-202, TF-203, VR-5, KATAYAMA-GP, ES, ES-2, RC-2, HF-7, HF-8, HF-9, GX-R Custom, ZR, PS-R53, PS-R54, PS-R48, PS-R60	PS-J31, PS-J32, PS-J33, PS-J34, EX-11, PS-L41, PS-L32, PS-L33, PS-L34, PS-L35, PS-L37, PS-L38, PS-L39, SR-X7, SR-T, SR-6, EX-2, EX-5, ZV, GR-X, GV, H-1, SR-X, TJ-101(RG-8), ZX TJ-102(SR-G), NEW GV, PS-J43, PS-L51, TJ-201V, PS-L50, VX-1, VX-2 PS-J50, VT-1, PS-L52,53 VJ-1	SV, L5, TR-1, PS-F06, PS-L45TL, PS-J48, PS-J47, PS-J46, PS-J46, PS-J15, PS-J48, PS-J20, PS-J51, PS-J52, TR-2
株式会社大都	BELLM-2, BELL STAR LTD,	DIFI-GHibill スーパー	BELL M0T04, BELL MAG-4	BELL MAGNAM LTD, BELL R-T
株式会社立花自動車用品		GT-X1, GT-X2, アクセルグレード		GT-1, GT-200, F-500D, Custom F-500

	ロードレース特選	ロードレース用	モトクロス用	トライアル・ツーリング用
東京シート株		R-40, R-41, R-91		Ami L05
日栄プラスチック株		FF-100, DIC DF-1, DIC ヘルメット TY-1	CX-300, CX-300P, CX320, CX-500, DX-700	FS-100, CS-500, CS-600
日新通商株				JEB'S JET
マルシン工業株	VT-910	DX-6, INDY500, MG-MOTO, MG-STAR, MG-80, MV-75, MV-1, MV-1DX, GENERAL, IMPERIUM, FALCON, ALTUS, DAYTONA, M-450	MV-Z, MV-ZDX, MZ-X, MZ-GX, MZ-F, MZ-80, I BEX, M-38, M-52, VT-810	BEETLE, M-37, M-130, M-230, M-250, M-800
メット工業株			KX-7, CHIP'S KING	F-1, F-2, K-3, K-70, K-110, K-150, KX-1NASA, F-1NASA, DANDY TRIAL
ヤマハ発動機株		YF2000, YF2500, YF3000, YF3500, GEORAMA, YF1850, YF2200, YF3700	YC1500, YC3000, YC3700	
ユニコ南		R-01, NEF VS-2	GP1	GP-2
ヨシカワレーシング		NAVA-3		
RSタイチ		NAVA-2		
リード工業株				RX-200, RT-10
株ローヤル		MPA エルゴノミック 01, MPA IX9		DIFIGbill, ファンティックモーター MPA IX7
ワールド通商株		KIWI K-10, KIWI-K-7, KIWI K-8, ボルシェデザイン, KIWI K-16		
株レイズ			クラウター -JET1	
ジャーディン・マセソン アンド・カンパニー(ジャパン) リミテッド		F-1 G-2 G-1	GPA E-1 C-1 G-4	
株光輪モータース		AGV KR2000 AGVX3000/83 MDS M-81 MDS M-90 KVAS TV-FIBER KVAS KVL-KEVLAR	MDS M-83 AGV X70 MDS M-84 KVAS CROSS	
株ジャパンプロダクト		RIZON・RZ-1		
興和精機株				Griffin G100TD Griffin GS-520 Griffin GX-707 Griffin GS-530
株旺文社 インターナショナル				NAVA GO-GET
株セナセ		FJ-01 FJ-02		
株谷尾商会		NAVA 3A/C		
株モトワールド			answer A-TECH	

メモ



歴代チャンピオン

▶ロードレース('68年~'86年)

年	部門	クラス	氏名								
'68	アマチュア	90cc	角谷 新二	ノービス	90cc	杉野 順三	'79	ジュニア	350cc	平 忠彦	
		125cc	鈴木 聖弘		125cc	松山 守		125cc	斉藤 三夫		
		250cc	大脇 俊夫		250cc	橋本久仁啓		350cc	木下 恵司		
	ジュニア	251cc以上	中山 仁	ジュニア	90cc	新田 茂	'80	ノービス	125cc	五百部徳雄	
		90cc	酒井 登吾		125cc	坂 公平		250cc	窪田 正二		
		125cc	森井 一夫		250cc	山崎 達衛		125cc	山本 陽一		
	セニア	250cc	谷口 茂夫	エキスパート ジュニア	350cc	佐藤 順造	国際A級	250cc	250cc	垣内 清孝	
		251cc以上	菱木 哲哉		125cc	毛利 良一		350cc	田中 光男		
		90cc	神谷 良明		125cc	片山 敬済		125cc	一瀬 憲明		
'69	アマチュア	125cc	馬場 忠雄	ノービス	750cc	根本 健	'80	国際A級	350cc	平 忠彦	
		250cc	和田 正宏		90cc	岡崎 陸史		125cc	荒木 利春		
		251cc以上	松永 豊		125cc	佐藤 健正		250cc	中山 博文		
	ジュニア	90cc	野田 正彦	ジュニア	250cc	酒井 克	'80	国際B級	125cc	竹村 浩生	
		125cc	斉藤 茂憲		90cc	合津 悟志		250cc	七尾 道夫		
		250cc	中尾 康夫		125cc	石井 康夫		350cc	新井 亮一		
	セニア	251cc以上	数井 隆	エキスパート ジュニア	250cc	橋本久仁啓	国際A級	125cc	125cc	一瀬 憲明	
		90cc	角谷 新二		350cc	鈴木 修		350cc	藤本 泰東		
		125cc	高井幾次郎		750cc	岩道 博		500cc	木下 恵司		
'70	ノービス	250cc	尾崎 俊彦	ノービス	125cc	青木 辰巳	'81	ノービス	125cc	窪田 雅樹	
		251cc以上	里村 祥二		750cc	阪本 裕介		250cc	三浦 昇		
		90cc	小田 豊		90cc	高井幾次郎		125cc	荒木 利春		
	ジュニア	125cc	隅谷 守男	ジュニア	125cc	片橋 英治	'81	国際B級	250cc	窪木 大	
		250cc	隅谷 秀夫		250cc	青木 辰巳		125cc	一瀬 憲明		
		251cc以上	隅谷 守男		250cc	橋谷 俊彦		250cc	窪田 雅樹		
	セニア	90cc	岩道 博	ジュニア	90cc	田口 勝雄	'83	国際A級	500cc	水谷 勝	
		125cc	柴谷 正昭		125cc	山梨 保		125cc	宮城 光		
		250cc	小塚 法征		250cc	酒井 克		250cc	宮城 光		
'71	ノービス	251cc以上	鍋田 正明	エキスパート ジュニア	350cc	大島 孝治	'84	ノービス	125cc	宮城 光	
		90cc	江崎 正		125cc	相沢 清		250cc	宮城 光		
		125cc	青山 英二		750cc	石井 康男		125cc	窪田 雅樹		
	ジュニア	250cc	糟野 雅治	セニア	125cc	江崎 正	'83	国際B級	250cc	坂口 彰	
		251cc以上	只野 光男		750cc	浅見 貞男		125cc	栗谷 二郎		
		90cc	近藤 英二		90cc	牧野 栄		250cc	斉藤 光雄		
	セニア	125cc	小田 豊	ノービス	125cc	川上 浩	'84	国際A級	500cc	平 忠彦	
		250cc	大脇 俊夫		250cc	木下 恵司		125cc	平 忠彦		
		251cc以上	河崎 裕之		125cc	東金 青男		250cc	山田 浩史		
'72	ノービス	90cc	平井 裕	ジュニア	250cc	水谷 勝	'84	ノービス	250cc	塩森 俊修	
		125cc	上田 公次		350cc	太田 一博		125cc	宮城 光		
		250cc	大橋 富夫		125cc	坂田 清之		125cc	宮城 光		
	ジュニア	251cc以上	松谷 光明	エキスパート ジュニア	250cc	毛利 良一	'84	国際B級	250cc	清水 雅広	
		90cc	渡辺富士夫		350cc	佐藤 順造		250cc	田村 圭二		
		125cc	青木 辰巳		750cc	高井幾次郎		125cc	八代 俊二		
	セニア	251cc以上	内田 陸	ノービス	90cc	鈴木 利彦	'85	国際A級	125cc	江崎 正	
		90cc	加藤 昇平		125cc	佐藤 裕文		250cc	栗谷 二郎		
		125cc	江崎 正		125cc	藤本 泰東		500cc	平 忠彦		
'73	ノービス	250cc	遠藤 恒雄	ジュニア	125cc	川上 清	'85	国際B級	500cc	平 忠彦	
		251cc以上	中尾 康夫		250cc	山名 久		125cc	窪田 雅樹		
		90cc	浅見 貞男		350cc	徳外 仁久		250cc	大田 清一		
	ジュニア	90cc	金谷 秀夫	エキスパート	90cc	平野 秀男	'85	国際A級	125cc	井上 賢博	
		125cc	杉本 良		125cc	鶴田 浩之		250cc	塩森 俊修		
		250cc	大脇 俊夫		350cc	鈴木 修		125cc	辻本 聡		
	'74	ノービス	251cc以上	金谷 秀夫	ノービス	750cc	毛利 良一	'86	国際A級	500cc	山本 陽一
			90cc	菅原 伸夫		125cc	上田 幸也		125cc	畠本 久	
			125cc	坂 公平		250cc	長谷川 嘉久		250cc	小林 大	
ジュニア		250cc	上野 真一	ジュニア	125cc	伊藤 裕之	'86	国際A級	500cc	平 忠彦	
		251cc以上	富江 昭孝		250cc	伊藤 巧		125cc	町井 邦生		
		90cc	毛利 良一		350cc	藤本 泰東		250cc	藤沢 哲也		
セニア		125cc	大本 十生	エキスパート	125cc	上田 公次	'86	国際A級	250cc	町井 邦生	
		250cc	大本 十生		250cc	上田 公次		125cc	山本 陽一		
		251cc以上	片山 敬済		350cc	石川 岩夫		250cc	辻本 聡		
セニア	125cc	渡辺富士夫	ノービス	750cc	上野 真一	'86	国際A級	500cc	吉田 健一		
	250cc	隅部 孝夫		125cc	富田 英志		250cc	片山 信二			
	251cc以上	内田 陸		250cc	斉藤 光雄		500cc	木下 恵司			
セニア	125cc	小田 豊	ジュニア	125cc	吉村 俊宏	'86	国際A級	500cc	木下 恵司		
	250cc	小田 豊		250cc	阿部 三吉						
	251cc以上	小田 豊		250cc							

▶モトクロス('68年~'86年)

年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	年	部門	クラス	氏名	
'68	アマチュア	50cc	堀 勇	'72	ジュニア	125cc	唐沢栄三郎	'79	ジュニア	125cc	大久保和親	
		90cc	堀 勇		250cc	唐沢栄三郎	250cc		堀口 雅史			
		125cc	堀 勇		125cc	鈴木 秀明	125cc		秋元 春夫			
		250cc	山下 和男		250cc	鈴木都良夫	250cc		原口 衛			
		251cc以上	山下 和男		90cc	菅家 惠	125cc		光安 鉄美			
	ジュニア	50cc	鎌名 博昭	'73	ノービス	125cc	村上 光剛	'80	ジュニア	125cc	小野沢良一	
		90cc	鎌名 博昭		250cc	菅家 惠	250cc		吉田 哲郎			
		125cc	西 信之		90cc	吉田 哲郎	125cc		谷川龍太郎			
		250cc	西 信之		125cc	吉田 哲郎	250cc		庄司 覚			
		251cc以上	ロバート・モエモ		125cc	岸川 清秀	125cc		東福寺保雄			
	セニア	90cc	星野 一義	'74	エキスパート	125cc	鈴木都良夫	'81	ジュニア	125cc	平山 勝一	
		125cc	星野 一義		250cc	鈴木 秀明	250cc		茶谷 学			
250cc		山本 隆	250cc		鈴木 秀明	125cc	岡部 篤史					
50cc		田中 敏夫	125cc		谷川 徹二	125cc	同部 篤史					
90cc		多田 茂次	250cc		光安 鉄美	250cc	同部 篤史					
'69	アマチュア	125cc	中里 道夫	'74	エキスパート	125cc	渡辺 明	'81	国際B級	125cc	東福寺保雄	
		250cc	岩尾 一敏		250cc	渡辺 明	250cc		福本 敏夫			
		50cc	堀 勇		250cc	鈴木 秀明	125cc		ロン・キング			
		90cc	堀 勇		250cc	鈴木 秀明	250cc		馬場 善人			
		125cc	鈴木 秀明		250cc	鈴木 秀明	125cc		小橋 勝年			
	ジュニア	250cc	鈴木 秀明	'75	セニア	250cc	鈴木 秀明	'82	国際B級	125cc	小橋 勝年	
		90cc	山本 隆		90cc	北村 隆資	250cc		小橋 勝年			
		125cc	矢島金次郎		125cc	青山 金助	125cc		大関 昌典			
		250cc	鈴木 忠男		250cc	青山 金助	250cc		東福寺保雄			
		50cc	一色 薫		125cc	東福寺保雄	125cc		天田 淳			
	'70	ノービス	90cc	小田切信雄	'76	セニア	125cc	杉尾 良文	'83	ジュニア	125cc	天田 淳
			125cc	平野 芳男		125cc	増田 耕次	125cc		茶谷 学		
250cc			青木 雅和	250cc		月岡 尚人	250cc	茶谷 学				
250cc			青木 雅和	90cc		月岡 尚人	125cc	庄司 覚				
90cc			鈴木都良夫	125cc		横山 隆夫	250cc	杉尾 良文				
ジュニア		125cc	岩尾 一敏	'76	ジュニア	125cc	光安 鉄美	'84	ジュニア	125cc	調沼 伸一	
		250cc	岩尾 一敏		125cc	青山 金助	250cc		小栗 伸幸			
		125cc	吉村 太一		250cc	鈴木都良夫	125cc		菅原 義広			
		250cc	吉村 太一		250cc	竹沢 正治	250cc		鶴田 忍			
		90cc	栗原 和年		90cc	渡辺 義己	125cc		東福寺保雄			
'71		ノービス	125cc	栗原 和年	'77	ジュニア	250cc	小沢 孝	'85	国際A級	250cc	ステューブ・マートン
			250cc	斉藤 英夫		250cc	福田 正敏	125cc		長沼 朝之		
	90cc		中村 忠	125cc		佐藤 健二	250cc	花田 茂樹				
	125cc		杉浦 種保	250cc		大泉 浩一	125cc	田淵 武				
	250cc		竹沢 正治	125cc		瀬尾 勝彦	250cc	川崎 智之				
	エキスパート	125cc	瀬尾 勝彦	'78	セニア	250cc	瀬尾 勝彦	'86	国際A級	125cc	岡部 篤史	
		250cc	瀬尾 勝彦		90cc	原本 松市	250cc		藤本 正勝			
		250cc	矢島金次郎		125cc	庄司 覚	125cc		吉田 和泉			
		125cc	上野 広一		250cc	シェン・ドゥン	250cc		花田 茂樹			
		250cc	上野 広一		125cc	佐々木 隆	250cc		花田 茂樹			
	'72	ノービス	90cc	藤 秀信	'78	ジュニア	125cc	佐々木 隆	'86	国際B級	125cc	伊田井佐夫
			125cc	藤 秀信		125cc	瀬尾 勝彦	250cc		東福寺保雄		
250cc			藤 秀信	250cc		光安 鉄美	125cc					
250cc			藤 秀信	250cc		光安 鉄美	250cc					
125cc			小田切信雄	250cc		光安 鉄美	250cc					
エキスパート		125cc	小田切信雄	'78	ジュニア	90cc	唐沢栄三郎	'86	国際A級	125cc	伊田井佐夫	
		250cc	池田 勝		90cc	唐沢栄三郎	250cc		東福寺保雄			
		250cc	池田 勝		90cc	唐沢栄三郎	250cc		東福寺保雄			
		250cc	池田 勝		90cc	唐沢栄三郎	250cc		東福寺保雄			
		90cc	唐沢栄三郎		90cc	唐沢栄三郎	250cc		東福寺保雄			

▶トライアル('74年~'86年)

年	部門	氏名	年	部門	氏名	年	部門	氏名
'74	ノービス	伊吹 健次	'79	ジュニア	佐近 藤雄	'84	国際B級	米山 潤夫
	ジュニア	伊吹 健次		国際A級	佐近 藤雄		国際A級	米山 潤夫
'75	ジュニア	蜂加 秀男	'80	ジュニア	広木 一美	'85	国際B級	泉山 裕明
	エキスパート	蜂加 秀男		国際A級	丸山 風保		国際A級	泉山 裕明
'76	ジュニア	町山 晴男	'81	ジュニア	石黒 原正	'86	国際B級	小林 直樹
	エキスパート	町山 晴男		国際A級	黒山 本美		国際A級	小林 直樹
'77	ジュニア	山本 昌也	'82	国際B級	高田 雅孝			
	エキスパート	山本 昌也		国際A級	高田 雅孝			
'78	ジュニア	山田 民雄	'83	国際B級	和田 弘行			
	エキスパート	山田 民雄		国際A級	和田 弘行			

MFJ共済会・指定保険制度

種 目	MFJ共済会掛金 (1名1大会)	給 付 金 支 払 条 件		請求のために必要な書類
		最高限度額(死亡、後遺症)	給付金傷害保険支払い額	
ロードレース	2,150円 (MFJ共済会掛金) + 1,350円 (指定保険1口) 但し、指定 保険は5日 まで掛けら れる	MFJ共済会給付金 600万円 MFJ指定保険金 (1回目) 100万円 但し2回以上5回まで 1回につき100万円	MFJ共済会給付金 ① 通院日数(ギブス等の固定 期間及び通勤、通学、就業が 不可能の期間として診断され た日数含む)×1,000円 ② 入院日数×1,500円 ③ 診断書作成補助金 5,000円 MFJ指定保険金 ① 通院日数×800円 ② 入院日数×1,200円	MFJ共済会給付金請求書(様式9) 大正海上火災傷害(指定)保険金 請求書一式(書式1-4)
スポーツ プロダクション ロードレース	3,500円	MFJ共済会給付金 700万円	MFJ共済会給付金 ① 通院日数(ギブス等の固定 期間及び通勤、通学、就業が 不可能の期間として診断され た日数含む)×1,800円 ② 入院日数×2,700円 ③ 診断書作成補助金 5,000円	MFJ共済会給付金請求書(様式9) 完治したときの医師の診断書 (様式10)
ミニバイクロードレース	2,000円	MFJ共済会給付金 600万円	MFJ共済会給付金 ① 通院日数(ギブス等の固定 期間及び通勤、通学、就業が 不可能の期間として診断され た日数含む)×1,000円 ② 入院日数×1,500円 ③ 診断書作成補助金 5,000円	MFJ共済会給付金請求書(様式9) 完治したときの医師の診断書 (様式10)
モトクロス・ミニモトクロス	1,000円			
トライアル・ミニトライアル	200円			
ミニバイクレース エンデューロ スノーモビル ジムカーナ	500円			
ロードレース講習会	1,000円			
モトクロス講習会	500円			
トライアル講習会	200円			

種 目	MFJ共済会掛金 (1名1年間)	給 付 金 支 払 条 件		請求のために必要な書類
		最高限度額(死亡、後遺症)	給付金傷害保険支払い額	
ビットクルー 競技役員 講 師	500円 (ライセンス料に含まれる)	MFJ共済会給付金 600万円	MFJ共済会給付金 ① 通院日数(ギブス等の固定 期間及び通勤、通学、就業が 不可能の期間として診断され た日数含む)×1,000円 ② 入院日数×1,500円 ③ 診断書作成補助金 5,000円	MFJ共済会給付金請求書(様式9) 完治したときの医師の診断書 (様式10)

支払い適用期間 6ヵ月(180日)大会当日のレース中(公式練習、公式予選を含む)

注：1. MFJ共済会掛金は1日に限られます。

2. 同一大会で2種目以上出場する場合は保険料の高い種目が適用されます。
3. 上記共済会は治療費が支払われませんので各自の健康保険証で治療を受けてください。
4. 二箇所以上で治療を受けた場合1週間以内の短期の場合を除き、それぞれ診断書が必要となります。



3 請求先は主催事務局です。
請求書中の必要な事項を自分で記入し、治療先の医師に診断書の記入を依頼して下さい。書類は一括して負傷者本人が主催者事務局長宛に請求して下さい。
給付金・保険金は書類に不備のない場合に限ります。二ヵ月以内に指定口座に振り込まれます。

2 大会主催者からMFJ共済会給付金請求書(様式9)と診断書書式(様式10)をもらう
ケガをした大会の主催者またはMFJに、MFJ共済会給付金請求書(様式9)と診断書書式(様式10)を請求して下さい。
ロードレースは様式9と大正海上火災傷害保険金・請求書一式を請求して下さい。

1 まず主催者に連絡
負傷したその日に主催者に連絡して下さい。万一その日に連絡できない場合は、負傷日より二日後までにご連絡ください。なお、連絡がない場合は、保険金が支払われませんのでご注意ください。

共済会給付金請求の手続きは……



賞

BPは、Best Performance の路ではありません。
 トライアル競技の Best Performance をこよなく愛し、
 目にふれないところで、オイルの Best Performance にこだわり続けています。
 そこで Best Performance を限りなく追求するライダーへ。

'87特別BP賞 MF J全日本選手権エントリー 全ライダーを対象 年間最多クリーン賞 ¥30万円

ただしセクションが別となった場合は、国際A級のみを対象とします。

- 1位 賞金50,000円
- 国際A級 2位 賞金30,000円
- 3位 賞金10,000円
- BP賞全日本シリーズ部門
 - 1位 賞金30,000円
 - 国際B級 2位 賞品ご希望のBPオイル6ℓ分
 - 3位 賞品ご希望のBPオイル6ℓ分
- BP賞各ブロック大会部門 国際B級 各ブロックの1位 賞品ご希望のBPオイル12ℓ分

〈応募規定〉 BPオイルを使用して出場したライダーであること。
 BPステッカーを貼ったマシン(あるいはヘルメット、ウェア等)で出場したライダーであること。
 BP賞エントリー登録をされたライダーであること。

●住所 ●氏名 ●生年月日 ●職業
 ●国際A・Bの別 ☆B級の場合は、所属ブロック名、
 〈登録方法〉官製葉書に ●87年ゼッケン番号を明記して、各第一戦が始まる
 10日前までに弊社BP賞係へお送りください。
 おり返し、BPステッカーをお送りします。

名称	表彰対象	対象期間	表彰内容	人数	
BP賞	全日本シリーズ部門	国際A級*	各大会毎	優秀な成績をおさめたライダー	各3名
		国際B級*	各大会毎	優秀な成績をおさめたライダー	各3名
	各ブロック大会部門	国際B級*	通年	優秀な成績をおさめたライダー	各1名
特別BP賞	国際A・B級	通年	最もクリーンを多く獲得したライダー	1名	

*BP賞登録ライダーに限る ●BP賞に関するお問い合わせは下記担当者まで。

BP潤滑油日本総代理店

ペトロルズ インターナショナル株式会社

〒102 東京都千代田区麹町1-3-23 ☎03-265-1711

☆取扱店募集中! お問い合わせは弊社まで。(担当 長谷川)

BPオイルのお求めは最寄りのオートバイ、用品ショップへ。

俺しかいない。

デビュー以来、つぎつぎとチェッカーを奪取。
ウィナーの、チョイス——
プロファイヤースプリント。

Rider: KUNIO MACHII

A TASTE OF WINNER **PROFIRE 110-120**

SPRINT

新登場 さらにラップタイムを縮める。新開発RF-160コンパウンド採用

F110SP		R110SP		F120SP		R120SP		E110SP		E120SP	
100/80-16 50H	120/80-16 60H	100/90-16 54H	130/90-16 67H	300-8 4PR(T/T)	350-8 4PR(T/T)	100/80-16 54H	110/80-17 60H	275-10 4PR(T/T)	275-10 4PR(T/T)	スクーターのファッション&	性能UP!
100/90-16 54H	110/90-17 60H	110/90-16 59H	110/80-17 60H	350-8 4PR(T/T)	275-10 4PR(T/T)	100/80-17 52H	120/80-17 61H	275-10 4PR(T/T)	275-10 4PR(T/T)	性能UP!	275-10 4PR(T/T)
100/80-17 52H	120/80-17 61H	100/80-17 52H	120/80-17 61H	275-10 4PR(T/T)	275-10 4PR(T/T)	90/90-18 51H	120/90-17 64H	300-10 4PR(T/T)	300-10 4PR	性能UP!	300-10 4PR
90/90-18 51H	130/70-17 62H*	100/90-18 51H	110/80-18 58H	300-10 4PR(T/T)	350-10 4PR(T/T)	100/90-18 56H	110/80-18 58H	350-10 4PR(T/T)	350-10 4PR	性能UP!	350-10 4PR
100/90-18 56H	110/90-18 61H	100/90-18 56H	110/90-18 61H	350-10 4PR(T/T)	350-10 4PR(T/T)		110/90-18 61H			性能UP!	
100/90-19 57H	120/80-18 62H		120/80-18 62H				120/80-18 62H			性能UP!	
250-18 4PR(T/T)	120/90-18 65H									性能UP!	
275-18 4PR(T/T)	130/70-18 63H*									性能UP!	
	130/80-18 66H									性能UP!	
	275-17 4PR(T/T)									性能UP!	
	275-18 4PR(T/T)									性能UP!	
	300-18 4PR(T/T)									性能UP!	

*は近日発売

●表示のないサイズはすべてチューブレスです。

Riding Connection

走ると答えになる。



Riding
Connection

走ると答えになる



関係するほどに親密になれます。

その生活は、バイクと一緒に関係していた。人と人、人と街、人と社会、人と大自然…。すべては何かと共存しあい、様々なカタチで重なりあう。そしてそこにバイクが居る。自己表現のひとつとして、バイクとつきあっている人。暮らしのなんらかの道具として、バイクと接している人。まるで友人や恋人のようにしたしく交際している人。それぞれに、いろいろなライフスタイルが、いいカタチでふくらんでいる。しかも“Rider”という共通語でとことん結ばれている。それは、いつも・n・gしつづけてこそ代名詞化される、永遠の言葉なのである。自分で、もっと自分らしいConnectionだけを、バイクと自由にCoordinationしながらCommunicationする。それをどう選快アレンジするかで、あしたのモーターサイクルシーンが開拓されるのである。この生活の延長は、バイクと限りなくつながっている。もっとRiding Connection、きつと走れば走っただけの答えがかえってくる。1・9・8・7・ライダーを大切にすくクシタニからのメッセージです。

1987 KUSHITANI CALENDAR いまや、インテリアにおける小道具の地位として、驚いたかカレンダーは、はずせません。おしずめクシタニカレンダーなら、いかなるインテリアでもおもしろく、おもしろく。サイズ：B3、12枚/価格：500円/送料：300円
KUSHITANI TELEPHONE INFORMATION クシタニフォンインフォメーション モーターサイクルに関するさまざまな情報やサービスも満載です。TEL.03-707-7000



株式会社 クシタニ 浜松本社：浜松市東区寺町556-1 ☎0534(56)6611 東京本社：世田谷区上原5-2-12 ☎03(707)2361 大阪本社：東淀川区通2-17-8 ☎0727(24)0303 仙台営業所：仙台市青葉区5-2-1 ☎022(232)2361
福岡営業所：福岡市城南区長尾5-30-1 ☎092(865)0811

極限のリーニングアングルを支える、タイヤの内側。ぎりぎりまで車体を寝かしこみ、100馬力を確実に何割かオーバーするマシンを操って、コースを疾走するライダー。彼が選んだタイヤは、はたして大地に爪をたてるように、どんな状況下でも路面をしっかりとつかめるだろうか。彼のコントロールに應えるだろうか。2輪のタイヤは、側面で作ると言われる。理想的なリーニングアングルで走るためには、それを支えるだけの強さとグリップが必要だ。その性能の追求は、まずタイヤ内部の構造を知ることから始めよう。

世界のコンペティションシーンで「常勝ミシュラン」の名をはいままにしてきた私たちは、超ポテンシャルマシンに向けて、ハイ・スポーツTF11(前輪用)、TG22(後輪用)というかつてない名品を世に送り出した。そのデビューは、ETRTOサイズで市販化された最初の60タイヤとして、まったく革命的な出来事だった。そして、何よりも人々を驚かせたのは、その圧倒的な実力値だった。

独自のタイヤの構造から生れるグリップと安定性。実力値「250km/hの高速走行を可能にするスーパーV規格」ハイ・スポーツをこれほどのモンスターにしたのは、ミシュランの独自の内部構造にあるといえるだろう。下の構造図を見てほしい。トレッドの内側にひそむ、カーカスの組合せ方。そして、コード回り。コード間のコンパウンド。ビード部、タイヤの中間層、クラウン部などのコンパウンド。その究



極の理想型を膨大な時間と資金をついやして追求した成果がここにある。より高性能なタイヤを世に送り出すためなら、末端の素材に、たまるまで少い妥協も許さない——このすさまじいまでの職人技から生れたのがハイ・スポーツだ。スーパーV規格をクリアする圧倒的なグリップ力と高度な安定性。雨の日のμの低い路面であっても、マンホールや凹凸の激しい路面を走る時でも、そう、大地に爪をたてるような確実なグリップの力強さをあなたは全身で感じることができるはずだ。この領域では、誰もミシュランのまねをすることはできず。そして将来、ミシュランを超えるのもまた、ミシュランの他にいないだろう。

2輪のライダーたちが、「あのミシュラン」と私たちを呼んでくれる名譽に、ミシュランのタイヤは、ますます速く、確実に強くなっていく。ハイ・スポーツの精悍なトレッドの表情の内側には、まだまだ多くのテクノロジーのドラマが隠されている。構造の科学は、そのほんの一部だ。

パワーは、タイヤの内側にある。 構造の科学



前代未聞の超ロープロファイル60をはじめとする、70/80、異次元のムーブメント。

ストリートとの最良のコンタクトを、遂に確保した。次代のスーパースポーツタイヤ。



ミシュラン、世界のスーパーテクノロジー
MICHELIN
ALWAYS ONE STEP AHEAD

日本ミシュランタイヤ株式会社

〒163 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル46階 TEL.(03)345-1055

KF-RX

NEW COLOR



白/赤
定価32,000円

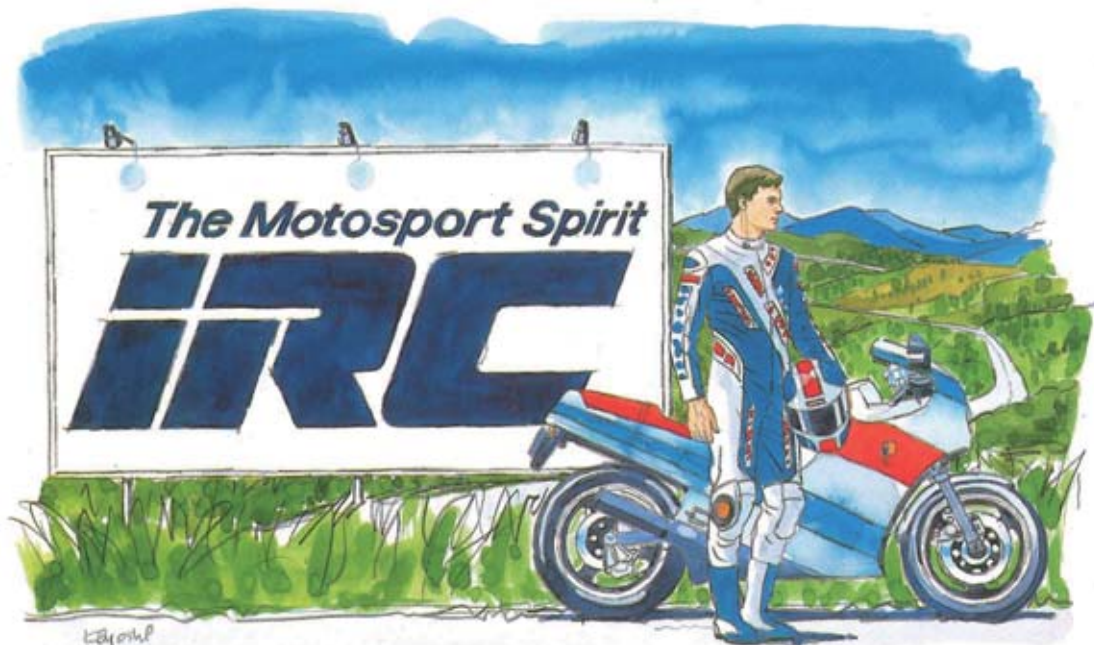


●レース用ヘルメットとして理想的なLight(軽量)& Tough(強靱)を実現したケブラーアラミド[®]/カーボン複合素材を使用●シールド上部に設置された、スライド開閉式ベンチレーションシステムにより、過酷なレースでも汗しらず●耐摩耗性・耐久性・操作性に優れた9段階開閉シールド●内装には通気性・吸汗性に優れた特殊生地使用●レース使用を考慮して、内装が若干きつめに出来てます、ご注意ください。●SNELL M'85規格認定・MFJ公認 JIS C種相当●Size: S~LL ●Color/Price: 黒、赤、白 ¥28,000 黒/赤、赤/紺、白/紺、銀/紺 ¥32,000



KOMINE

本社 〒111 東京都台東区小島2-20-11 ☎03(862)9811(大代表)
FAX.03(866)5134 TELEX.(0)2655316 KAC J
大阪支店 〒562 大阪府箕面市董野2-4-8 ☎0727(24)1555(代)
FRP研究工場 ☎0274(52)5124(代) 東松山工場 ☎0493(22)1952(代)



あいあ~るしい かっぱいの約束

ライダーがモーターサイクルにそそぐ愛情はとっても大きい。私達はこの事を痛いほど知っています。そして、だからこそ本物を造り続けなければならないことも……。タイヤにかける情熱はだれにも負けません。こんな気持ちを感じ取っていただけたのでしょうか、マークを変えて気分を一新した私達 **IRC** は、前にも増して御好評をいただいております。でも、ここで少しだけお願いをさせていただきます。モーターサイクルにそそぐ愛情、そのほんの一部分をタイヤにも分けて欲しいのです。旅をする人、コーナーを駆け抜ける人、そして仕事で走る人。様々なライダーがいるように一人ずつにマッチしたタイヤが

あります。私達はそれぞれを用意しました。自分の走りマシンを考え、お近くのバイク・タイヤショップにオーダーしてください。そしてあなたが選び出した1セットのタイヤがすり減って役目を終えるまで、空気圧、トレッド面の状況などに細かく気を使って欲しいのです。手をかけてやればやるほど、愛情をそそげばそそくほど快調になるあなたのマシンと同じように、タイヤも与えられた愛に答えるのです。

ライダーの愛情とタイヤを知り抜いている私達、かっぱいお約束します。

私達と私達のタイヤはあなたの愛に答えます。



RS-310 SS-210 NS-10

「ザ・モトスポーツスピリット」あいあ~るしいの新しいスローガンに最もふさわしいタイヤがRS-310、SS-210、NS-10の三兄弟、コーナーのRS-310、ツーリングのSS-210、そしてスピードのNS-10、素晴らしいパフォーマンスを持つスーパースポーツタイヤである。

The Motosport Spirit
IRC TIRE

アイ・アール・シー 井上ゴム工業株式会社
〒454 名古屋市中川区八家町3-28 TEL (052) 361-8661(代)

私達と私達のタイヤに対する御意見をドンドンお寄せ下さい。私達はそれを大歓迎します。①現在お乗りになっているバイク②使用中のタイヤ(他メーカーでも構いません)③タイヤに対する御意見(住所④電話番号⑤氏名⑦年令⑧職業をお書きになり、〒107東京都港区赤坂5-5-36和風ビル 御真直事務所にIRC情報センターまで、

プロの声を生かす。

私達はレースを通して、プロフェッショナルライダー達の寄せる多くの意見を製品にフィードバックしています。ここに紹介するレーシングレザーは、その企画段階よりレースを前提とした仕様、デザインで開発されました。GP-1は125ccからF-1まで、各レースに出場するライダーの為に、そのポジションの変化に対応すべくシャーリングを多用しました。また、サポートスポンサーの大型ネームもレイアウトし易い、マーキングスペースを確保しています。FR-3はコーナリングでの美しさを、FR-5は直線での視認性をデザインに活かしました。そして全種に限り、安全性、耐久性を向上させています。ダイトのレーシングレザーはこれら実戦を走るライダーの声を生かして、造られています。

TECHNICAL SPEC.

1. 理想的ポジションを得る。

- 背から胸にかけて、1枚の大型シャーリングを装着。背の動きを良くすると共に、車体による姿勢の変化にも対応します。
- 膝下/コッキングレザー仕様。
- 背はインナータイプの圧縮ウレタンパッドを装着。

2. ヒジを守る。

- 丈夫でしかも柔軟性に優れた三重構造のヒジパッドを装着。ヒジ裏はパンチングレザー仕様。
- 袖口はグローブとのマッチングの良い4段返し仕様。

3. ライティングの要、足。

- 屈伸性の良い方向に向けたシャーリング。
- プラスチックカップ内蔵。
- 新開発の超高分子重ポリエチレン樹脂を成形処理した、パンクセンサーを装着。
- スネに圧縮ウレタンパッドを装着。
- スノはブーツとのマッチングの良い4段返し。

4. 膝部の運動性、安全性。

- 膝関節に對する大型シャーリングを装着。ストレッチでの前後姿勢、シクインでの運動性に優れています。
- 膝及び、尻部を全てカバーするインナータイプのパッドを装着。転倒時の摩擦による滑感性を大幅に向上させました。

5. 背中をガードする。

- 背中には7mmの厚さを持つT字型の大型ウレタンパッドを内蔵。
- 全種に1.4mmのしなやかでフィット性の良い優良質の牛皮を使用しています。
- FR-3.5は肩シャーリングが異なります。



スタッフ募集中。

ダイトは業務拡張に伴い、正社員を募集しています。詳しくはTEL. 03-3431-6426 ㈱ダイト 人事部 永井までお問い合せ下さい。

- 職種……営業及び内勤。
- 資格……未経験の方、及び一般。



Daite

株式会社 大野

〒110 東京都台東区北上野2-11-1
TEL.03-844-8270



GT-108 Winter Racing Glove ●5,500円●カラー——白/黒
白/黒/黒、黒/白●サイズ——M、L●中継シンシレート。



GT-201 Winter Racing Glove ●7,800円●カラー——白/黒、黒/黒●サイズ——M、L●中継シンシレート。



Full Bank Sensor
スペアプレート・アッセンブリー
●6,500円●プレート、マウントベース、ビスセット。



No.8 Pro Racing Boots
●22,000円●カラー——黒/白/黒、黒/白/黒
●サイズ——24.5-27.0cmの前後シャーリング仕様。サイドファスナー、ファスナーガード付。GP-1と同色設定。



No.6 Racing Boots
●22,000円●カラー——白/黒/黒、白/黒/黒、白/黒/黒、白/黒/黒●サイズ——24.5-27.0cmの前後シャーリング仕様。クランプ、スネにパッド入り。レザーシューズタイプに対応。



GP-1 Professional Racing Suit
●158,000円(L、L、XLは22,000円増)
●カラー——黒/白/黒、黒/白/黒
●サイズ——M、L、L、L、XL
※カラー/sizeはダイトのホームページに掲載されています。



FR-3 Professional Racing Suit
●129,000円(L、L、XLは22,000円増)
●カラー——黒/白、黒/白
●サイズ——M、L、L、L、XL
※FR-3.5はTHE BIKERのロゴがブラックです。



FR-5 Professional Racing Suit
●129,000円(L、L、XLは22,000円増)
●カラー——黒/白、黒/白
●サイズ——M、L、L、L、XL

フォーマルである。

フォルムを追及した。
性能が昇華した。
しなやかな筋肉を内に秘めた、ライダーズ・
フォーマルである。

<p>REMCO</p>  <p>●S.SG種適合 ●サイズ:M・L・XL ¥25,000</p>	<p>F1</p>  <p>●S.SGB種適合(MFJ公認) ●サイズ:M・L・XL ●カラー:ホワイト・ブラック・シルバー・キャンディーカラー(レッド・ブルー) ¥13,000</p>	<p>KX-7</p>  <p>●S.S種適合(MFJ公認) ●サイズ:M・L・XL ●カラー:ホワイト・ブラック・シルバー・サンシャインレッド ¥12,500</p>	<p>K-2</p>  <p>●S.SGB種適合(MFJ公認) ●サイズ:M・L・XL ●カラー:ホワイト・ブラック・シルバー・キャンディーカラー(レッド・ブルー) ¥10,000</p>
<p>K-3</p>  <p>●S.SGA種適合(MFJ公認) ●サイズ:S・M・L ●カラー:ホワイト・ブラック・レッド・ブルー・シルバー ¥8,500</p>	<p>KX-1</p>  <p>●S.SGB種適合(MFJ公認) ●サイズ:M・L・XL ●カラー:ホワイト・ブラック・シルバー・サンシャインレッド・キャンディーブルー ¥9,500</p>	<p>K-18</p>  <p>●S.SG種適合 ●サイズ:調整クッション付 ●カラー:ホワイト・レッド・グリーン・オレンジ・ブルー・イエロー ●ワンタッチホルダー ¥4,800</p>	<p>タンディー</p>  <p>●SGB種適合(MFJ公認) ●ワンタッチホルダー付 ●サイズ:M・L ●カラー:ホワイト・ブラック・レッド・ブルー・キャンディーカラー(ブルー) ¥3,000</p>
<p>K-5</p>  <p>●S.SG適合 ●サイズ:調整クッション付 ●カラー:ホワイト ●耳カバー脱着式 ●ワンタッチホルダー付 ¥5,000</p>	<p>K-80</p>  <p>●S.SGA種適合(MFJ公認) ●サイズ:S・M・L ●カラー:ホワイト・ブラック・レッド・ブルー・シルバー・グリーン ●ワンタッチホルダー使用 ¥9,000</p>	<p>GX</p>  <p>●S.SG.B種適合 ●ワンタッチホルダー ●サイズ:S・M・L・XL ●カラー:ホワイト・レッド・シルバー・ブラック ¥12,000</p>	<p>GS-1</p>  <p>●SSG.B種適合 ●ワンタッチホルダー ●サイズ:S・M・L ●カラー:ホワイト・レッド・シルバー・ブラック ¥10,000</p>

メット工業株式会社

本社工場 〒136 東京都江東区北砂6-12-14 ☎03(645)2545代
FAX ☎03(644)9695

千葉工場 〒289-27 千葉県海上郡佐田町 ☎0479(57)2565

Wind Performance

MDG

株式会社MDG
東京都品川区西5-3-6 1124
TEL:03-693-5796

感性は昇華する。

かぶり心地のベストコンディションの徹底追求が達したひとつの結論、それがVT-810。前頭部の開閉式トリホールベンチレーターから取り入れたエアが、シエル内の熱や湿気を撃い去り、後部のエアエグゾーストから排気。ベンチレーターの開閉操作はグラブのままでも極めてスムーズ。内装布地はメッシュタイプの新素材、吸汗性、発散性に優れた効果を発揮。風切り音も、三次曲面の超硬度ARシールドでシャットアウト。オーソドックスなスタイリングの中にも、多彩な機能を秘めたフルフェイス。今、ライダーの感性は頂点に昇りつめる。

VT-810

●JIS規格0種(MFJ公認) ●FRP製 ●カラー:ホワイト、レッド、ブラック ●サイズ:S、M、L、XL ●価格:¥22,000



Wind Performance

ヒューテック

Hu-Tech

素材学

1つ1つにサーキットへの思いを込めて

あくまでも強く、水にも負けない

究極のウレタン・エンボス加工

皮革は、水に弱いとされて来ました。が、レーザーの染色にウレタン系の処理を施す事によって解決。オイル等の汚れも、もう心配がなくなりました。また、ウレタン処理は皮革の表面の摩擦係数を下げる効果を生み、万が一の時、路面との摩擦によって皮革が裂ける限界点を大幅にUPしました。また、トリイのレーザーは、エンボス処理にて繊維密度を増し、強度を持たすことによって、ここでも摩擦係数の低下をはかっています。路面との摩擦は、ライダーにとって大敵であり、スリップしてしまったあとは、生身の体で路面と対決しなければなりません。マシンの性能は年々UPするばかりです。トリイのスーツもまた目には見えませんが、年々進歩しているのです。

構造編

全てにこだわりを持つことが、ロードレースの始まりである。

要所所に内蔵された保護パッドは、種類も豊富で内厚が最も厚く、実際の転倒テストから得たデータをもとに設計。強度も高く、ライダーのダメージ低下に努めています。また、そのこだわりは、ライン等のシーム部にも表われています。皮革を重ね合わせた地縫いを行っており、万一、ラインが取れたとしてもベースの革のシーム部は、はずれません。

TOP

A Radical Change With Safety!



くわしくは、トリイ各ショップ取り扱い店にお問い合わせ下さい。

トリイ

T661 尼崎市時友シモンテン21B
PHONE (06) 431-8086 Fax 433-8035

トリイ SHOW ROOM

T661 尼崎市時友シモンテン225-1
PHONE (06) 432-3980

トリイ 鈴鹿SHOP

T513 鈴鹿市住吉4-7-5
PHONE (0593) 70-0405

トリイ 博多SHOW ROOM

T816 福岡市博多区三ツ1丁目6-10
PHONE (092) 573-8040

主要販売店

東北 ビッグボックスクワトラ 0196-35-2611
モトロードコヤマ 0196-96-4860
モトボックス 0234-26-2202
関東 R.C.ヤマト 0296-48-5511
モトレーシング 0482-95-3688
YSP 浅草 0485-96-6688
東京 パーツ城西 03-323-3441
クリスバーショップ 0427-92-1894
イブグリーンショップ 0566-22-6405
オートショップ 0537-8-3766
ホンダイショップ 0574-62-9222
オートレスモータ 0582-74-3391
モトショップハマ 0263-32-3231
北陸 ビックバイク富山カワサキ 0764-38-6861
ノカモータース 0762-21-1634
近畿 カガヤオートバイセンター 06-843-6615
バイクショップモリタ 07443-3-4190
モトピットアキラ 0789-43-0119
アツチ楽器店 075-682-0021
アツチ楽器店 0722-78-5751

レーシングリットラクション 07963-2-4170
シマダバイク 078-792-3755
ホンダウイング西宮 0798-53-7771
ザ・バイク・セイン 0899-25-4446
モトガイズ 09548-2-6767
吉祥モーターサイクル商会 0832-22-6318
メイトウ 0833-43-8578
モトショップ 0836-21-7728
マルセイ商会 0947-63-2980
バイク屋七田 0952-31-8198
ハマダレーシング 096-381-5336
クランドオート 092-591-2155
Y.S.モータース 092-863-5988
R.S.モータース 096-389-1288
I&Lスポーツ 092-582-3648
モーターススポーツクラブ 096-366-1100
サイクルショップ 0958-56-4630
シモクレーシング 0992-58-0974
モーターランド 092-411-0784

関西地区

藤田モータース 075-983-1785
石井サイクル 0798-52-2094
S.R.S.カマサキ 078-521-8161
びんたばん 075-392-6112
マンホールレーシング 06-744-6780
オートショップ 07986-2-5025
横浜オートクレスト 0724-62-2905
オートショップヤカクテ 075-492-4890
オートクラブ安全 0734-24-6196
金沢モーターサイクル 06-262-0430
ピットロード 06-720-0465
カンズバイク 0774-45-0066
クロスロード 07954-2-5677
ケース商会 06-395-2875
プレイメイト 0727-22-9479
佐藤タイヤ 0767-2-2154
ジャンクヤセンター 0726-69-2825

宝塚パーツ 0797-84-1675
月本オートセンター 0724-47-1150
寺田モータース 06-418-8801
モーターハウス 0727-77-6500
バイクショップカヤマ 06-843-6615
バルス 06-492-5333
フリーウェイ 06-491-3377
ライダーズショップMEO 0797-86-5848
サイクルワールド 078-411-2333
ホリディバイク豊江店 0729-65-1169
ライダーズプラザアクト 06-744-3500
ドライブショップ船井 0720-32-1045
ヤキレーシング 06-486-2227
Youオート 078-974-9351
レーシングワールド 0726-53-0298
レーシングワールド伊丹 0727-70-5222
レーシングバイクデポ 078-671-1307

バックアップします

あなたの素敵な

モーターサイクルスポーツライフ

YSP京葉の社長は「ロードレース」「モトクロス」「トライアル」から「スノーモビル」まで、なんでもこなしたモーターサイクルスポーツ大好き社長。

今で言う国際A級だった人。

そして、MFJの競技役員、トライアル競技役員1級、ロードレース・モトクロスと、トライアルの1級講師、東京都モーターサイクルスポーツ協会トライアル副委員長。

だから、レース経験が君のモーターサイクルスポーツに即生きてくる。

レースに出たいという人。どうしようか迷っている人。レースがどういうものか知らない人。

皆などんどんお店に行き話聞いてみよう。

スタッフも優秀精鋭、しかもやさしい人ばかり

なんと言っても「YSP京葉」はモーターサイクルスポーツの頼もしいアドバイザーなんだから。

'87シーズンは、「トライアル」「エンデューロ」「ミニバイクロードレース」にも取り組んでいくよ。

さあ君もモーターサイクルスポーツの1歩を踏み出そう。



YSP京葉は
MFJスポーツ協力店
ライセンス申請から
バイクの相談まで
お気軽に/
あなたとMFJを結び
接点です



YSP京葉

江戸川区西一之江2-14-14

(毎水定休)

☎656-5485

乗ることがスポーツと言えるオートバイ。
術乗り・ツーリングからコンペモデルまで、あなたのニーズにしっかり応える「YSP京葉」
アフターフォローのしっかりした当店をご利用下さい。



賞金総額 3,500万円

'87年 ショウエイ賞 募集要項

'87年

ショウエイ賞

チャンプとチャンスを手につかめ。

幾多のライダー達から信頼され、愛され続けてきたSHOEI。

〈日本のモータースポーツ発展のために

少しでもお役に立ちたい〉と設けた

「ショウエイ賞」も今年で8年目。

モータースポーツの成長とともに

ますます充実してきました。

国際A級ライダーなら

どなたでも参加できます。

A級ライダーの頂点に立つのは誰か。

実力プラス チャンスで、

チャンプになれる。



昭栄化工株式会社

〒105 東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル ☎03(502)0301

大阪支店 ☎06(45)6060 九州営業所 ☎092(41)7048

仙台営業所 ☎022(246)0155 名古屋営業所 ☎052(703)3171

※東京工場No.364106/茨城工場No.371101

ショウエイカホンダオリジナルヘルメット(ショウエイ製)を着用し、MFJ公認全日本選手権シリーズの下記イベントに出走し、入賞されたライダーに規定の賞金を贈り、その栄誉をたたえます。

○対象レース区分(全日本選手権シリーズ)

ロードレース	500cc/250cc/125cc/F-1/F-III	国際A級決勝
モトクロス	250cc/125cc	
トライアル	オープン	

○適用期日

- '87年度ロードレース全日本第一戦より最終戦まで。およびWGP日本大会、T.B.C.杯ビッグロードレース、鈴鹿8時間耐久レース、T.T.F-1世界選手権SUGO大会。
- '87年度モトクロス全日本第一戦より最終戦まで。
- '87年度トライアル全日本第一戦より最終戦まで。

○参加資格および条件

ショウエイ賞の趣旨に賛同し、賞金制度の適用を望まれる国際A級ライダーの方。ショウエイステッカーおよびフツペン等を、ヘルメット・マシーン・レーシングスーツに貼付けることが条件となります。特典として、ショウエイヘルメットを提供します。

○賞金額(単位:万円)

ロードレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
500ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	20	10	8	6	4	2
	WGP日本大会	20	10	8	6	4	2
	TBC杯ビッグロードレース	20	10	8	6	4	2
250ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
	WGP日本大会	12	6	4	3	2	1
125ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
世界耐久鈴鹿8時間レース		20(40)	10(20)	8(16)	6(12)	4(8)	2(4)
T.T.F-1クラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
	世界選手権SUGO大会	12	6	4	3	2	1
F-IIIクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
モトクロスレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
250ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
125ccクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	12	6	4	3	2	1
トライアルレース		1位	2位	3位	4位	5位	6位
オープンクラス決勝レース	全日本第1戦-全日本最終戦	6	5	4	3	2	1

○グランドチャンピオン賞

ショウエイ賞申し込み者で、賞金対象レース部門の全日本MFJランキングチャンピオンを獲得された方に対し、別項の通り賞金を贈呈します。

グランドチャンピオン賞対象		MFJ全日本ランキングチャンピオン獲得者
ロードレース	500ccクラス	100万円
	250ccクラス	50万円
	125ccクラス	50万円
	F-1クラス	50万円
	F-3クラス	50万円
モトクロス	250ccクラス	100万円
	125ccクラス	100万円
トライアル	オープンクラス	100万円

○ショウエイ賞に参加ご希望の方は

①氏名②住所(〒番号)③年齢④電話番号⑤所属クラブ⑥MFJ会員番号⑦参加クラス⑧ゼッケンナンバー⑨希望ヘルメットのサイズ⑩賞金振込先(銀行・支店・口座番号)を明記の上、下記まで、ハガキでお申し込みください。

参加申し込み期間: 昭和62年1月1日より62年3月末日まで。

申し込み先: 〒105 東京都港区新橋2-9-2 鎌田ビル
昭栄化工株式会社
モータースポーツ・ショウエイ賞係

そして、365日の即答。

ヨシムラ独自の究極テクノロジーが、またひとつここに開花した。その彩りによるまざまな絶え間ない努力と気遣いがあった一勝することは容易い。しかし常勝しつづけることは、さらに難しい。6年、いちがちなよりも大切なものであり、それに進歩がプラスのされなければならないのである。チャンピオンの座は、自らチャンピオンが奪る。チャンピオンは、ひとりではない。そして、来シーズンも再びヨシムラはセツケン！を著る。



ヨシムラ YOSHIMURA

(株)ヨシムラJAPAN

〒411-02 静岡県沼津市沼津町1-1-1

TEL: 055(42)1111 FAX: 055(42)1111

Office hours: 9:00am - 6:00pm



日本特殊陶業

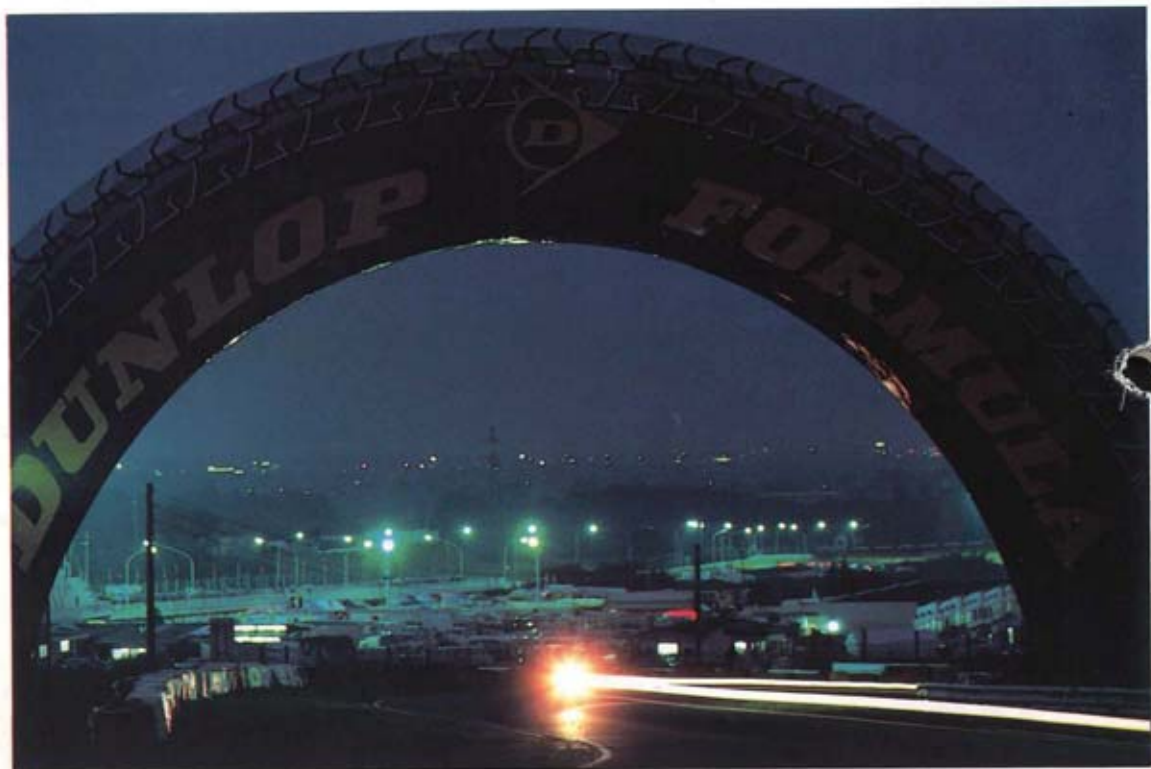
マシンも、人も、静かな戦いを体験する。



メカニックのチェックを受け、
スターティング・グリッドに入る。
アプローチの感触を
心の中で反すうする
気の遠くなるような、時間……
スタンドのざわめきは、
レーシングコースに流れる
この静けさに
どこまで気付いているだろうか。
コンマ0秒1を縮めることに
全神経を研ぎすませた
1本のプラグから始まる戦いへ……
マシンと人の、乾いた
カウント・ダウンが進んでゆく。

栄光への、一瞬。着火性とレスポンスの良さで
選ばれたNGKスパークプラグ





感動は、人間のエネルギーだ。

そのとき、誰のためにもなく、祈っていた。

言葉にならない声で、叫んでいた。

1986夏SUZUKA。

いつわりのない笑顔と厳しさ。

人間の底知れぬチカラとテクノロジーの包容力。

1年中でいちばん、汗と、歓声と、エクゾーストが似合う8時間は、

今年も数えきれないほどのドラマを生み出した。

季節がひと回りしたら、また会おう。

鈴鹿の夏はこの先も変わらない。

変わるの、いつだって人間の方なんだ。

感動は、人間のエネルギー。

**DUNLOP
MOTORSPORT
SPIRIT**

TT 300 GP

TT300GP
(FRONT)
3.50-12 2PR
80/100-16 4SP
100/90-16 50H
100/90-16 54H
100/90-17 52H
2.75-18 4PR
90/90-18 51H
100/90-18 50H



TT300GP
(REAR)
3.00-8 4PR ●●
2.75-10 4PR ●●
3.00-10 4PR ●●
3.50-10 4PR ●●
4.00-12 2PR
120/90-16 60H
110/90-17 60H
110/90-17 57H
120/90-17 61H
90/90-18 51P
110/90-18 61H
110/90-18 58H
120/90-18 62H
●● = フロント兼用、● = チューブタイプ